

KDDI Knowledge Suite

GRIDY BI Powered by Dr. Sun EA

操作ガイド

(1.0 版)

2011年10月24日

KDDI 株式会社

目次

■1 GRIDY BI とは.....	2
1-1 GRIDY BI でできること.....	2
1-2 利用を開始するには.....	2
■2 チャートの要素.....	3
2-1 チャートの種類.....	5
■3 利用パターン.....	8
3-1 受注見込分析を利用する	8
3-2 フェーズ別分析を利用する	11
3-3 認知経路別売上分析を利用する.....	14
3-4 顧客別売上分析を利用する	19
3-5 営業担当者別売上分析を利用する.....	22
3-6 受注・失注状況分析を利用する.....	25
■4 基本操作	29
4-1 チャートの種類を変更する	29
4-2 チャートの表示を変更する	30
4-3 表示軸を変更する.....	33
4-4 操作状態の「保存」と「取り消し」をする	34
■5 ダイナミックチェンジアイコン.....	35
5-1 ダイナミックチェンジアイコンを利用する	35
■6 チャートのデザイン.....	47
6-1 折れ線や棒チャートを変更する.....	47
6-2 集計表のスタイルを変更する.....	49
■7 データの絞り込み.....	52
7-1 データ絞り込みを行う	52
7-2 特定のデータのみを表示する.....	55
7-3 非表示データを「その他」としてまとめる	57
■8 ズーム表示	59
8-1 行軸、数値軸をズームにする.....	59
■9 データの並び替え.....	61
9-1 データ値の大小を基に昇順・降順に並び替えをする.....	62
9-2 凡例の名前順に昇順/降順に並び替えをする	63
■10 ドリルアクション.....	64
10-1 詳細データを表示する（ドリルダウン）	65
10-2 要約データを表示する（ドリルアップ）	68
10-3 明細データを表示する（ドリルスルー）	69
■11 チャートデータのダウンロード.....	70
11-1 チャート画像/データをダウンロードする	70

■ 1 GRIDY BI とは

GRIDY BI とは、「Knowledge Suite (ナレッジスイート)」のアプリケーション群を構成するサービスの 1 つである GRIDY SFA (営業支援) の中に存在する「分析機能」です。

ウイングアークテクノロジーズ株式会社の Dr. Sum EA 「Motion Board」をベースとした SaaS 型の BI ツールが搭載されています。画面上にアイテムと呼ばれる小さな画面を配置することで、パソコンのディスプレイをホワイトボードのように活用します。

※BI とは・・・Business Intelligence(ビジネス・インテリジェンス)の略称。

企業内の業務システムなどの膨大なデータを蓄積・分析・加工し、それによってビジネスにおける意思決定に活用する手法のことを指します。

または、意思決定の仕組みや活動、そのような活動を支援するシステムやツールを指す場合もあります。

1-1 GRIDY BI でできること

GRIDY BI では、以下の分析機能を用意しています。

- ・見込み：受注見込みフェーズごとに分析できます。
- ・フェーズ：フェーズごとに分析できます。
- ・認知経路：認知経路ごとに分析できます。
- ・顧客別：顧客ごとに売り上げを分析できます。
- ・部署別：営業担当者や部署ごとに分析できます。
- ・種別分析：顧客の種別ごとに分析できます。
- ・受注：受注状況を分析できます。
- ・失注：失注状況を分析できます。

上記は、標準状態となります。

さらに自分なりに表示をカスタマイズすることで、さまざまな角度からの表示も可能です。

お好きな表示設定にしてご利用ください。

HINT さらにカスタマイズして分析を行いたい企業様は、担当営業にお問い合わせください。

1-2 利用を開始するには

GRIDY BI を利用するには、以下の条件が必須となります。

- 1) 管理者より、利用権限を付与されているかご確認ください。必ず GRIDY SFA が利用できる状態にある必要があります。(権限の付与については、[設定] - [KS 利用者設定]にて権限を[付与する] とします。)
- 2) GRIDY SFA にて、顧客情報や営業報告を入力する部署（営業部等）の情報が閲覧できる権限を持っているかご確認ください。([設定] - [部署管理]にて部署の閲覧権限を確認します。)
- 3) GRIDY SFA に[顧客]、[営業報告]、[商談]の情報が必ず入力されていることをご確認ください。

HINT GRIDY BI は、[商談]情報を基にデータを形成しています。

必ず商談情報を入力していくよう、運用時に徹底することが必要です。

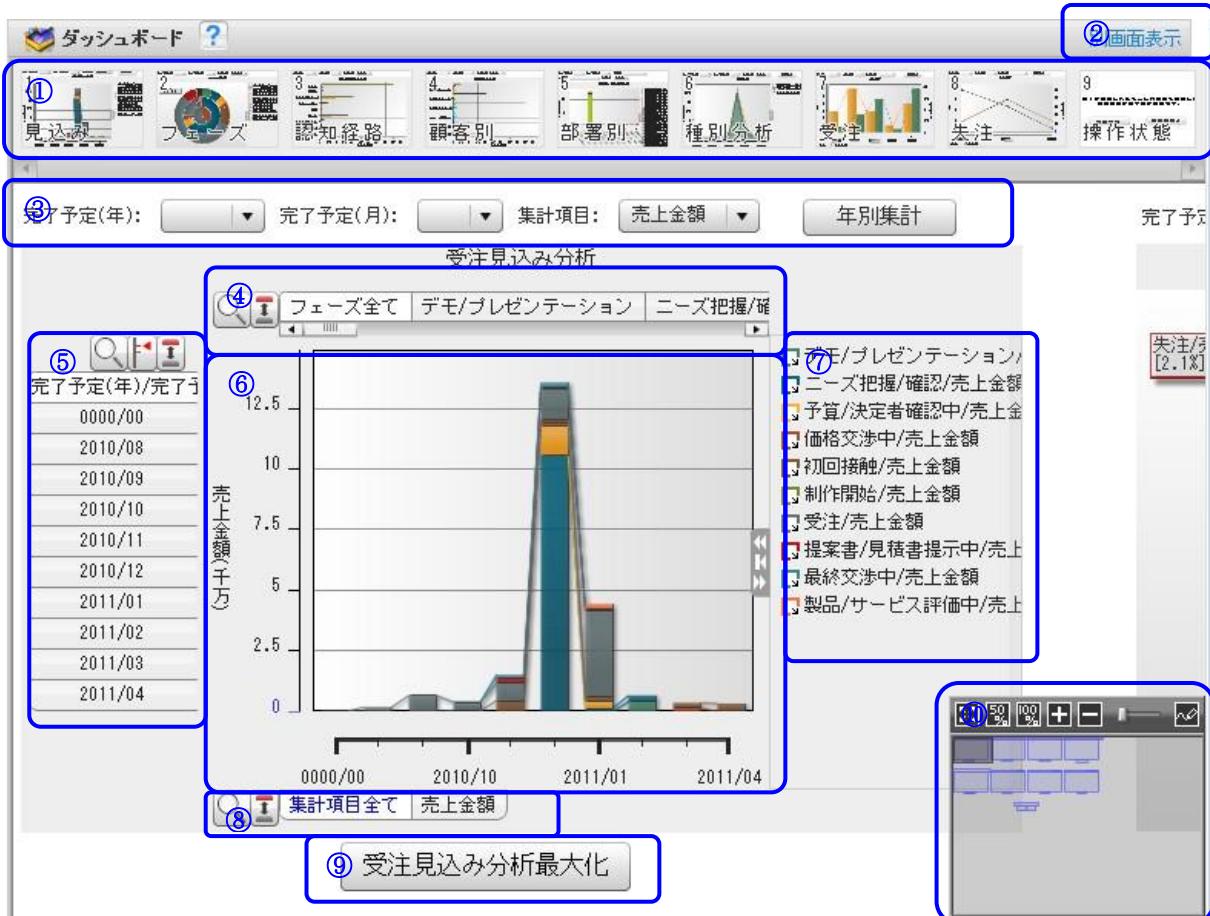
また、商談の「完了予定日」を入力することも、分析を行ううえでは必要になります。

SFA の利用方法については、「GRIDY SFA 操作ガイド」を参照ください。

■2 チャートの要素

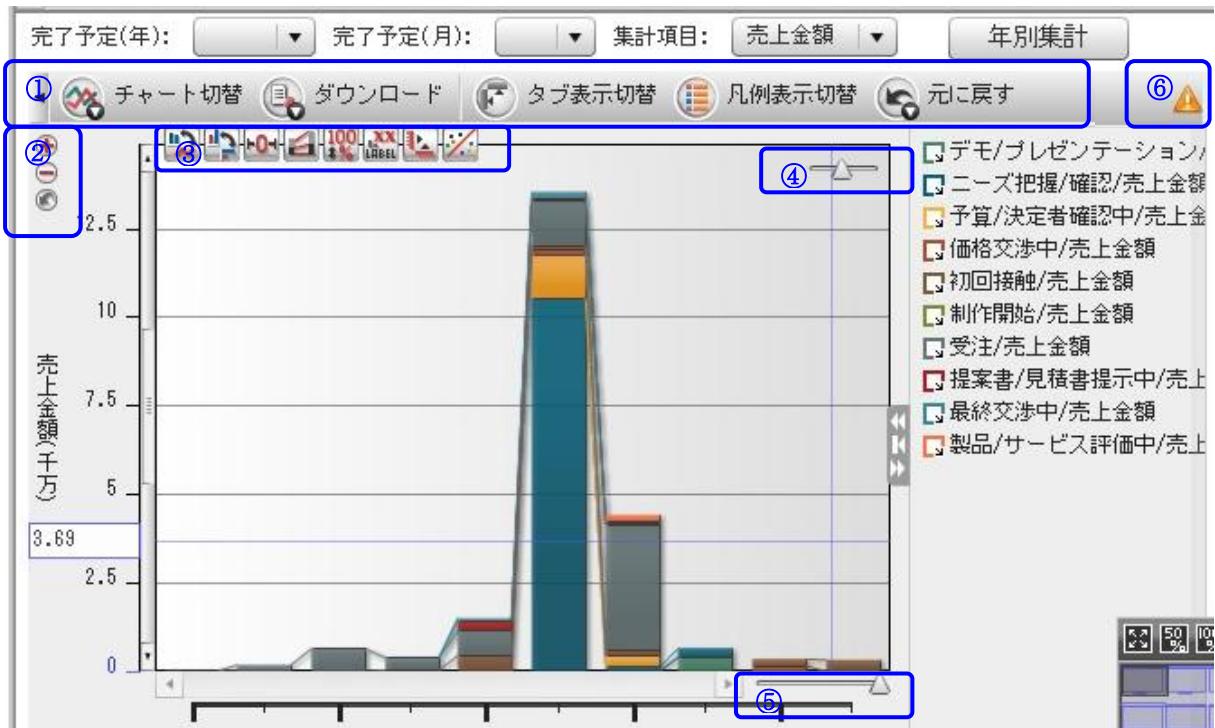
[ダッシュボード]アイコンをクリックすると、下記の画面が表示されます。

画面の見方を紹介します。



- ①チャート見出し : 8種類のチャートがあります。クリックすることで各チャートへ移動します。
- ②別画面表示 : 別画面でBIのみを表示することができます。クリックすると、別画面が立ち上がります。
- ③絞り込み/指定 : 絞込み、表示項目を指定します。予め入力されている情報を元に、絞込むことができます。
- ④列項目タブ : 集計実行時に列情報をもとに作成されるタブです。タブを選択することで、表示したい項目データを絞り込むことができます。
- ⑤行項目タブ : 集計実行時に行情報をもとに作成されるタブです。タブを選択することで、表示したい項目データを絞り込むことができます。
- ⑥チャートエリア : 折れ線チャートや棒チャートなどが表示される領域です。
- ⑦凡例 : 表示されているチャートの凡例です。項目データの表示、非表示を指定することができます。
- ⑧集計項目タブ : 集計実行時に集計項目をもとに作成されるタブです。タブを選択することで、表示したい項目データを絞り込むことができます。
- ⑨最大化 : 画面内で該当のグラフを最大化表示します。
- ⑩操作ボード : BIの画面全体を示しています。クリックすることで、表示画面の移動や拡大縮小ができます。

MEMO チャートエリアにマウスを持っていくと、以下の機能が表示されます。



①チャートメニュー: チャートの表示の変更、チャートデータのダウンロードなど各種操作がおこなえます。設定内容によっては、表示されないメニューもあります。また、チャート画面のサイズが小さいときには、アイコン表示のみになります。

MEMO チャートメニュー左端の三角をクリックするとチャートメニューを折り畳むことができます。畳んだ状態では、三角形の向きは反対になります。これをクリックすると、メニューは元の状態に戻ります。

②ズームイン/ズームアウト : 行項目の表示（単位）を拡大縮小して表示します。

③ダイナミックチェンジアイコン : チャートの種類の変更、縦横表示の切替、ラベル表示の切替など、各種操作がおこなえます。ダイナミックチェンジアイコンは、チャートの種類によって変化します。

④太さ調整 : 表示される棒や折れ線の太さを変更することができます。

⑤表示範囲 : 表示範囲を拡大縮小することができます。

⑥！ : グラフの表示が初期状態から変更されていることを示しています。「初期状態のまま」 または [操作状態のクリア]を行った場合には表示されなくなります。

2-1 チャートの種類

チャートには、以下の表示種類があります。



折れ線チャートは、集計値の推移を表示するのに適しています。

各列は、折れ線チャートの線で表現され、線上の点が各行項目に沿った集計値を表します。行項目名は横軸項目に使用され、各列のデータは個々の線で表示されます。

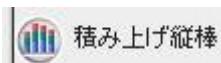
MEMO たとえば、半期という期間に、それぞれの地域でどのように売上が推移しているか等を確認できます。



縦棒

棒チャートは、様々なデータを表示するのに適しており、もっとも一般的に使用されるチャートタイプです。行項目によって集計項目をグループ化し、列項目と集計項目ごとに棒チャートが表示されます。各棒チャートは列項目ごとに色分けされます。MotionBoardには縦棒チャートと横棒チャートの2種類があり、スタイルはほぼ同様です。横棒チャートは、縦棒チャートを時計回りに90度回転したチャートです。

MEMO 一定期間内の推移のほか、地域ごとの月別販売数を比較するなど項目同士を比較する場合などに使用します。



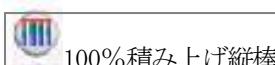
積み上げ横棒

積み上げ棒チャートは、各行項目の累積データを表示するのに適しています。

積み上げ棒チャートでは、行項目値の合計の中でそれぞれの列がどのくらいの割合になっているかを表すことができます。

1つの積み上げ棒は、行項目によってグループ化されたデータの合計となります。複数の集計項目を表示している場合は、集計項目ごとの積み上げ棒となります。

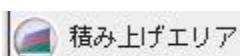
MEMO 全国売上の中で、各地域の割合や推移を把握したいときなど、全体に対する各項目の比較をおこないたいときに使用します。



100%積み上げ横棒

100%積み上げ棒チャートは行項目の合計を一律100%とし行項目値の合計の中でそれぞれの列がどのくらいの割合になっているかを表すことができます。複数の集計項目を表示している場合は、集計項目ごとの積み上げ棒となります。

MEMO 全体を100として、各地域の割合を把握したいときなどに使用します。各地域が全体に対して占める割合をより正確につかめます。



積み上げエリアチャートは、折れ線チャートと積み上げ棒チャートの機能を両方兼ね備えています。

折れ線チャートの下の部分が色の付いた状態で表示されます。各エリア部分は、積み上げ棒チャートのように積み上げられ表示されます。各列のエリアサイズは各列のデータの合計値になります。

MEMO エリア表示することで、一定期間における変化の大きさを量として把握できます。



100%積み上げエリア

100%積み上げエリアチャートは、折れ線チャートと100%積み上げ棒チャートの機能を両方兼ね備えています。折れ線チャートの下の部分が色の付いた状態で表示されます。各エリア部分は、積み上げ棒チャートのように積み上げられ表示されます。

各列のエリアサイズは、各列データの合計を一律100%とし、行項目値の合計の中でそれぞれの列がどのくらいの割合になっているかを表すことができます。

MEMO 一定期間内での、全体に対する変化の大きさを量として把握できます。



円

円チャートは全体に対するデータの割合を表示するのに適しています。

例えば、円チャートは1つの行項目ごとに1つの円で表します。各集計項目は円の一片として表示され、サイズは値に比例します。複数の集計項目が存在する場合には、円を同心円状に積み上げて表示します。ただし、列項目分割の場合のみ、1つの列項目データを円で表し、集計項目を円の一片として表示します。

MEMO 年間売上の地域ごとの比率や要素を強調して比較したいときなどに使用します。



レーダー

レーダーチャートは列を頂点に持つ多角形で集計結果を表現します。複数の項目を比較してバランスや傾向を表現するのに適しています。

頂点を集計項目/列項目/行項目と切り替えることにより、様々な角度から集計結果を分析することができます。

MEMO 地域別の設備費を月単位に描画することで、もっとも費用がかかる時期や地域を一目で把握できます。



ウォーターフォール

ウォーターフォールは、ひとつ前の行項目の値との差分をグラフ化したもので、要素を選択すると内訳が表示されます。また、2つの集計項目データの差を比較して表示することができます。

チャートの要素をクリックすると、その内訳を表示することも可能です。

MEMO 前の月との売上げ差分のみを抽出して、売上げ増減の変化推移を確認できます。

また、予算と売上げの差がいつの時点で、どのくらいずつ発生したのかをウォーターフォールの形で確認できます。



集計表

集計表は、データを帳票で表示します。元データの詳細な数字や合計値の確認がしやすくなります。

集計表ではフォントサイズや文字色、背景色、セルのサイズなどのスタイルを変更し、ユーザーの操作状態として保存することができます。

MEMO 集計表では範囲選択やコピー、ペーストなど帳票に対しておこなう操作を一通りおこなえるほか、Excel形式のファイルとしてダウンロードすることもできます。

■ 3 利用パターン

GRIDY BIの利用パターンの基本的な操作について例を挙げて説明します。

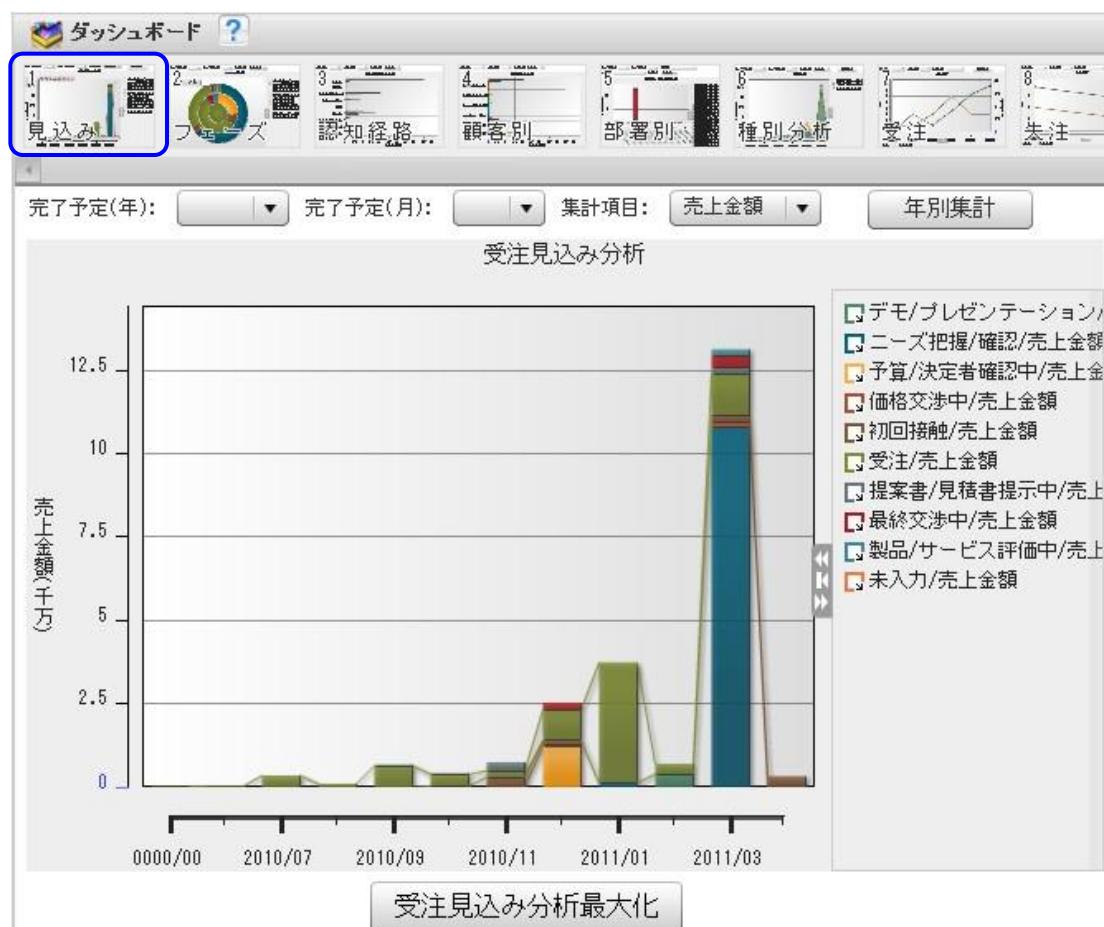
3-1 受注見込分析を利用する

以下のグラフ表示を閲覧したい場合の手順を説明します。

『<2011年3月～2011年8月（当月より6カ月間）に受注見込の売り上げ予定金額を見たい』

※フェーズは各企業の管理者にて設定したものが反映されます。

1 [ダッシュボード]をクリックし、[1 見込み]をクリックします。

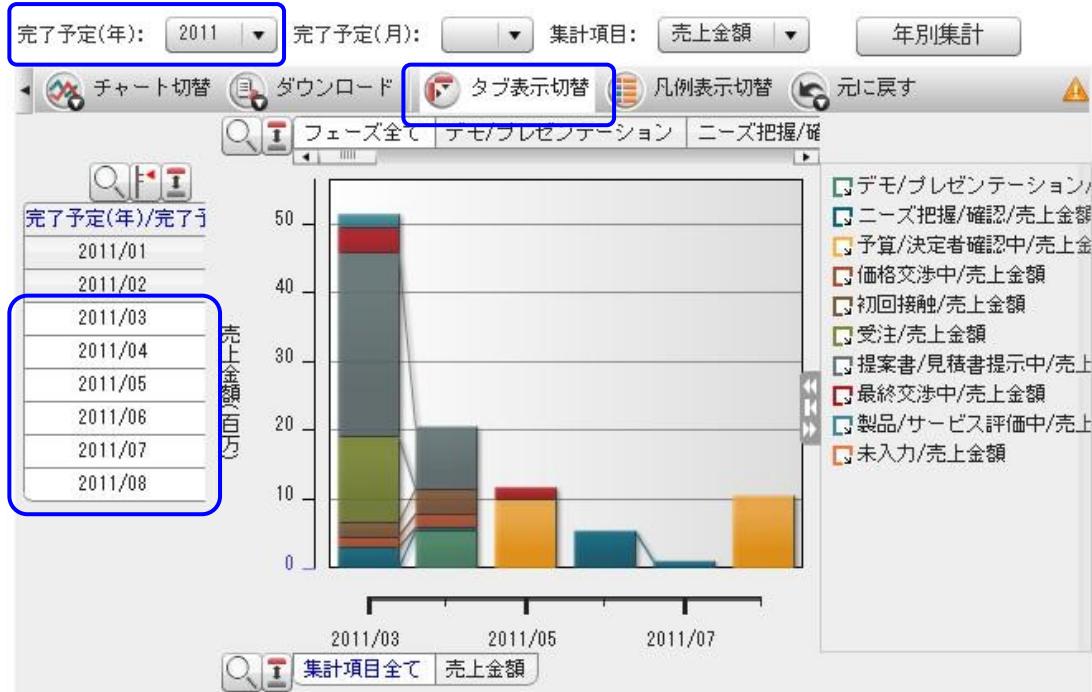


MEMO SFA商談情報に入力されている以下情報を基に形成しています。

- * 「完了予定（年）、完了予定（月）」・・・完了予定日
- * 「売上金額」・・・・・・・・・・・・・・・・ 売上金額
- * 「件数」・・・・・・・・・・・・・・・・ 商談登録件数

2 [タブ表示切替]をクリックして、完了予定(年/月)を指定します。

HINT 2011年3月以降6カ月間のデータを閲覧したいので、完了予定年月 [2011/03～2011/08] までを [Ctrl] を押しながらクリックで選択します。予め、完了予定(年) プルダウンを [2011] で絞り込むと便利です。



3 ラベル表示を設定します。

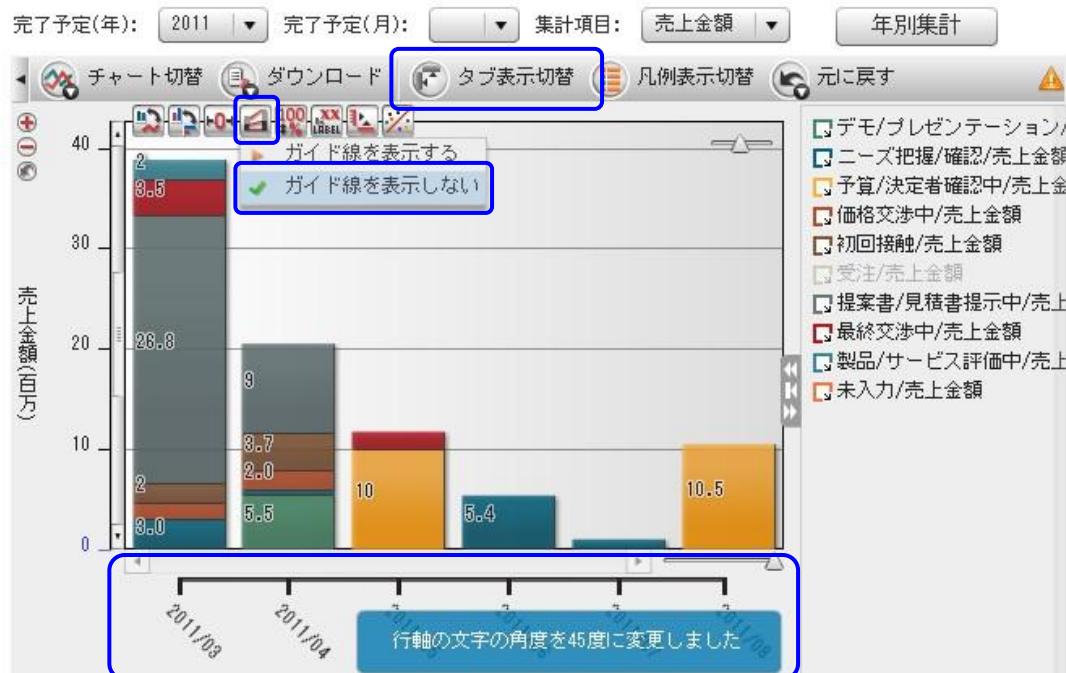
チャートエリアにマウスを合わせると表示される [LABEL] アイコンをクリックして、[データラベルを自動で表示] にチェックを入れます。



4 ガイド線と行軸ラベル表示を設定します。

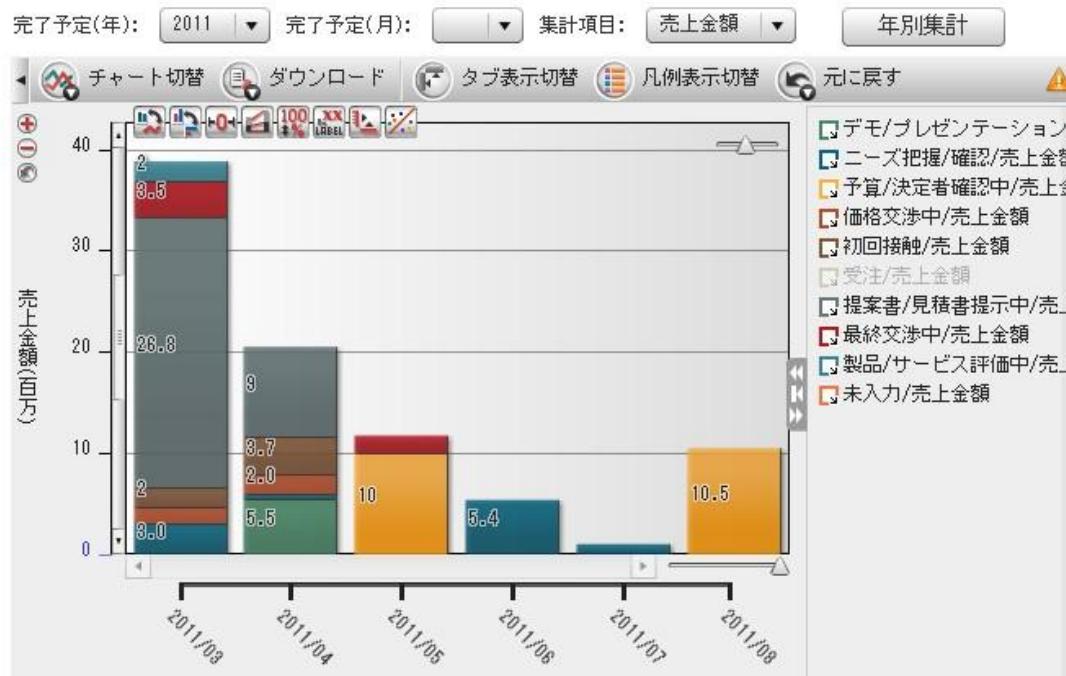
HINT

- ・チャートエリアにマウスを合わせると表示されるアイコンをクリックして「ガイド線を表示しない」にチェックを入れます。
- ・行軸のラベルエリアをクリックすると、表示が変更できます。
- ・[タブ表示切替] をクリックしてタブを非表示にすることで、グラフを大きく見せることができます。



5 設定したグラフが表示されます。

※2011年3月～2011年8月（当月より6カ月間）の受注見込の売り上げ予定金額のグラフ



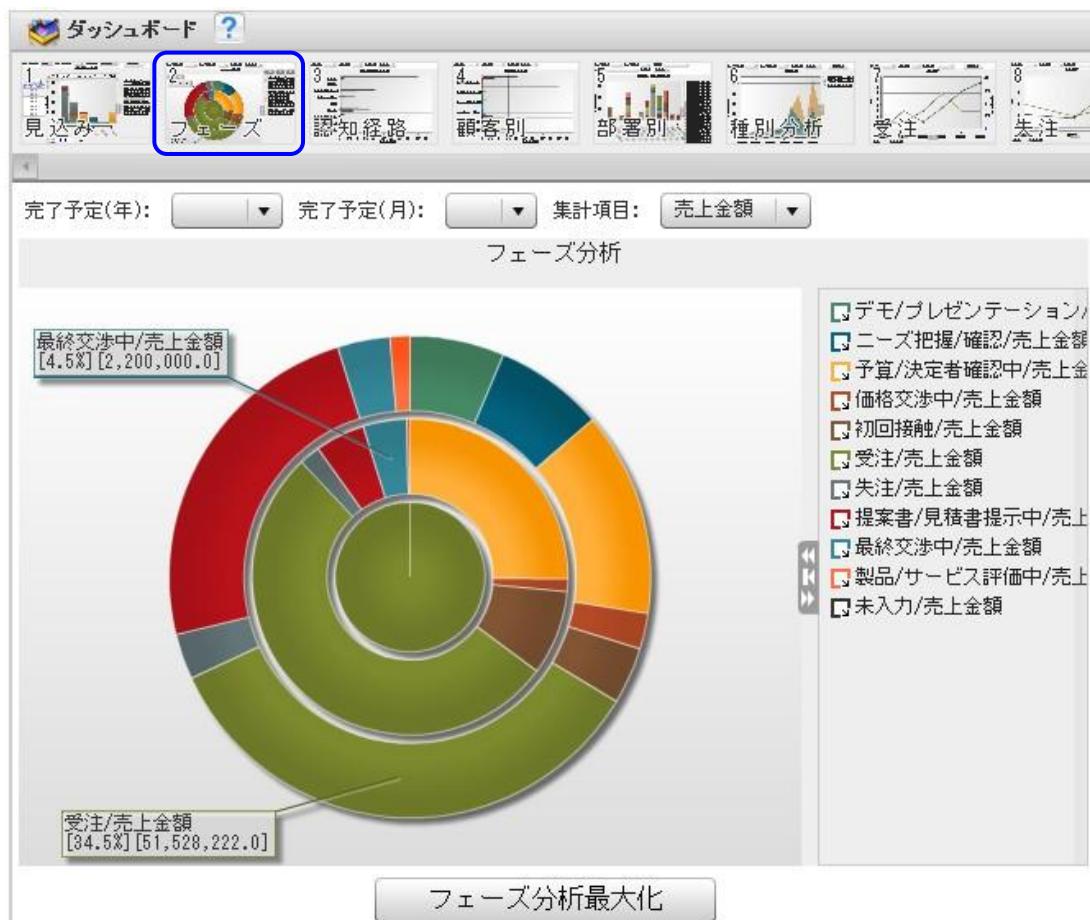
3-2 フェーズ別分析を利用する

以下のグラフ表示を閲覧したい場合の手順を説明します。

《2011年3月（当月）に受注予定のフェーズごとの売上予定金額の割合を見たい》

※フェーズは各企業の管理者にて設定したものが反映されます。

- 1 [ダッシュボード]をクリックし、[2 フェーズ]をクリックします。



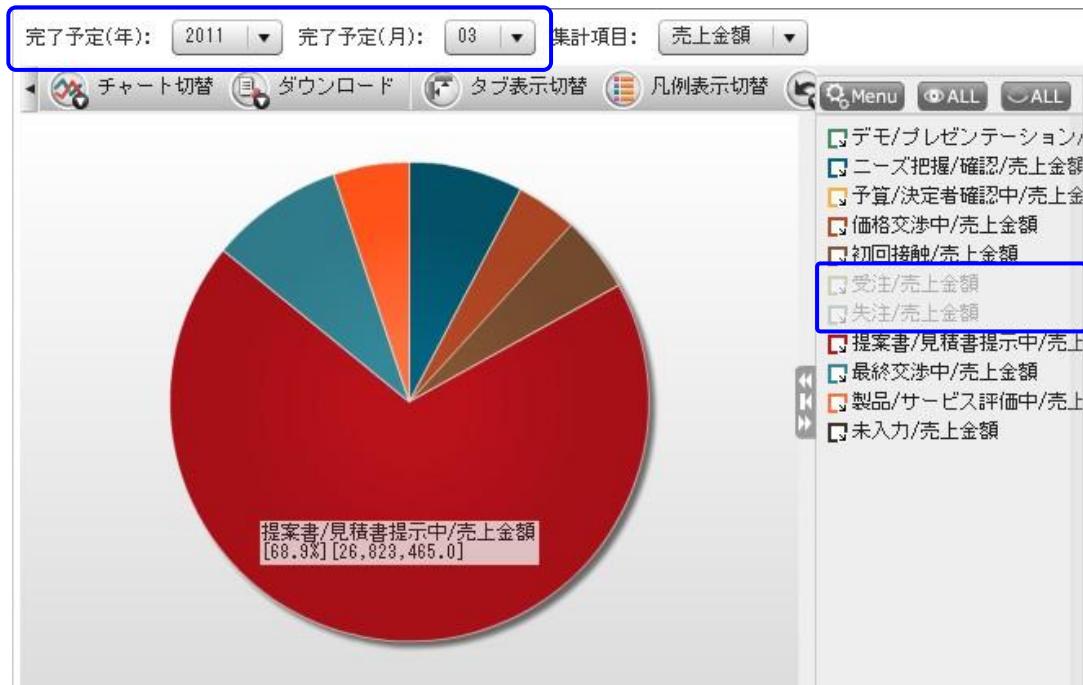
[MEMO] SFA商談情報に入力されている以下情報を基に形成しています。

- * 「完了予定（年）、完了予定（月）」・・完了予定日
 - * 「売上金額」・・・・・・・・・・・・・ 売上金額
 - * 「件数」・・・・・・・・・・・・・ 商談登録件数

2 [完了予定(年/月)]や[凡例]の絞り込みを行います。

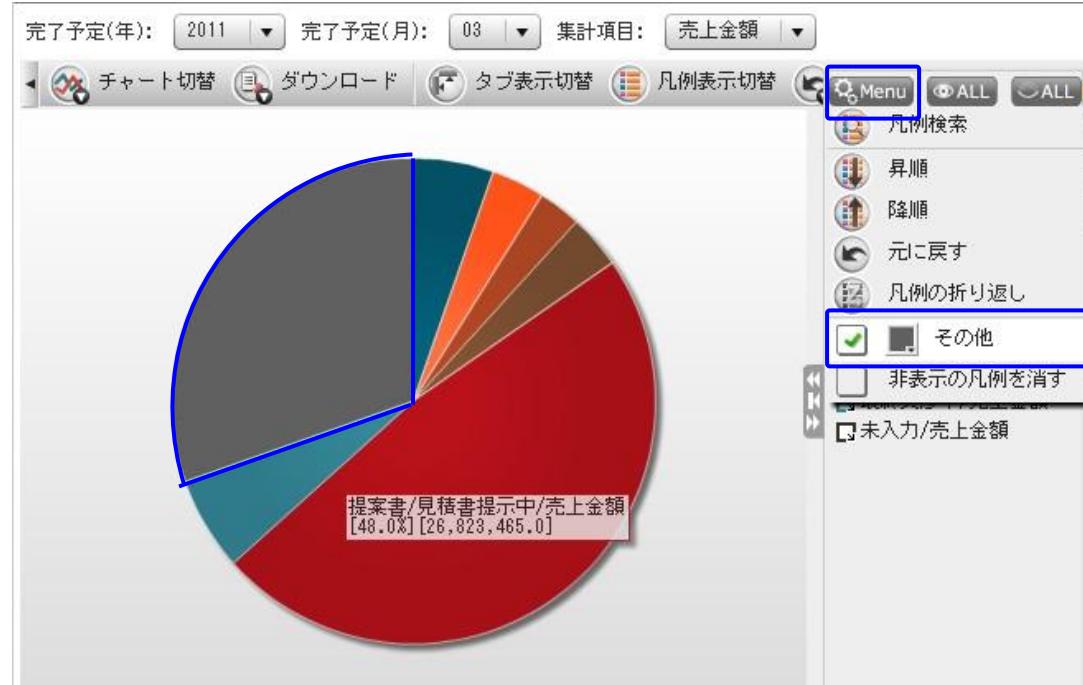
[HINT] 完了予定年月、集計項目はプルダウンより選択します。

「受注予定」を見たいので、凡例 [受注/失注] は非表示にします。クリックしてON/OFFが可能です。



3 非表示にした凡例 [受注/失注] を [その他] として表示させます。

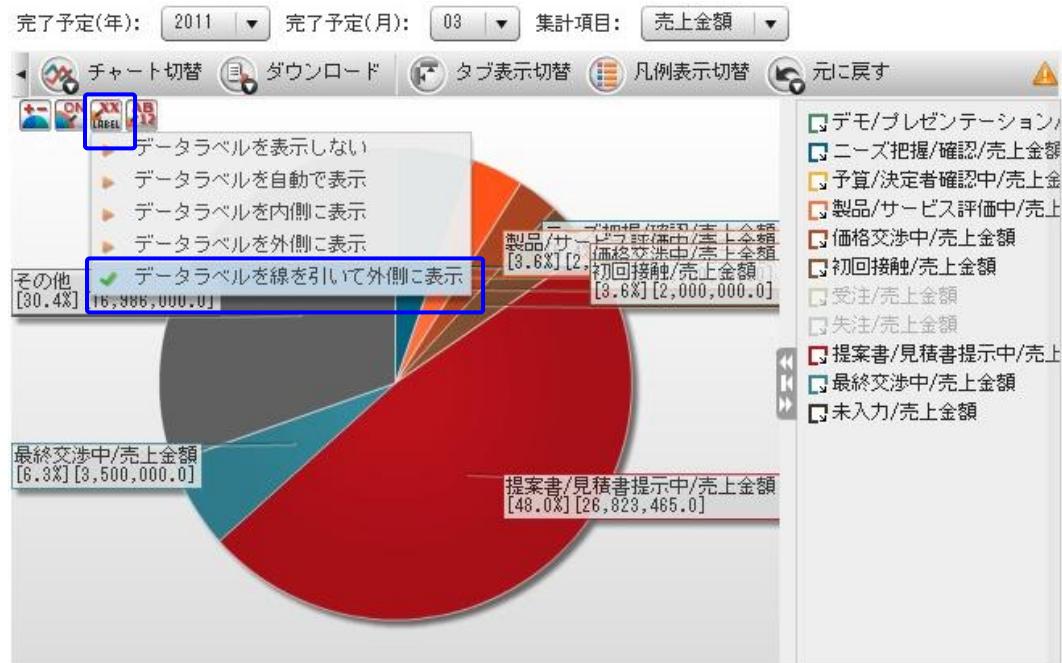
凡例にマウスを合わせると表示される [Menu] をクリックし、[□ その他] にチェックを入れます。



4 ラベル表示を設定します。

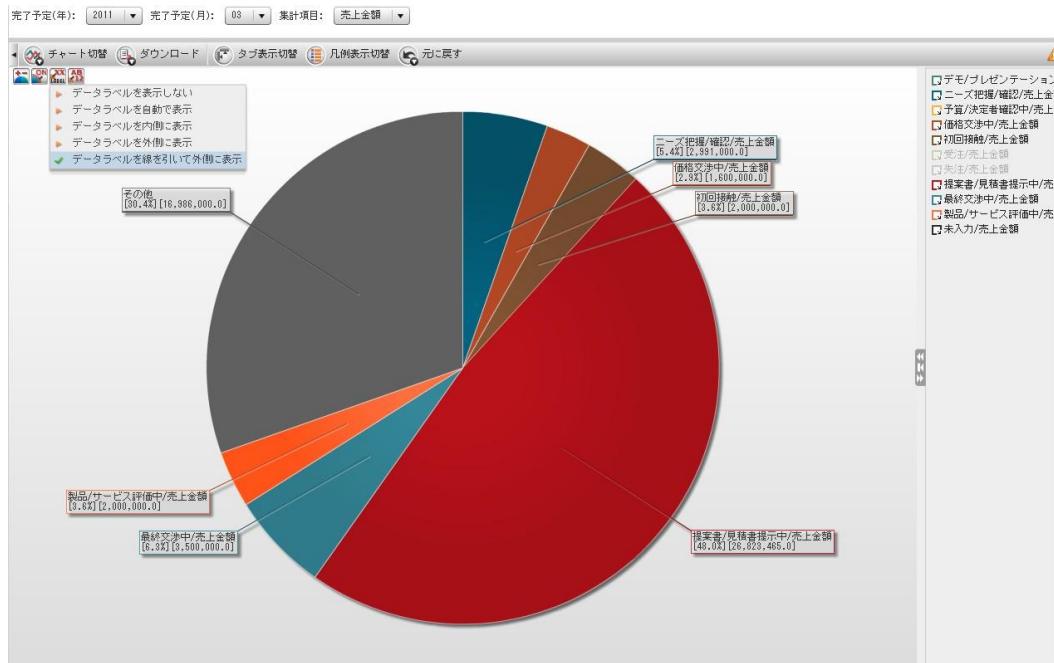
チャートエリアにマウスを合わせると表示される [LABEL] アイコンをクリックして、[データラベルを線を引いて外側に表示] にチェックを入れます。

MEMO このほか、見やすい表示にお好みで設定をしてください。



5 設定したグラフが表示されます。

※2011年3月（当月）に受注予定のフェーズごとの売上予定金額の割合



HINT ラベル表示が見にくい場合には、[最大化] または [別画面表示] をすると見やすくなります。

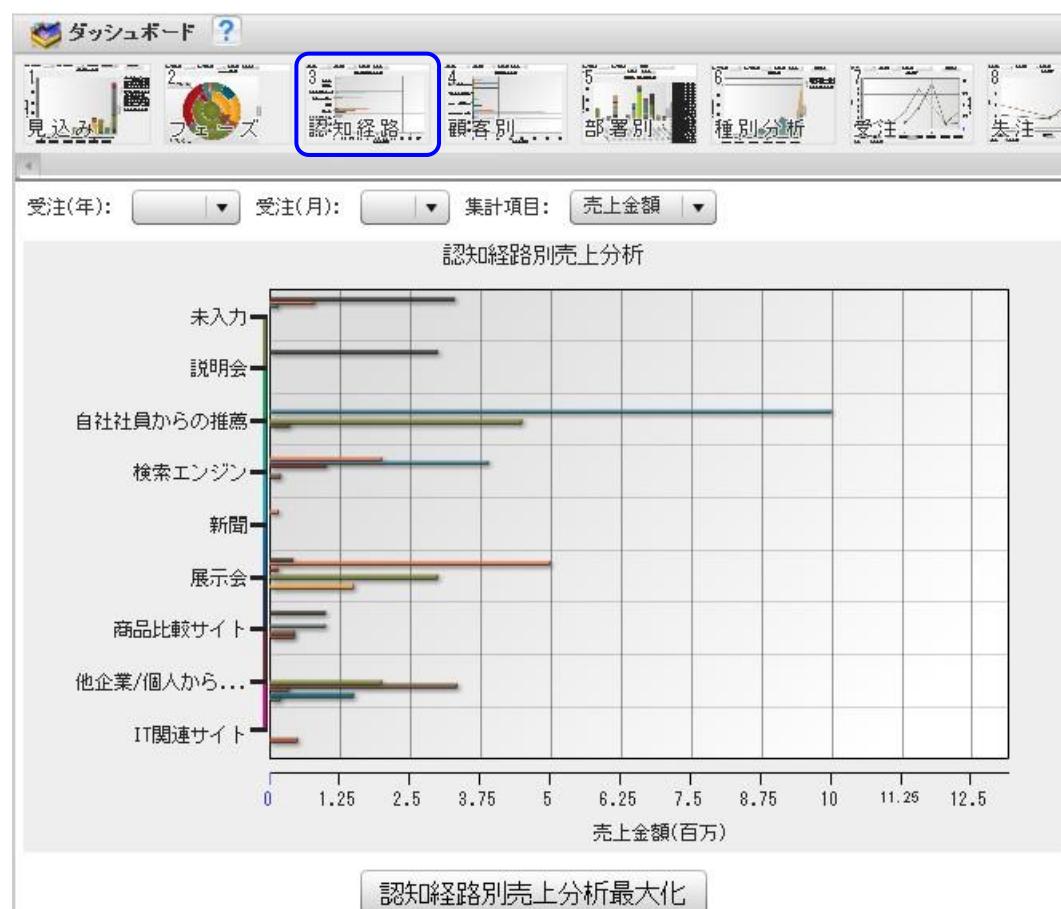
3-3 認知経路別売上分析を利用する

以下のグラフ表示を閲覧したい場合の手順を説明します。

«2010年（過去1年間）に受注した案件の認知経路別（流入経路別）売り上げ実績を見たい»

※認知経路は各企業の管理者にて設定したものが反映されます。

1 [ダッシュボード]をクリックし、[3 認知経路]をクリックします。

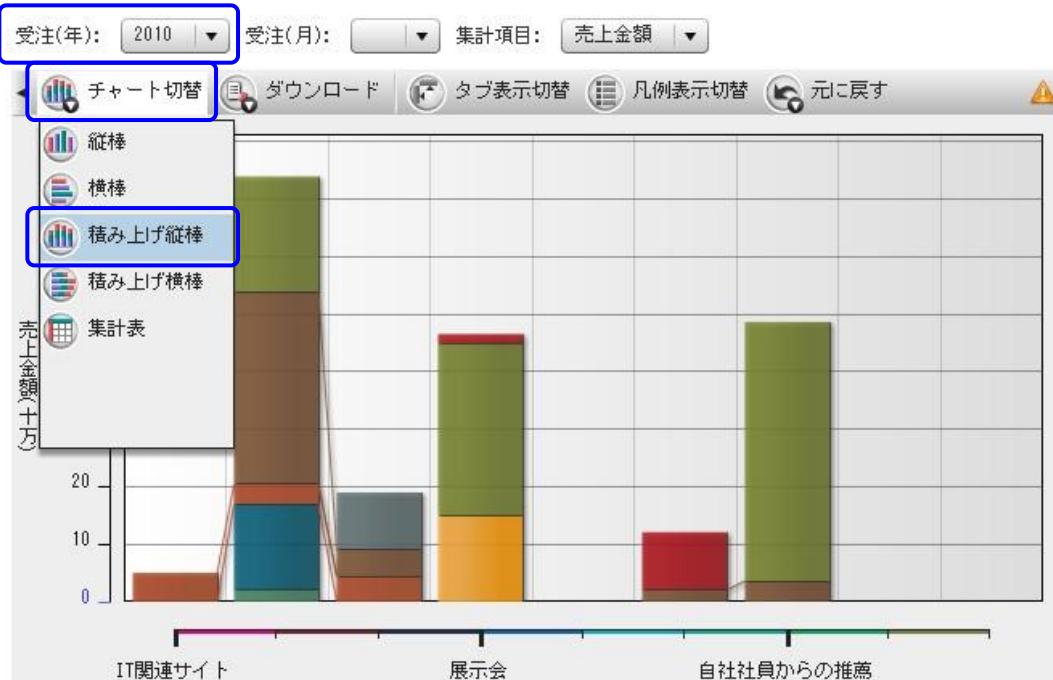


MEMO SFA商談情報に入力されている以下情報を基に形成しています。

- *「受注（年）、受注（月）」……受注日/失注日
- *「売上金額」……売上金額
- *「件数」……商談登録件数

2 [完了予定（年）]や[チャート切替]を行います。

HINT 完了予定年はプルダウンより [2010] を選択します。
経路別売上を閲覧したいので、表示するチャートは「積み上げ縦棒（横棒）」を選択します。



3 ガイド線とラベル表示を設定します。

チャートエリアにマウスを合わせると表示されるアイコンをクリックして「ガイド線を表示しない」にチェックを入れます。

MEMO ガイド線は推移を見るための表示なので、この場合には不要となります。

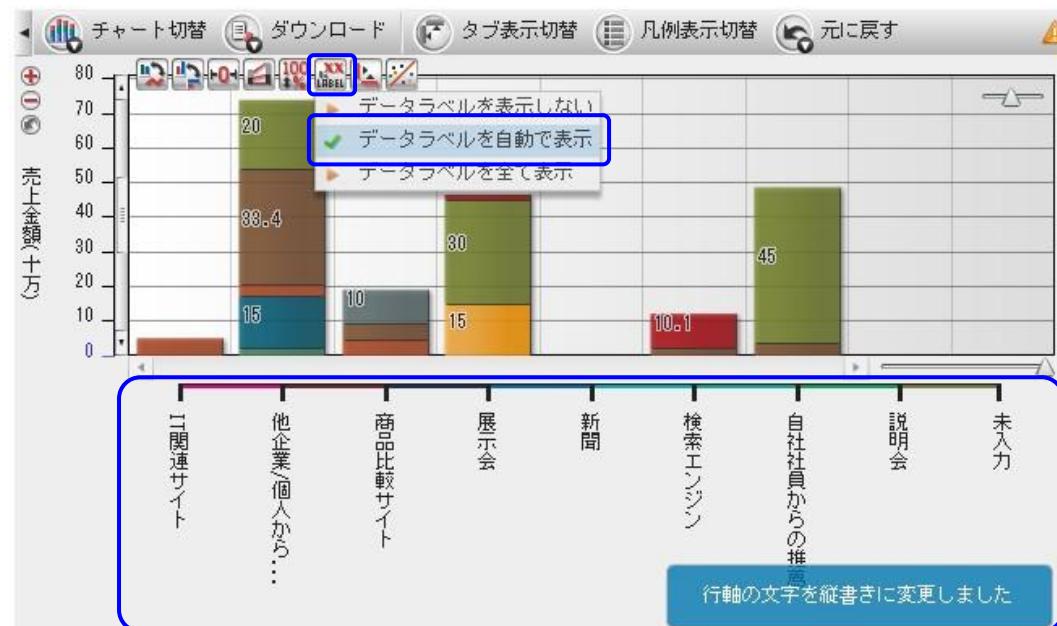


4 ラベルと行軸ラベル表示を設定します。

HINT チャートエリアにマウスを合わせると表示される [LABEL] アイコンをクリックして、[データラベル]

をすべて表示】にチェックを入れます。また、行軸のラベルエリアをクリックして、表示を変更します。このほか、見やすい表示にお好みで設定をしてください。

受注(年): 2010 受注(月): 集計項目: 売上金額

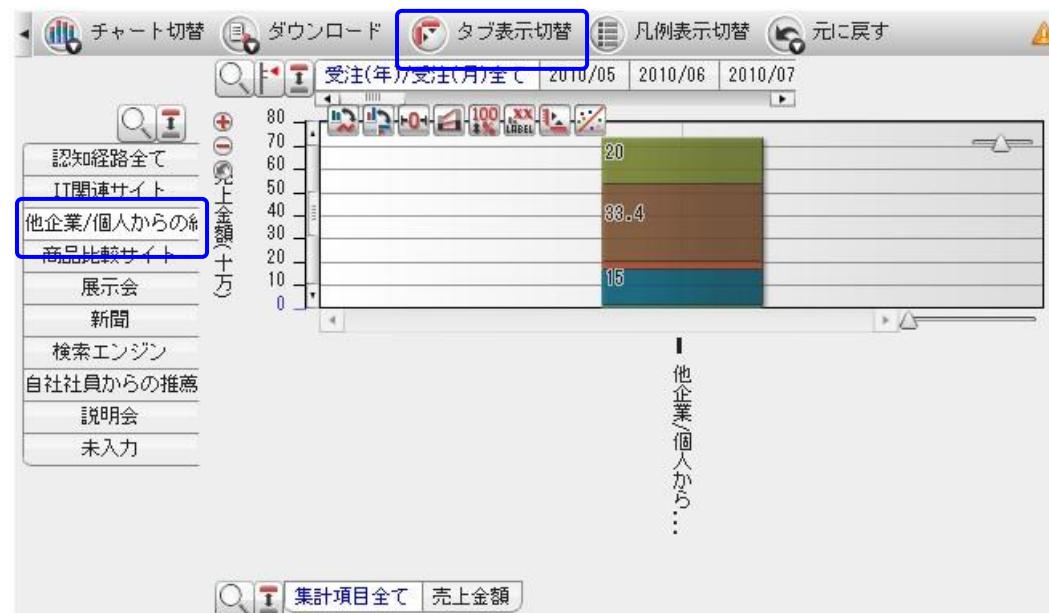


※2010年（過去1年間）に受注した案件の認知経路別（流入経路別）売り上げ実績のグラフ

《売り上げ実績（金額）が一番高い経路「他企業/個人からの紹介」の月別売り上げ実績を閲覧したい場合》

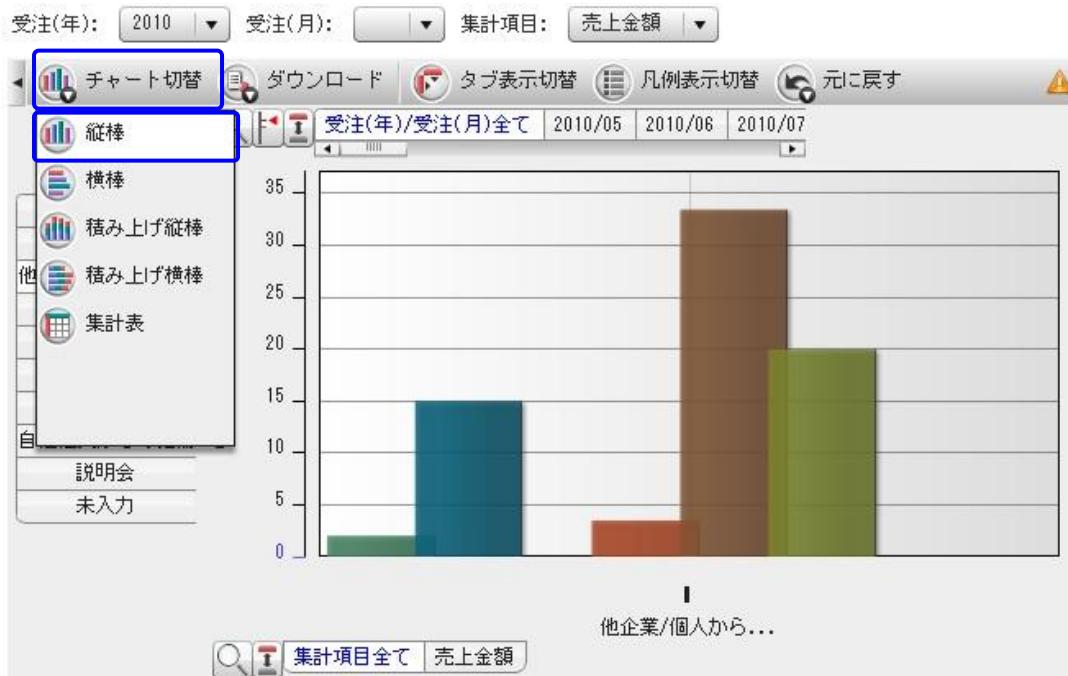
1 [タブ表示切替] をクリックしてタブ情報を表示させ、表示させたい認知経路（他企業/個人からの紹介）をクリックします。

受注(年): 2010 受注(月): 集計項目: 売上金額

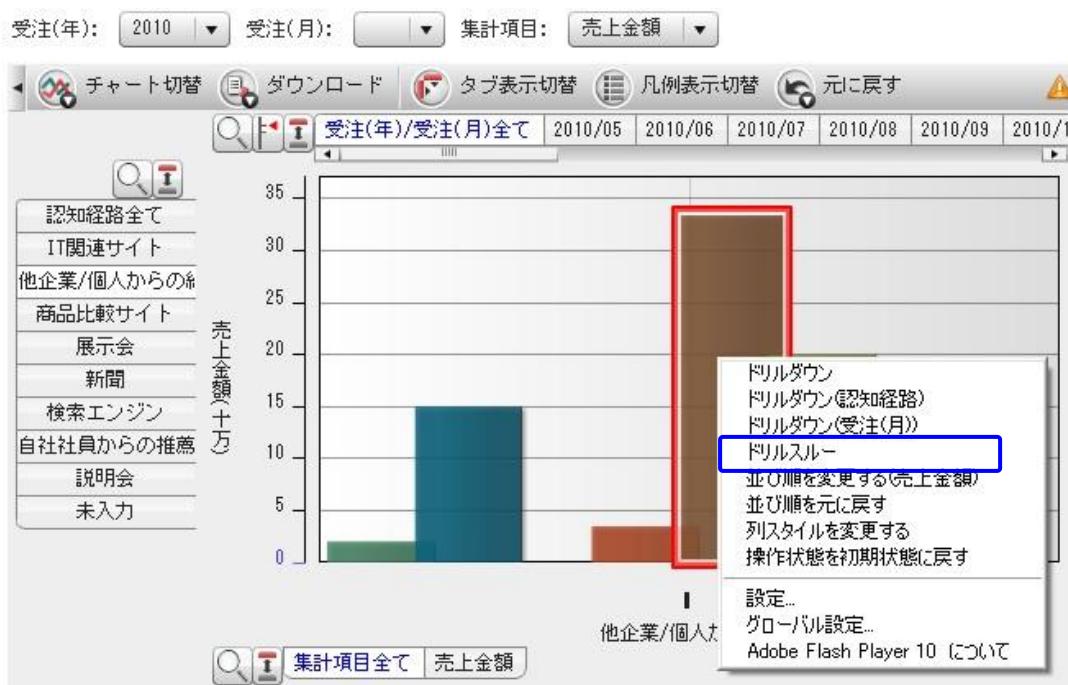


2 [チャート切替] をクリックして、チャート表示を【縦棒】に設定します。

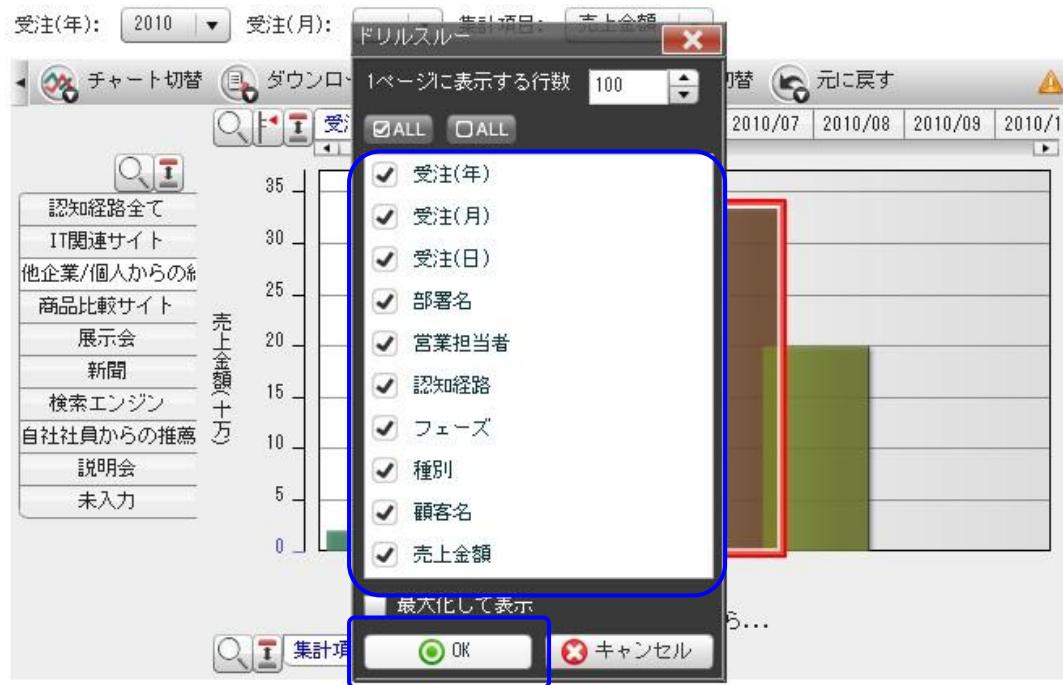
MEMO 縦棒表示にすることで、月別の棒グラフが表示されます。



3 売上金額高いの茶色の棒（データポイント）を【右クリック】し、【ドリルスルー】を選択します。



4 詳細を閲覧する項目を選択し [OK] をクリックします。



5 詳細情報が表示されます。

HINT 項目の右にある [-] をクリックすることで、昇順/降順/ソートをすることが可能です。

他企業/個人からの紹介/2010/09										
	受注(年)	受注(月)	受注(日)	部署名	営業担当者	認知経路	フェーズ	種別	顧客名	売上金額
1	2010	09	17	営業1課	前園 清治	他企業/個人からの紹介	受注	新規ビジネス	テラソリューションズ株式会社	2835000.00
2	2010	09	17	役員	前園 清治	他企業/個人からの紹介	受注	未入力	社会福祉法人 ●●市社会福祉協議会	320000.00
3	2010	09	14	役員	前園 清治	他企業/個人からの紹介	受注	未入力	たけなか	189000.00

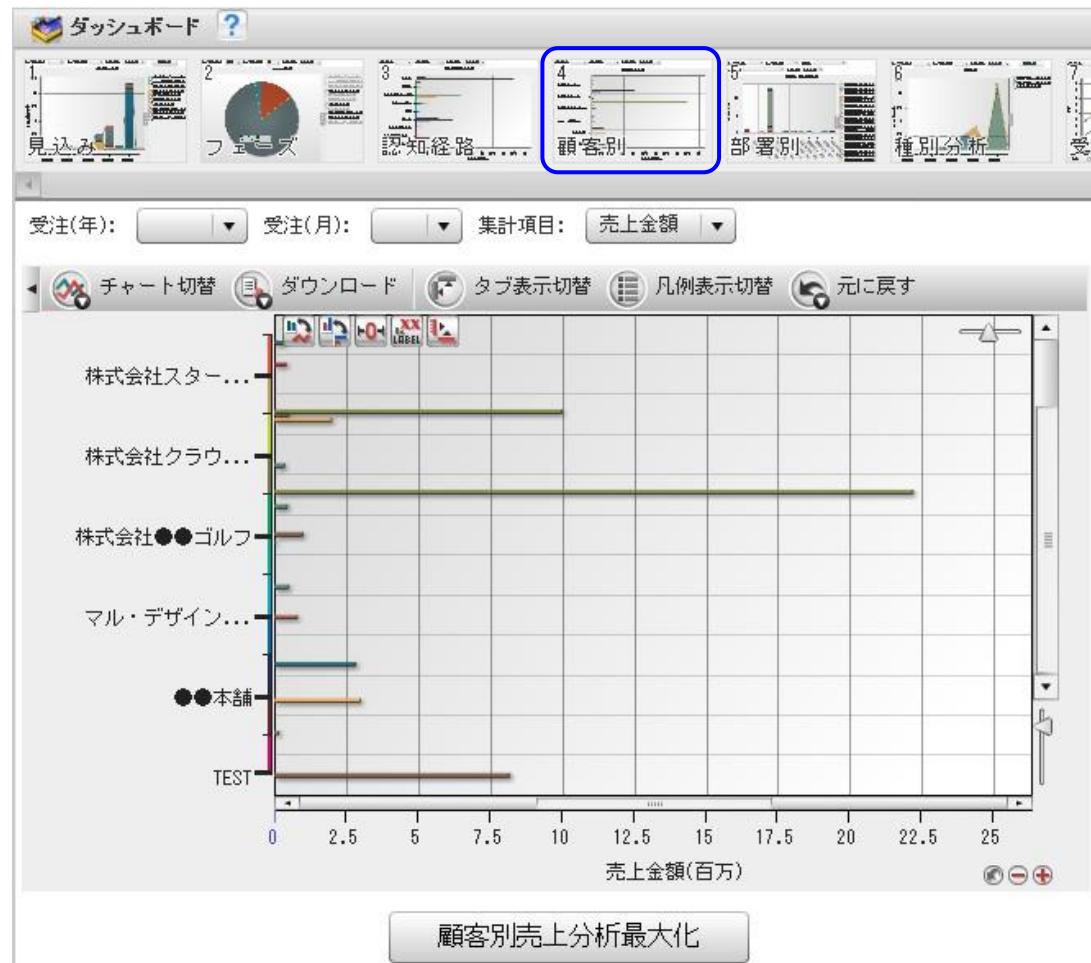
※認知経路「他企業/個人からの紹介」の売り上げ実績が一番高い月（2010年9月）の詳細情報

3-4 顧客別売上分析を利用する

以下のグラフ表示を閲覧したい場合の手順を説明します。

«2010年（過去1年間）に受注した売り上げ金額を顧客別で一覧してみたい»

1 [ダッシュボード]をクリックし、[4 顧客別]をクリックします。



顧客別売上分析最大化

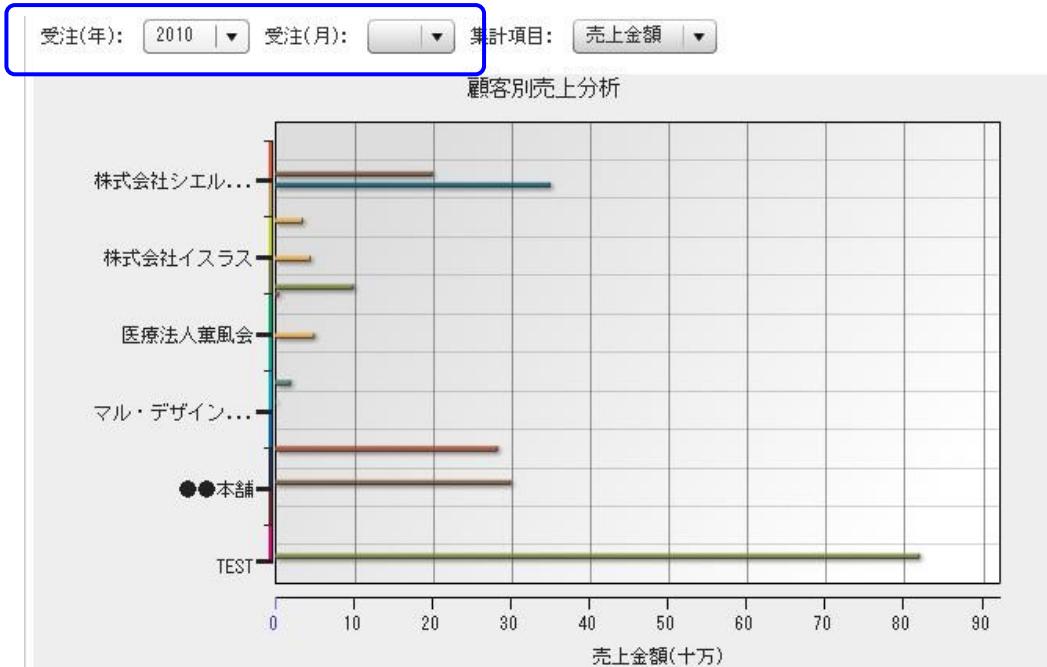
MEMO SFA商談情報に入力されている以下情報を基に形成しています。

- *「受注（年）、受注（月）」・・・受注日/失注日
- *「売上金額」・・・売上金額
- *「件数」・・・商談登録件数

2 [受注年]の絞り込みを行います。

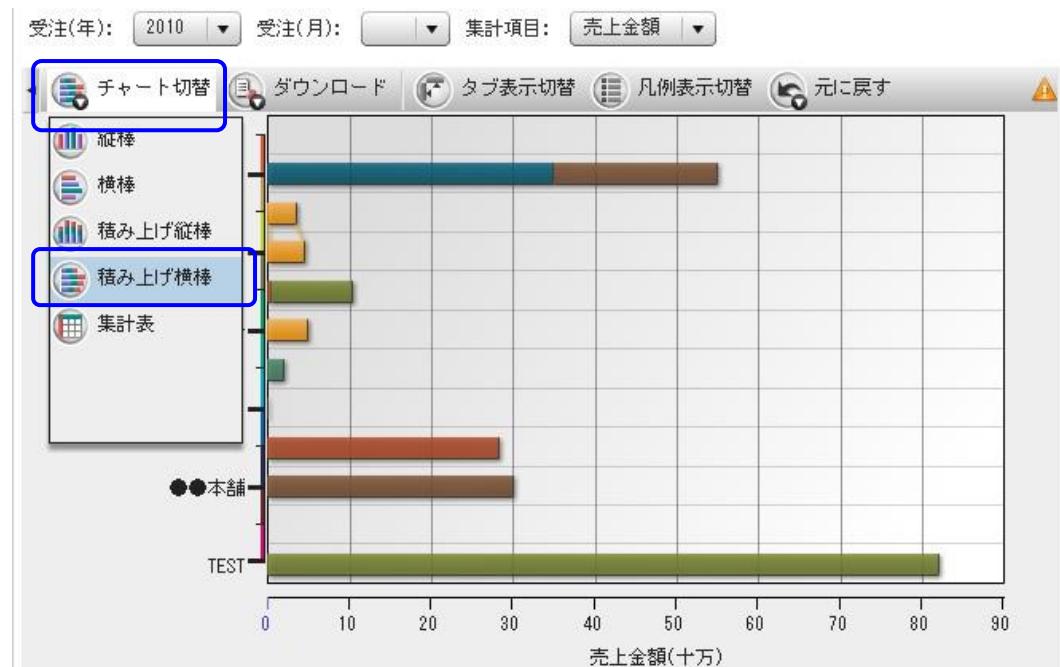
HINT プルダウンより選択します。

※2011年3月受注予定の案件数= [受注(年) : 2010]、[受注(月) : 選択しない]



3 [チャート切替] で [積み上げ横棒] をクリックします。

MEMO 積み上げチャートにすることで、2010年1月～12月までの顧客ごとの売り上げ総額が表示されます。



4 ガイド線を設定します。

チャートエリアにマウスを合わせると表示されるアイコンをクリックして【ガイド線を表示しない】にチェックを入れます。

MEMO ガイド線は推移を見るための表示なので、この場合には不要となります。



5 ラベル表示を設定します。

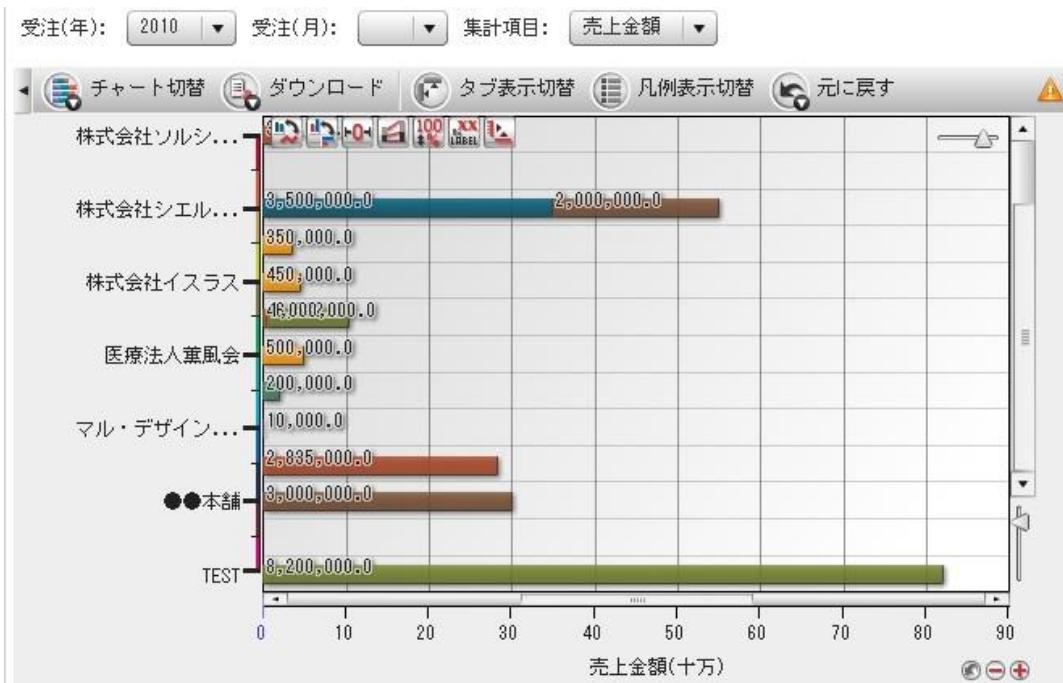
チャートエリアにマウスを合わせると表示される【LABEL】アイコンをクリックして、【データラベルをすべて表示】にチェックを入れます。

MEMO このほか、見やすい表示にお好みで設定をしてください。



6 設定したグラフが表示されます。

※2010年（過去1年間）に受注した顧客別売り上げ金額のグラフ



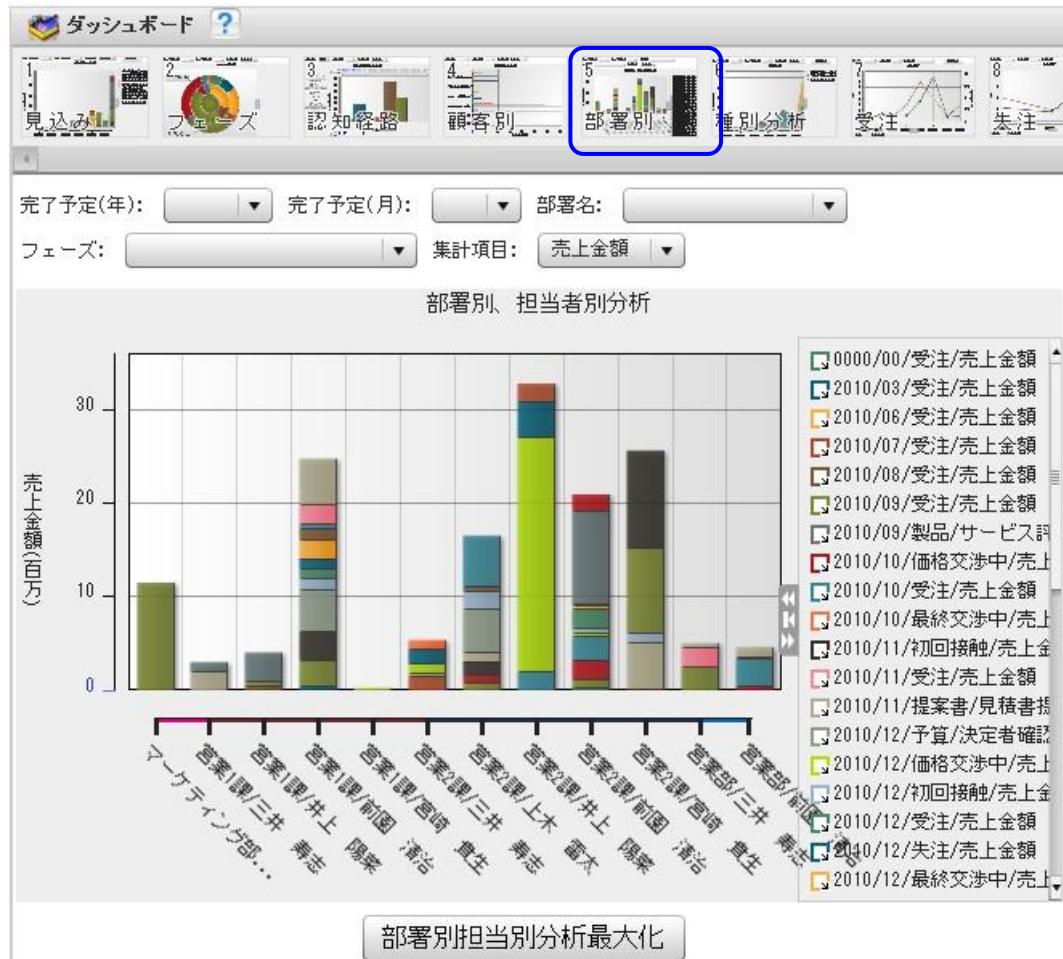
3-5 営業担当者別売上分析を利用する

以下のグラフ表示を閲覧したい場合の手順を説明します。

«2011年3月（当月）に受注予定として動いている案件の営業2課の営業担当別売り上げ総額を見たい»

※フェーズは各企業の管理者にて設定したものが反映されます。

1 [ダッシュボード]をクリックし、[5 部署別]をクリックします。



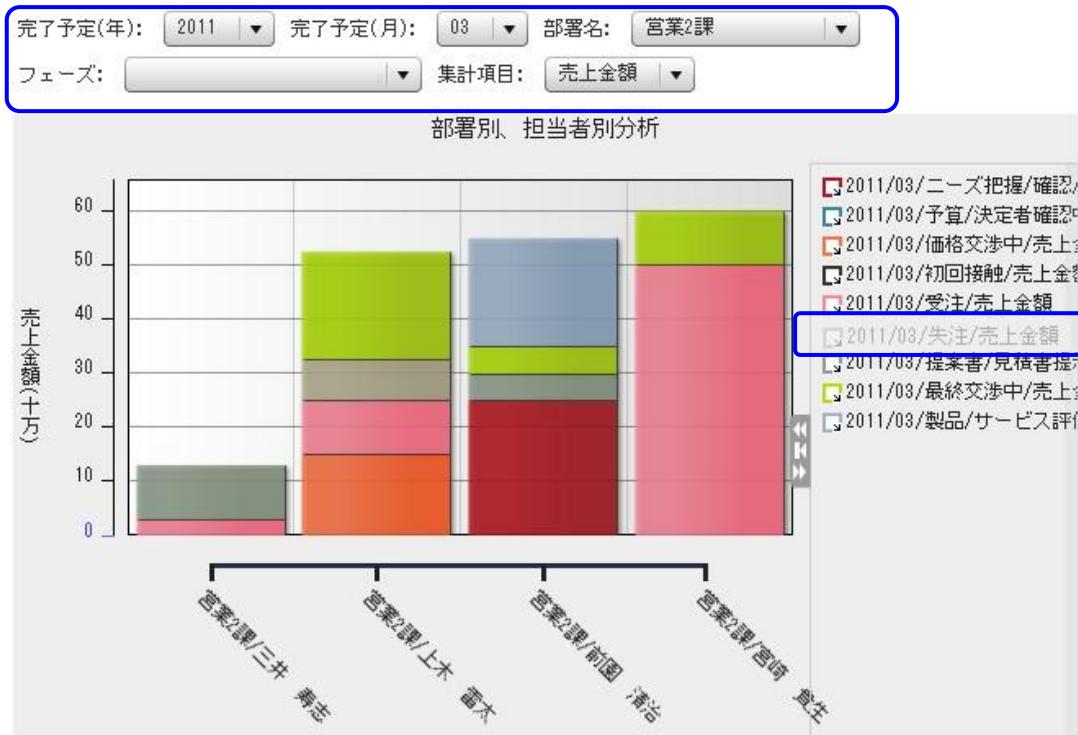
MEMO SFA商談情報に入力されている以下情報を基に形成しています。

- *「完了予定（年）、完了予定（月）」・・・完了予定日
- *「部署名」・・・ 営業担当部署
- *「フェーズ」・・・ フェーズ
- *「売上金額」・・・ 売上金額
- *「件数」・・・ 商談登録件数

2 [完了予定（年/月）]や[部署名]の絞り込みを行います。

HINT 完了予定年月、部署名はプルダウンより選択します。

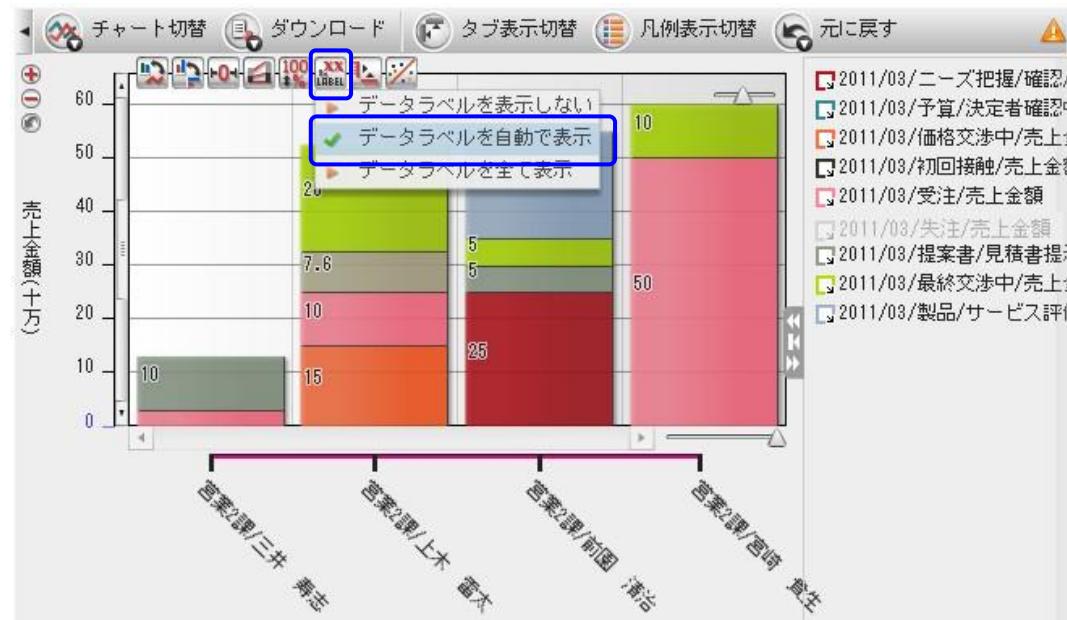
失注は、受注見込ではないので 凡例の [失注] をクリックして非表示とします。



5 ラベル表示を設定します。

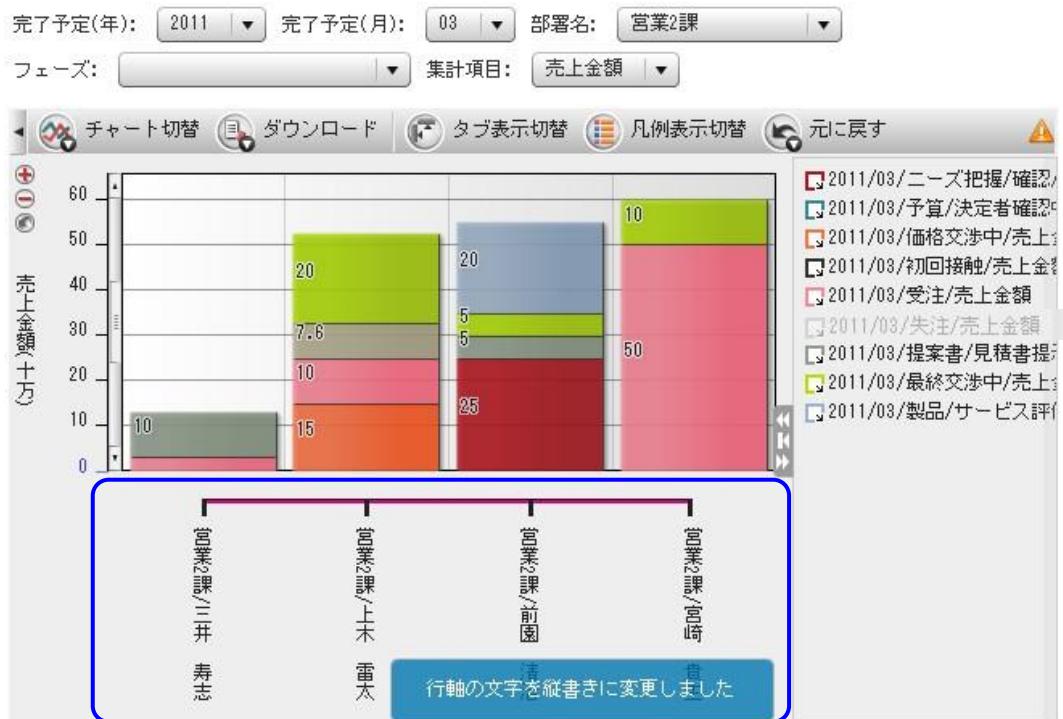
チャートエリアにマウスを合わせると表示される [LABEL] アイコンをクリックして、[データラベルを自動で表示] にチェックを入れます。

MEMO このほか、見やすい表示にお好みで設定をしてください。



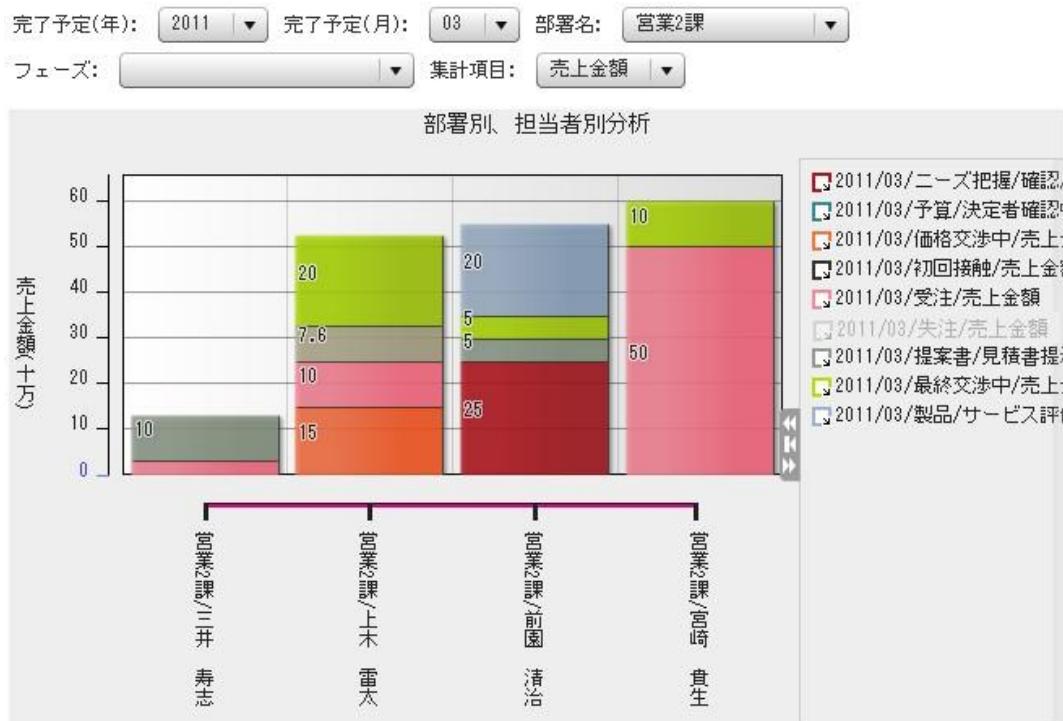
5 行軸のラベル表示を設定します。

HINT 行軸のラベルエリアをクリックすると、表示が変更できます。



6 設定したグラフが表示されます。

※2011年3月（当月）に受注予定として動いている営業2課の営業担当別売上予定金額のグラフ

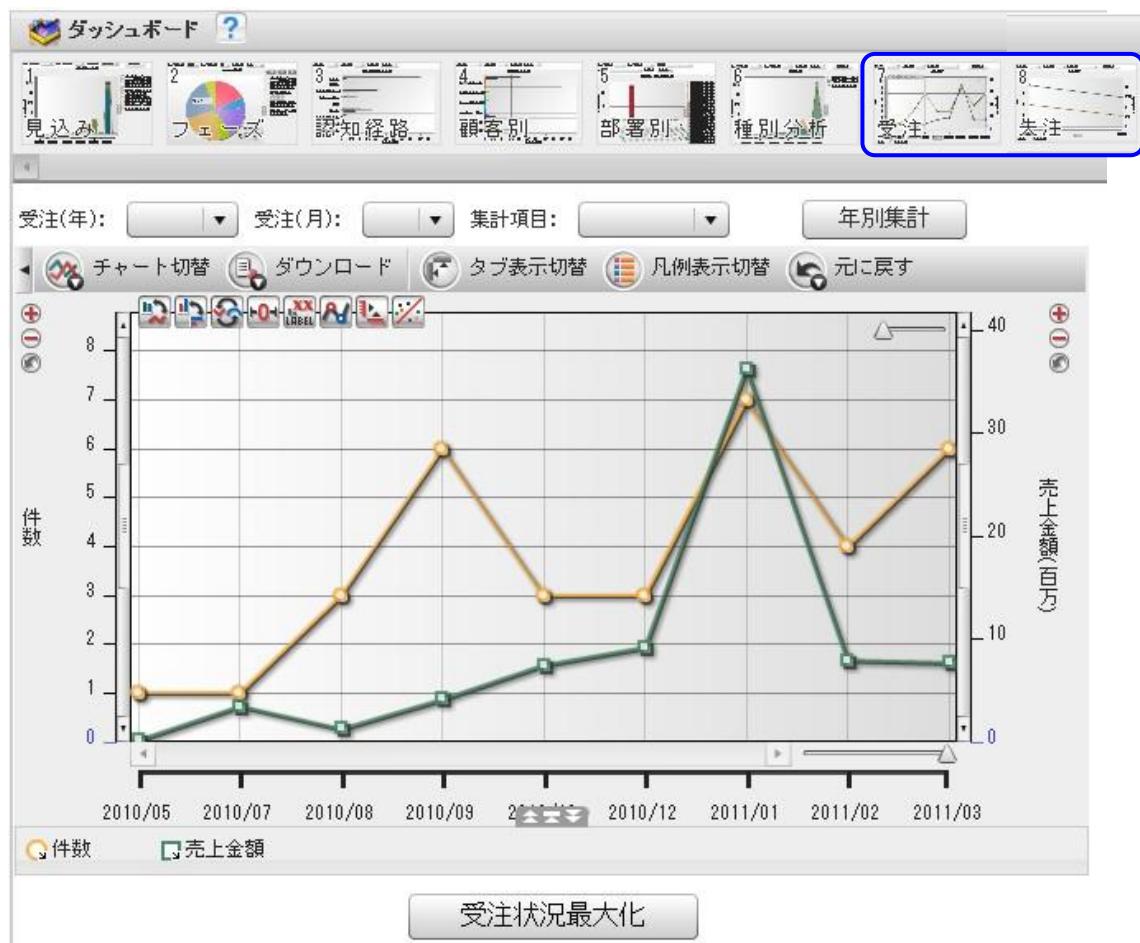


3-6 受注・失注状況分析を利用する

以下のグラフ表示を閲覧したい場合の手順を説明します。

『2010年9月～2011年3月（過去6ヶ月間）に受注/失注した案件数と売上金額の推移を見たい』

1 [ダッシュボード]をクリックし、[7 受注（8 失注）]をクリックします。



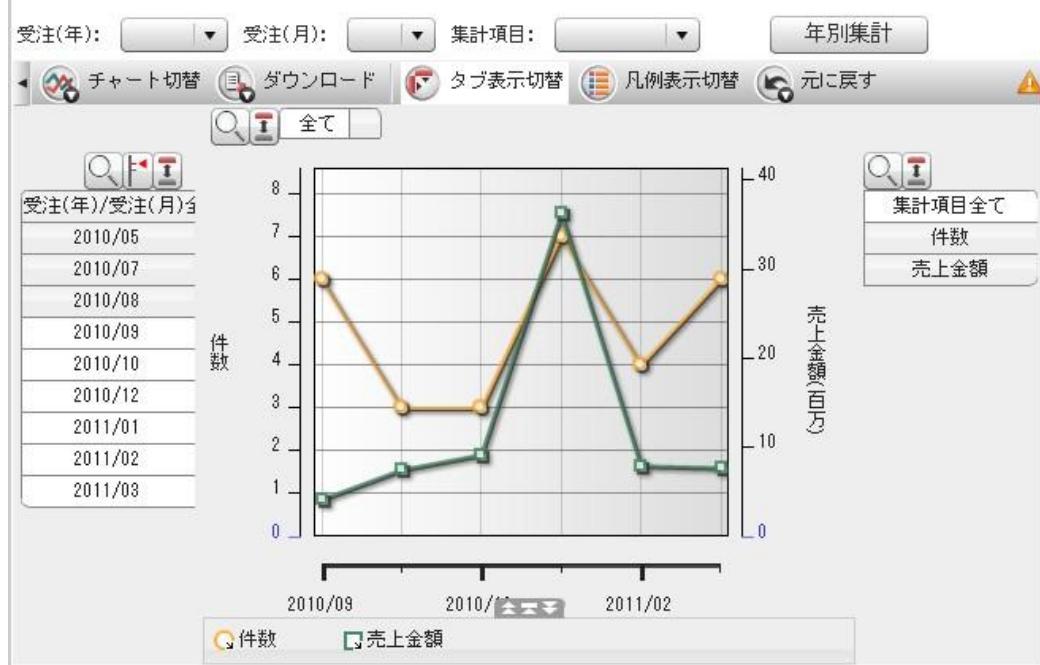
MEMO SFA商談情報に入力されている以下情報を基に形成しています。

- * 「受注年（失注年）、受注日（失注日）」・受注日/失注日
- * 「売上金額」・・・・・・・・・・・・ 売上金額
- * 「件数」・・・・・・・・・・・・ 商談登録件数

2 [タブ表示切替]をクリックして、受注（失注）年月を指定します。

HINT 2011年3月時点での過去6ヶ月のデータを閲覧したいので、受注（失注）年月 [2010/09～2011/03] ま

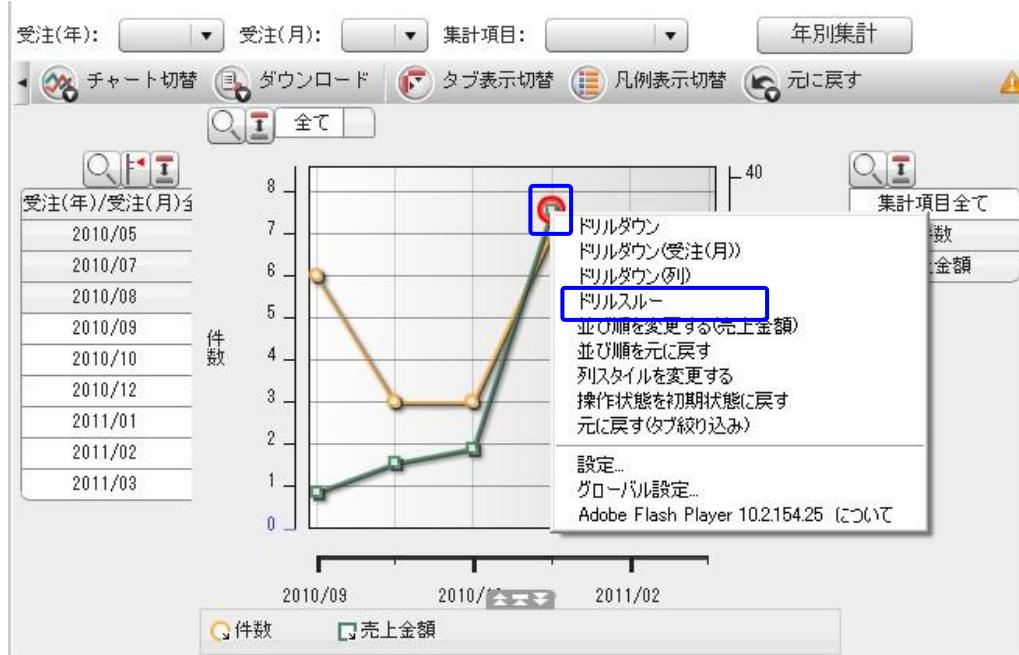
でを [Ctrl] を押しながらクリックで選択します。



※2010年9月～2011年3月（過去6ヶ月間）に受注（失注）した案件数と売上金額の推移のグラフ

《売上金額が一番高い2011年01月の詳細情報を閲覧したい場合》

1 売上金額の緑のデータポイントを【右クリック】し、【ドリルスルー】を選択します。



2 詳細を閲覧する項目を選択し【OK】をクリックします。

ここでは、【認知経路、フェーズ、種別】は閲覧しないデータとして設定（チェックを外す）しています。



3 詳細情報が表示されます。

HINT 項目の右にある [-] をクリックすることで、昇順/降順/ソートをすることが可能です。

	受注(年)	受注(月)	受注(日)	部署名	営業担当者	顧客名	売上金額
1	2011	01	25	営業2課	前園 清治	高山産業株式会社	1000000.00
2	2011	01	07	営業1課	小泉 太郎	環太平洋研究推進フォーラム	1500000.00
3	2011	01	13	営業2課	前園 清治	株式会社シエルビューティハウス	10000000.00
4	2011	01	06	営業1課	井上 陽菜	環太平洋研究推進フォーラム	600000.00
5	2011	01	18	営業2課	上木 雷太	マル・デザイン開発株式会社	800000.00
6	2011	01	13	営業1課	水戸 陽平	株式会社イスラス	2222222.00
7	2011	01	25	営業2課	前園 清治	●●ジャパン株式会社	150000.00

※売上金額が一番高い2011年01月の詳細情報

■4 基本操作

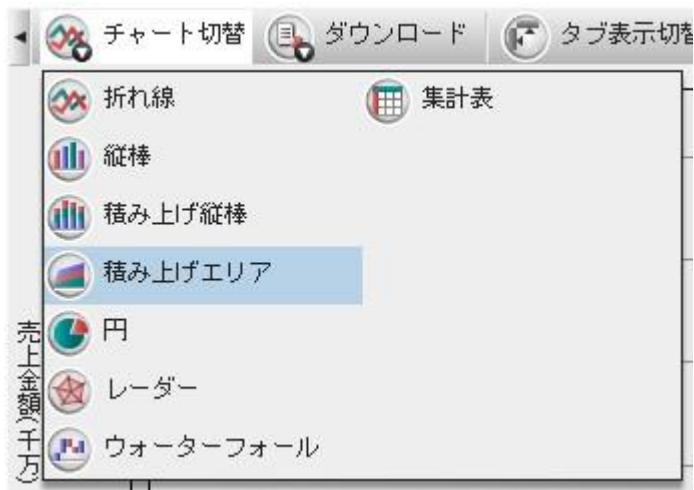
GRIDY BIを利用するうえでの基本操作を説明します。

4-1 チャートの種類を変更する

チャートの種類の変更方法には、チャートメニューから変更する方法と、ダイナミックチェンジアイコンから変更する方法の2種類があります。

方法によって、変更できるチャートの種類が異なります。

■チャートメニューから変更 (グラフによってチャートメニューに表示されるものは異なります。)



メニューから、変更する種類を選択します。

■ダイナミックチェンジアイコンから変更 (グラフによってアイコン表示されるものは異なります。)



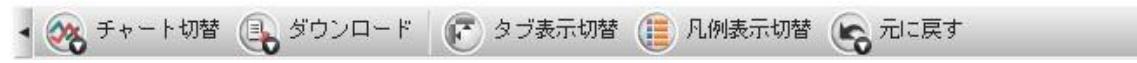
現在のチャートの種類によって、変更できるチャートの種類が異なります。

アイコンをクリックするたびに、チャートの種類が変更されます。

※詳細については、後述の「ダイナミックチェンジアイコン」を参照してください。

4-2 チャートの表示を変更する

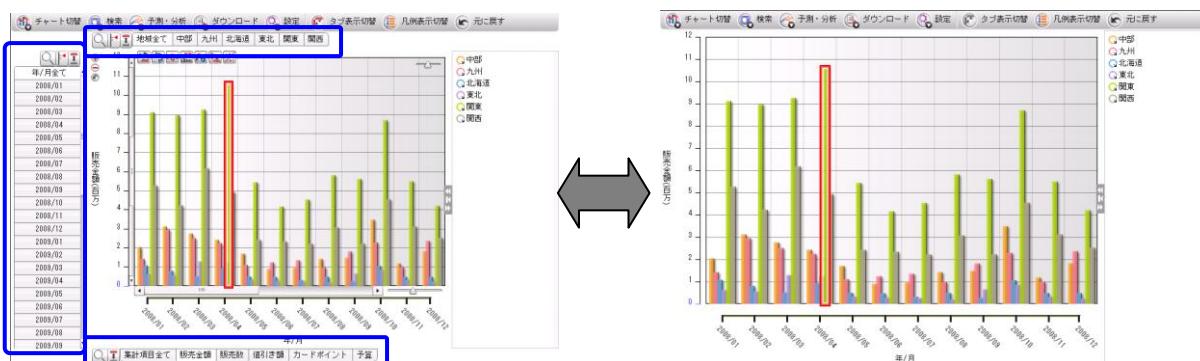
チャートメニュー（下図）より、チャートの表示を変更することができます。



タブ表示切替

行項目タブ、列項目タブ、集計項目タブの表示・非表示を一括で切り替えることができます。
チャートエリアを広げたい場合に利用します。

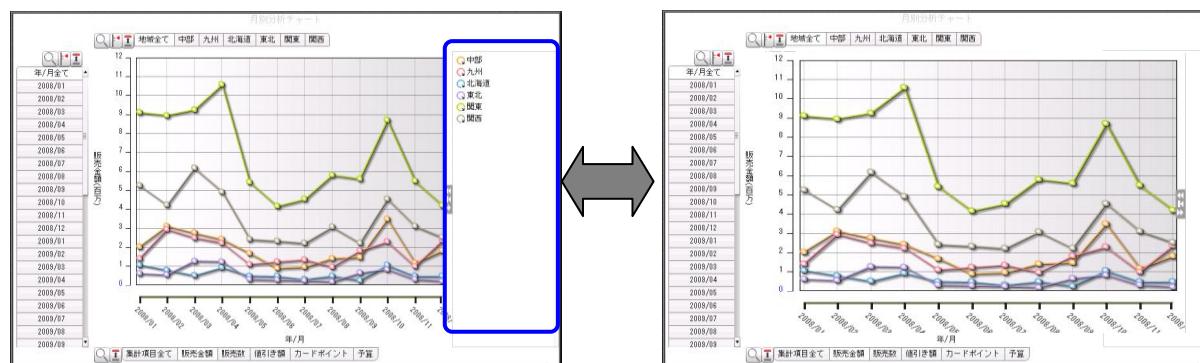
MEMO クリックするたびに、項目タブの表示・非表示が切り替わります。



凡例表示切替

凡例は、チャート上のグラフが何の項目であるかを示していますが、一時的に非表示にすることでチャートを見やすくする、表示レイアウトを変更してチャートとの関係をわかりやすくするといったことができます。

MEMO クリックするたびに、項目タブの表示・非表示が切り替わります。

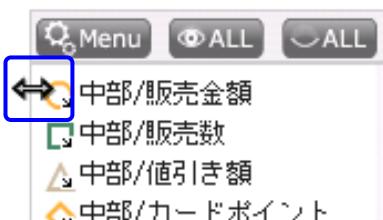


凡例に対しては、次の操作をおこなうことができます。

- *凡例の表示・非表示を切り替える
- *凡例の表示サイズを変更する
- *凡例の最大化・初期サイズ化・最小化をおこなう
- *非表示の凡例要素を凡例に表示しない
- *凡例の折り返し表示を設定する

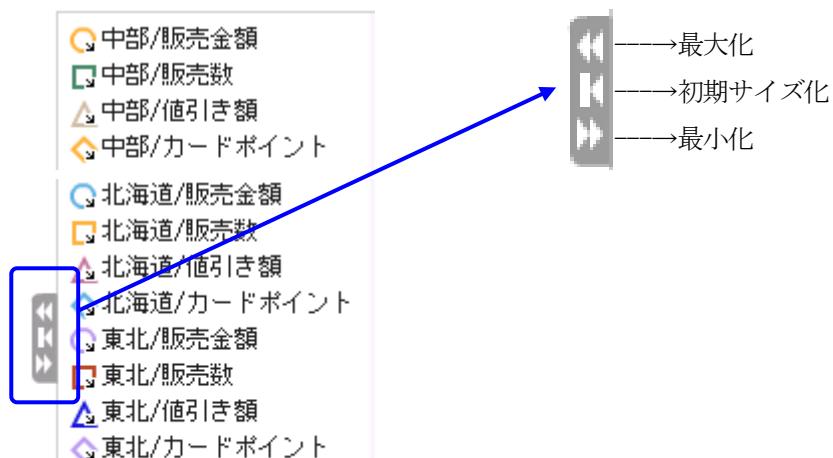
■凡例のサイズ変更

凡例の表示サイズを変更するには、凡例が画面右に表示されている場合は左辺、画面下に表示されている場合は上辺にカーソルをあて、形状が矢印に変わったらドラッグします。



■凡例の最大化・初期サイズ化・最小化

アイコンをクリックして、凡例の最大化・初期サイズ化・最小化することができます。凡例の表示サイズを変更した後に最小化/最大化をおこなった場合は、初期サイズ化をクリックすると、サイズ変更した直後のサイズに戻します。



■凡例要素の非表示

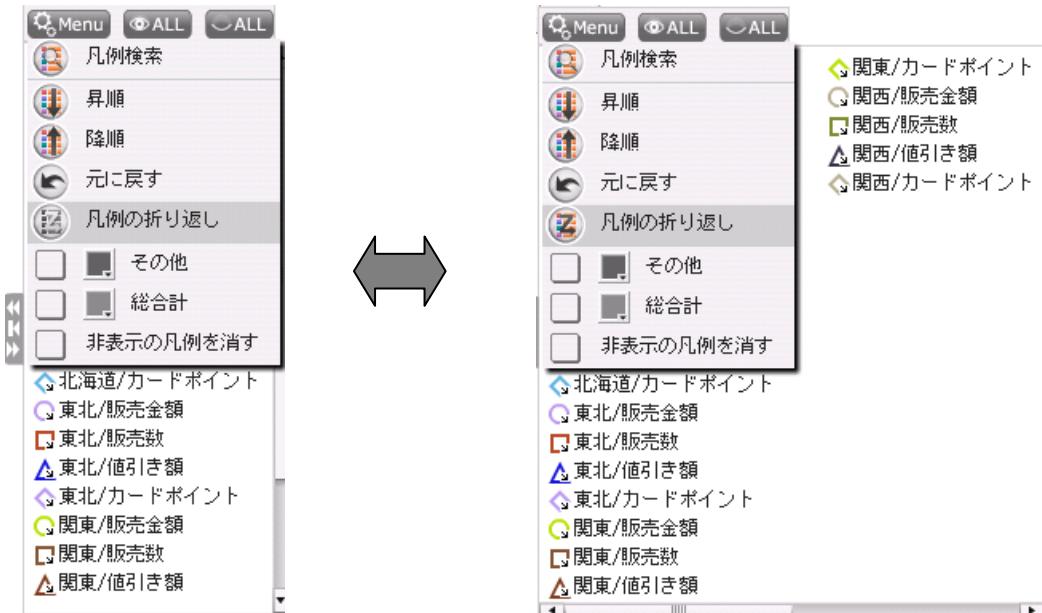
チャート上のデータは、凡例上で名前をクリックすることで、列項目単位で非表示/表示を切り替えることができます。このとき、クリックして非表示にしたものは、凡例の一覧でグレーの文字色に変わってきます。凡例の [Menu] をクリックして表示されるドロップダウンリストの [非表示の凡例を消す] にチェックを入れると、この状態になっているデータ名を凡例上で非表示にできます。



■凡例の折り返し表示

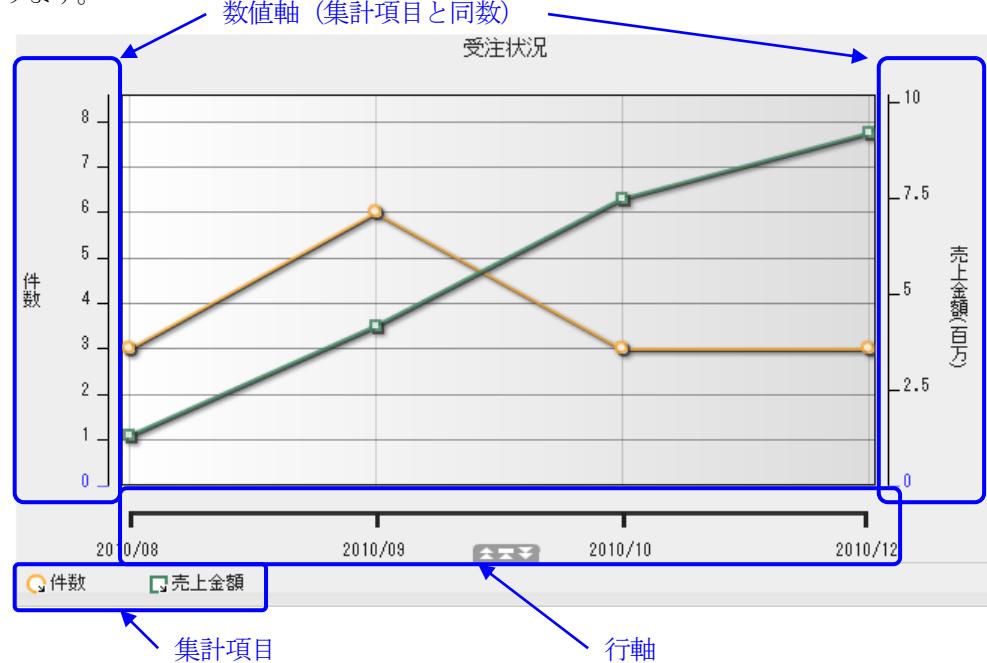
凡例が多数ある場合、凡例の【Menu】をクリックして表示されるドロップダウンリストから【凡例の折り返し】を選択すると、凡例を折り返して表示されます。選択するたびに、折り返しの有効/無効が切り替わります。

MEMO クリックするたびに、折り返し表示ON/OFFが切り替わります。



4-3 表示軸を変更する

軸には、数値軸、行軸の2種類があります。集計項目数が複数ある場合は、数値軸も集計項目数と同じ数になります。



軸の目盛りと、項目名、単位などを、軸の「ラベル」と呼びます。

このラベルの表示方法を切り替えることができます。また、数値軸に対して、軸の最小値、最大値を変更するほか、表示単位の設定などがおこなえます。

以下の操作について解説します。

*軸のラベルの表示を切り替える

*数値軸の最小値、最大値、表示単位を設定する

*チャートの配置方向を変更する

■軸のラベルの表示を切り替える

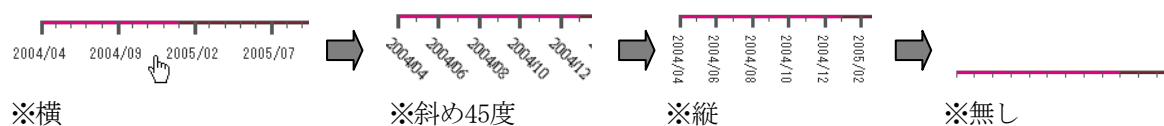
目盛の数が多くたり、値の桁数が大きかつたりした場合など、軸のラベルが見にくくなることがあります。そうした場合は、ラベルの表示を切り替えることができます。数値軸と行軸で、表示の切り替わる内容が異なります。

《数値軸の場合》

いずれかの数値軸上でクリックして、【省略値で表示】 \leftrightarrow 【縮小して全体表示】を切り替えることができます。すべての数値軸の表示が切り替わります。【省略値で表示】にした場合、ラベルが表示幅を超えたときのみ、「90..」のように省略された数値で表示されます

《行軸の場合》

行軸の場合は、行軸上でクリックして、【横】 \rightarrow 【斜め45度】 \rightarrow 【縦】 \rightarrow 【無し】を切り替えることができます。ラベルが、設定された表示幅を超えたときは、間引いて表示されます。



4-4 操作状態の「保存」と「取り消し」をする

操作状態の「保存/取り消し」を行うことができます。

■操作状態の保存

- [ダッシュボード]をクリックし、[9 操作状態]をクリックします。
- [操作状態保存]をクリックします。

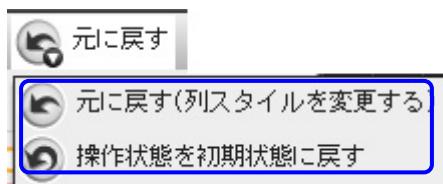


HINT [操作状態クリア]をクリックすると、初期状態に戻すことができます。

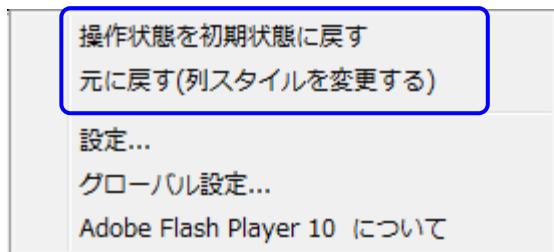
■操作状態の取り消し

操作を取り消す方法には、1つ前の操作に戻る方法と、チャートが表示された初期の状態に戻す方法の2つがあります。また、手順は以下の2通りがあります。

《[元に戻す]をクリックした場合》



《チャートエリアで[右クリック]をした場合》



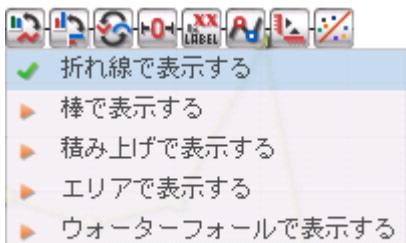
■5 ダイナミックチェンジアイコン

ダイナミックチェンジアイコンとは、チャートの種類の変更、縦横表示の切替、ラベル表示の切替などが簡単に操作できる機能です。

マウスがチャートエリア上にのっているときに、チャートエリアの左上に表示されます。



カーソルをアイコンにあてると、メニューが表示されます。



アイコンをクリックするだけでチャートを切り替えることも可能です。クリックするたびに、メニューに表示される順序でチャートが切り替わります。

現在選択されている設定値が [チェックマーク] で表示されます。

5-1 ダイナミックチェンジアイコンを利用する

ダイナミックチェンジアイコンは、チャートの種類によって変化します。

これらのダイナミックチェンジアイコンの中には、特定のチャートでのみ使用できるものもあります。また、表示状態によっては、表示されないダイナミックチェンジアイコンもあります。

以下、アイコンの種類と操作方法を説明します。

■チャートの種類を変更する



アイコンをクリックすることで、チャートの種類が切り替わります。順序は設定されている内容によって異なります。

MEMO 初期値は、[折れ線→棒→積み上げ棒→エリア→ウォーターフォール] となっています。

■チャートの縦横表示を変更する



アイコンをクリックすることで、チャートの縦横表示を切り替えることができます。

MEMO 折れ線チャートは、横表示にしたときに、線種を「曲線」にすることはできません。

折れ線の線種が「曲線」の縦表示チャートを横表示に変更すると、線種は「直線」になります。

■チャートの折れ線の種類を変更する



アイコンをクリックするたびに、チャートの折れ線の線種を変更することができます。

MEMO アイコンをクリックすることで、線種が直線→曲線→直角線の順序で切り替わります。

本機能を使用できるチャートは「折れ線」のみとなります。

■数値軸の位置を変更する

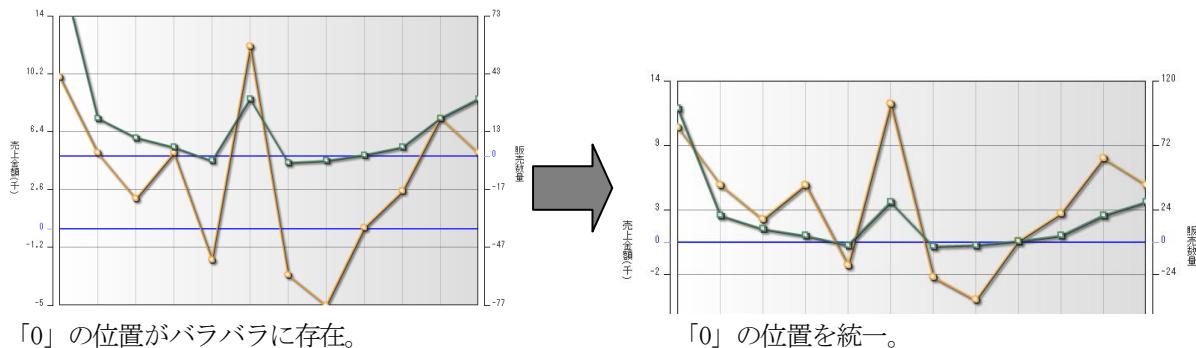


複数の数値軸がある場合、「[0を中心で揃える】アイコンをクリックすることで、複数の数値軸の「0」の位置を中心に揃えることができます。

「0」の位置が一致せずデータが確認しにくい場合など、チャートが見にくいときに使用します。

MEMO 本機能は、「100%積み上げ棒」「100%積み上げエリア」「円」「レーダー」「集計表」では利用できません。

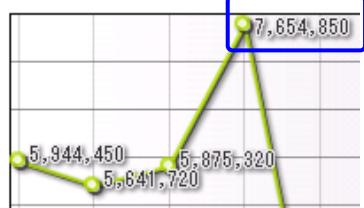
※左右の軸に対して



■データラベルの表示を変更する



データラベルとは、チャートのデータ値や列名などを表示するテキストです。アイコンをクリックすることで、表示・非表示、または表示位置を切り替えることができます。



MEMO 折れ線、棒、積み上げ、積み上げエリア、ウォーターフォールの場合は、アイコンをクリックするたびに、表示モードが「データラベルを自動で表示→データラベルを全て表示→データラベルを表示しない」の順序で切り替わります。

また、折れ線、棒、積み上げ、積み上げエリアで「データラベルを自動で表示」を指定すると、チャートのスペースにあわせて、値を省略して表示します。。レーダーの場合は、表示可能なデータラベルが取捨選択され、表示位置が自動制御されます。

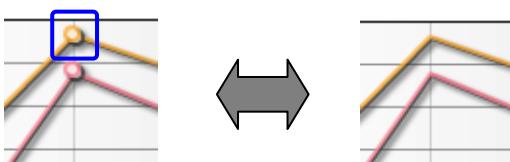
「データラベルを全て表示」では、スペースの大小にかかわらず、すべて表示します。

■データポイントの表示を変更する



アイコンをクリックすることで、データポイントの表示・非表示を切り替えることができます。

データポイントが非表示でも、カーソルをデータポイントに近付けると、ポップアップでデータラベルは表示されます。また、データポイントでおこなえる右クリックのメニューも有効のままでです。

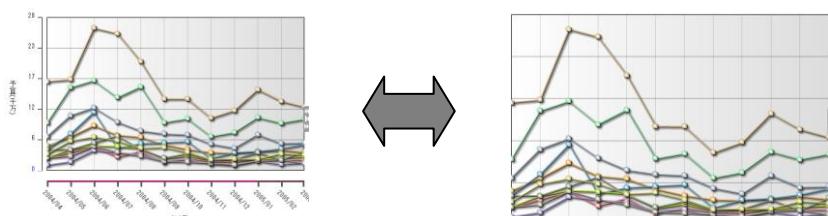


MEMO 本機能を利用できるチャートは、「折れ線」「積み上げエリア」「100%積み上げエリア」「レーダー」となります。

■軸表示を変更する



アイコンをクリックすることで、すべての軸（数値軸、行軸）の表示・非表示を一括で切り替えることができます。



■回帰線を変更する



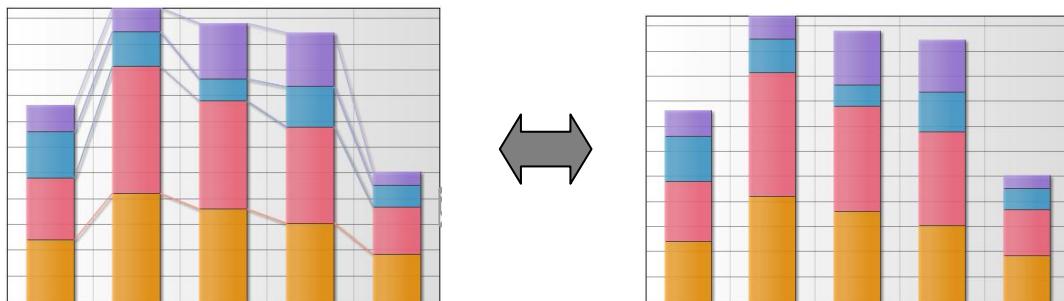
縦型のチャートなどについては、アイコンをクリックすることで、チャートに回帰線を追加表示できます。クリックを繰り返すことで、回帰線の種類の切替をおこなえます。回帰線は「回帰線非表示→1次回帰線を表示→2次回帰線を表示→3次回帰線を表示→ロジスティック線を表示」の順序で切り替えられます。

MEMO 本機能を利用できるチャートは主に「縦型」となります。

■ガイド線を変更する



ガイド線とは、積み上げチャート上で同じ列のデータを結んだ線です。ガイド線を引くことにより、変化の推移がわかりやすくなります。アイコンをクリックすることで、表示・非表示を切り替えることができます。

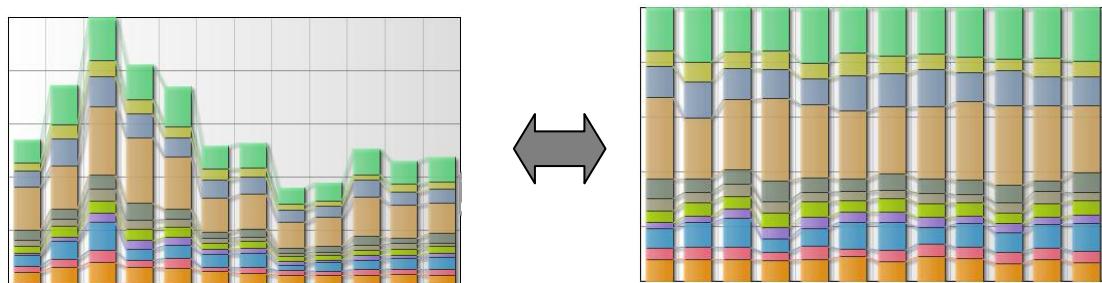


■100%割合表示を変更する



アイコンをクリックすることで、積み上げの数値表示から100%割合表示へ切替がおこなえます。100%割合表示にすると、全体の中で占める割合の推移がとらえやすくなります。

MEMO 本機能を利用できるチャートは、「積み上げ棒」、「積み上げエリア」となります。



■行軸ラベルの表示を変更する



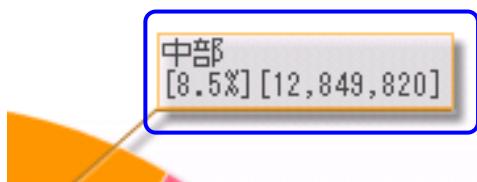
アイコンをクリックすることで、行データ、集計項目の内容を行軸ラベルとして表示するか、表示しないかを切り替えることができます。

MEMO 本機能を利用できるチャートは、「円」のみとなります。

■データラベルの表示内容を変更する



データラベルには、通常、列名、割合、データの値が表示されます。
アイコンをクリックすることで、円、レーダーの場合は、ラベルの表示内容を、「列名→値→割合→すべて」と切り替えることができます。
アイコンをクリックすることで、ラベルの表示内容を次の順序で切り替えることができます。



[中部] :列名 、 [8.5%] :割合 、 [12,849,820] :値

MEMO 本機能を利用できるチャートは、「円」「レーダー」となります。

■プラス・マイナスデータ表示を変更する

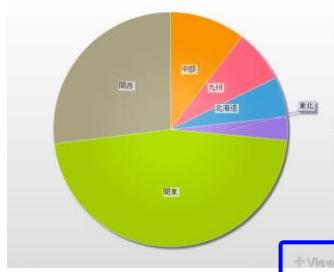


※チャート「100%積み上げ棒」、「100%積み上げエリア」の場合。 ※チャート「円」の場合。

データにプラスとマイナスのデータの両方がある場合、プラスデータのみに注目するために表示の切替をおこなって、表示範囲を変更することができます。

アイコンをクリックすることで、データの表示範囲を切り替えられますが、チャートの種類によって、切替の表示範囲が少し異なります。

MEMO 円チャートの場合の表示は下記となります。

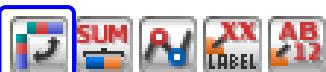


※プラスデータの場合

※マイナスデータの場合



■表示軸を変更する



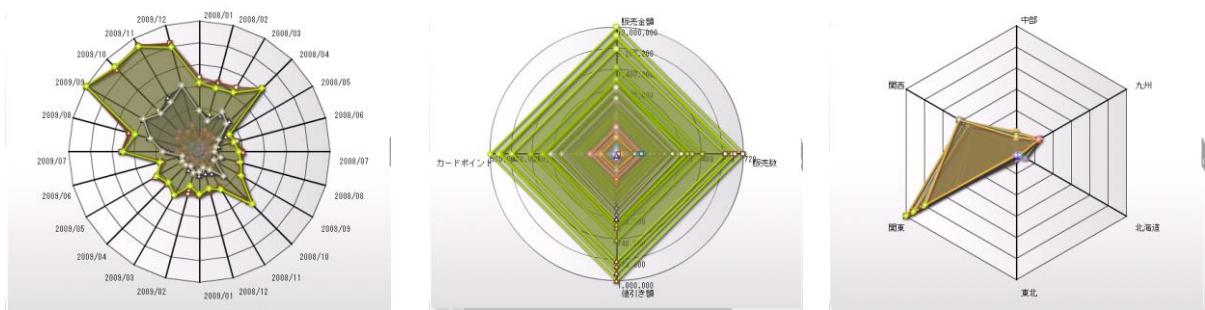
レーダーチャートで使用すると、表示の軸となる項目を切り替えることができます。

集計表では、集計項目の表示位置を行項目側・列項目側で切り替えます。

この例では、行を表示軸とした場合年月ごとに、列では地域ごと、集計項目では、販売金額などの項目ごとに、レーダーチャートが作られています。行項目、列項目、集計項目の単位で全体のバランスや要素ごとの比較をおこないたい場合に使用します。

《レーダーの場合》

※「行（日付）」を表示軸 ※「集計項目（販売金額）」を表示軸 ※「列（地域）」を表示軸



行データが合計表示になっている場合、レーダーチャートで行を表示軸にすると、頂点が1つとなって表示されてしまいます。その場合は、行データごとに分けて表示してください。

《集計表の場合》

年	月	地域	中部				九州				北海道			
			販売金額	販売数	値引き額	カードポイント	販売金額	販売数	値引き額	カードポイント	販売金額	販売数	値引き額	カードポイント
2008	01	販売金額	2,045,170		1,429,670		1		2,000,000		1,380,200		102,232	
		販売数	158		108		150		1,955,090		1,327,180		71,457	
		値引き額	275,180		152,700		270		1,955,090		1,327,180		71,457	
		カードポイント	102,232		71,457		100		1,955,090		1,327,180		71,457	
	02	販売金額	3,127,180		2,955,090		210		2,438,130		2,438,130		254,090	
		販売数	188		185		188		1,702,430		1,702,430		121,65	
		値引き額	267,360		287,800		260		1,702,430		1,702,430		85,05	
		カードポイント	158,328		147,729		158		905,260		905,260		45,24	
	03	販売金額	2,762,130		2,515,780		84		986,170		986,170		71,15	
		販売数	210		183		210		1,422,930		1,422,930		74,21	
		値引き額	337,980		289,220		337		1,484,720		1,484,720		59,34	
		カードポイント	138,081		125,759		138		82		82		91,44	
04	販売金額	2,433,130		2,247,780		104		1,187,120		1,187,120		1,187,120		
	販売数	168		168		168		1,049,080		1,049,080		1,049,080		
		合計	23,354,520		1,587		2,378,980		2,378,980		1,187,45			



アイコンをクリックするたびに、集計項目の表示位置を行項目側と列項目側とで切り替えることができます。このアイコンは、行項目に関連づけて集計項目を見たい、または列項目に関連づけて集計項目を見たいという場合に使用します。レイアウトが異なるだけで、データは同じものが表示されます。

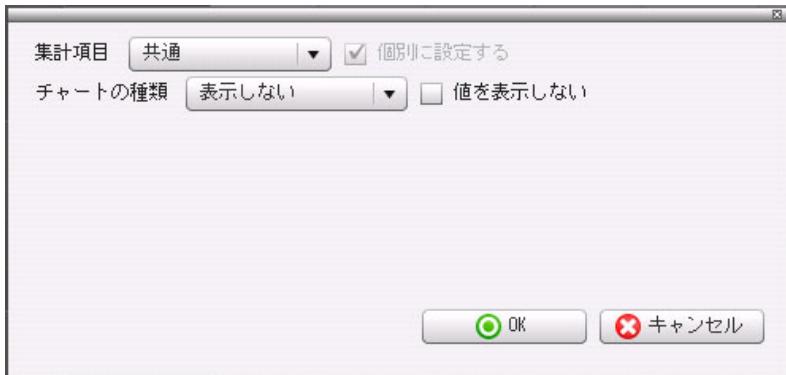
MEMO 本機能を利用できるチャートは、「レーダー」、「集計表」となります。

■集計表のしきい値を変更する

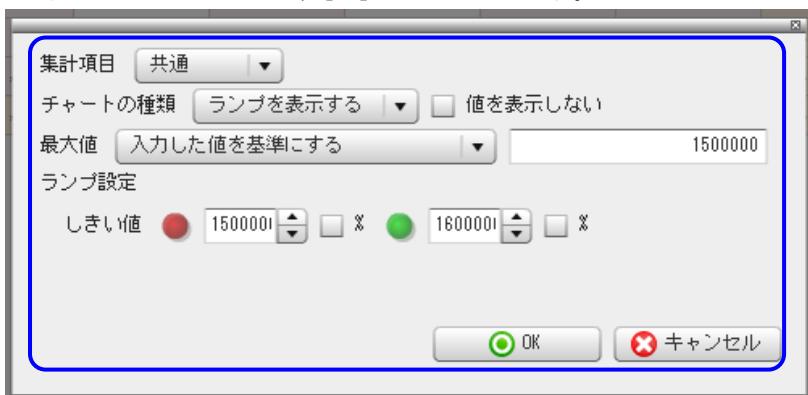


集計表ではセルの中にチャートを表示することで、各データの比較・分析をしやすくすることができます。数値の比較をしなくとも、一目で状態の変化を確認できます。

1 しきい値のアイコンをクリックします。



2 各項目を選択・入力し、[OK]をクリックします。



MEMO 各項目は以下から選択します。

集計項目：共通、件数、売上金額

チャートの種類：表示しない、棒を表示する、ゲージを表示する、ランプを表示する、矢印を表示する

※「最大値」以下項目は、チャートの種類で選択したものによって異なります。

しきい値：150000以下の場合[●]、1600000以上の場合[●] にした場合の集計表は下図となります。

完了予定(年)		2011						総合計	
完了予定(月)		01		02		03			
部署名	フェーズ	受注	合計	受注	合計	受注	合計		
営業2課	営業担当者	売上金額							
	上木 雷太	● 800,000.0	● 800,000.0	● 800,000.0	● 800,000.0	● 1,756,000.0	● 1,756,000.0	● 3,356,000.0	
	前園 清治	● 1,000,000.0	● 1,000,000.0	● 2,000,000.0	● 2,000,000.0			● 3,000,000.0	
	宮崎 貴生			● 156,000.0	● 156,000.0	● 5,000,000.0	● 5,000,000.0	● 5,156,000.0	
合計		● 1,800,000.0	● 1,800,000.0	● 2,956,000.0	● 2,956,000.0	● 6,756,000.0	● 6,756,000.0	● 11,512,000.0	
総合計		● 1,800,000.0	● 1,800,000.0	● 2,956,000.0	● 2,956,000.0	● 6,756,000.0	● 6,756,000.0	● 11,512,000.0	

HINT 項目について説明します。

《集計項目》

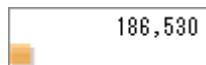
集計をする項目を指定します。集計項目タブと同じ選択肢がドロップダウンリストで表示されます。集計項目のそれぞれに個別に設定するときには、隣りの「個別に設定する」に・を入れ、以下の設定をおこないます。

《チャートの種類》

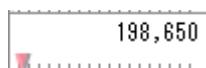
「チャートの種類」は集計上のセル上にデータの状態を表すアイコンなどを追加します。プルダウンリストから「表示しない」「棒を表示する」「ゲージを表示する」「ランプを表示する」「矢印を表示する」のいずれかひとつを選びます。

表示しない：アイコンなどを表示せず、シンプルなセルの状態で表示します。（初期状態）

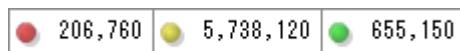
棒を表示する：棒グラフでデータを表示します。（下図）



ゲージを表示する：セルの横幅にゲージを表示し、目盛への▽で表示します。（下図）



ランプを表示する：緑、赤、黄のランプを表示します。（下図）



矢印を表示する：矢印（青・赤）と●の3種類があります。（下図）



《棒・ゲージ・ランプの設定》

棒・ゲージ・ランプを選択すると、次の設定項目が表示されます。しきい値の計算の基準を選択します。

- ・同一集計項目の最大値を基準にする
- ・同列の最大値を基準にする
- ・同行の最大値を基準にする
- ・入力した値を基準にする

この隣りにある「階層毎の最大値を使用する」にチェックを入れると、最大値は階層ごとになります。

《ランプの設定》

しきい値のうちランプの設定をします。赤、緑、黄、3つのランプがあります。赤と緑は、それぞれ数字を指定できます。枠にはマイナスの数字を指定することも可能です。「%」にチェックを入れると、数字を実数字ではなく割合で計算します。黄は、赤と緑のどちらにも当てはまらないセルに表示されます。

《矢印の設定》

同じく、矢印の設定をします。赤と青の矢印、●の3種類があります。赤と青は、表示の条件を指定できます。

●は、赤と青のどちらにも当てはまらないセルに表示されます。

比較対象 個別に集計項目へしきい値を設定するときに有効になります。「同じ集計項目」か、その他の集計項目のどれかひとつを選択します。

比較方向 データをどのセルと比較するのかを指定します。「上と比較する」「下と比較する」「左と比較する」「右と比較する」からひとつ選択できます。

しきい値 矢印のしきい値を設定します。それぞれ数字を指定でき、枠にはマイナスの数字を指定することも可能です。「%」にチェックを入れると、数字を実数字ではなく割合で計算します。

■行項目の縦横表示を変更する



集計表では行項目の表示を縦または横に切り替えられます。[行項目の縦横切替] アイコンをクリックすると行項目の表示位置が縦→横の順で変わります。

年	月	地域	中部	九州	北海道	東北	関東	関西
2008	01	販売金額	568,780	914,820	201,210	103,900	5,944,450	3,513,270
	02	販売金額	1,376,440	1,917,380	206,070	56,700	5,641,720	2,726,640
	03	販売金額	1,034,020	1,597,620	115,910	655,150	5,875,320	3,939,310
	04	販売金額	1,063,820	1,859,210	157,850	393,620	7,654,850	3,853,750
	05	販売金額	774,380	583,790	268,800	35,180	9,004,220	1,963,870
	06	販売金額	328,180	970,080	214,840	96,380	8,115,880	1,493,450
	07	販売金額	445,380	878,110	145,140	54,950	8,408,080	1,306,020
	08	販売金額	457,750	619,410	89,750	25,530	3,698,430	1,307,280
	09	販売金額	644,800	1,179,930	23,830	136,020	4,184,260	1,481,880
	10	販売金額	1,540,450	1,318,860	624,890	80,280	8,438,800	2,988,320
	11	販売金額	589,000	491,890	155,710	65,200	3,777,830	1,828,790
	12	販売金額	992,480	1,181,800	242,850	134,730	3,302,660	1,482,080
	合計	8,815,510	13,259,960	2,448,450	1,895,600	56,028,300	27,894,580	
2009	01	販売金額	941,310	564,360	113,890	88,350	9,094,320	1,760,400
	02	販売金額	688,540	912,060	295,390	62,260	8,058,720	1,886,520
	03	販売金額	940,540	722,020	155,010	39,810	4,328,450	1,480,780
	04	販売金額	624,280	778,850	164,090	297,580	3,787,080	1,847,380
	05	販売金額	630,500	1,129,960	252,110	127,420	4,229,160	1,821,240

年	月	中部	九州	北海道	東北	関東	関西			
2008	01	販売金額	568,780	1,376,440	1,034,020	1,063,820	774,380	328,180	445,380	
	02	販売金額	914,820	1,917,380	1,597,620	115,910	583,790	970,080	878,11	
	03	販売金額	201,210	206,070	208,070	115,910	157,650	268,800	214,840	145,14
	04	販売金額	655,150	393,620	3,698,430	3,853,750	7,654,850	3,004,220	3,115,880	3,408,08
	05	販売金額	5,875,320	3,939,310	8,408,080	9,004,220	8,115,880	1,963,870	1,493,450	1,308,02
	06	販売金額	3,698,430	3,853,750	1,307,280	1,481,880	1,482,080	2,988,320	2,988,320	2,988,320
	07	販売金額	774,380	328,180	445,380	878,11	878,11	878,11	878,11	878,11
	08	販売金額	328,180	445,380	878,11	1,307,280	1,481,880	1,482,080	1,482,080	1,482,080
	09	販売金額	445,380	878,11	1,307,280	1,481,880	1,482,080	1,482,080	1,482,080	1,482,080
	10	販売金額	878,11	1,307,280	1,481,880	1,482,080	1,482,080	1,482,080	1,482,080	1,482,080
	11	販売金額	1,307,280	1,481,880	1,482,080	1,482,080	1,482,080	1,482,080	1,482,080	1,482,080
	12	販売金額	1,482,080	1,482,080	1,482,080	1,482,080	1,482,080	1,482,080	1,482,080	1,482,080
	合計	11,252,430	11,926,950	13,217,330	14,283,000	8,628,190	8,224,780	8,235,63		

MEMO 本機能を利用できるチャートは、「集計表」のみとなります。

■合計表示内容を変更する



集計表では、合計表示内容を切り替えることができます。このダイナミックチェンジアイコンは、行にある合計項目と、列にある合計項目、それぞれ別のアイコンで切り替えます。

アイコンの見かけはほとんど同じですが、行項目への操作をおこなうアイコンはオレンジの行が一行あり、列項目への操作をおこなうアイコンはオレンジの列が一列あるという点が違います。

〔合計表示内容の変更（行）〕（または〔合計表示内容の変更（列）〕）アイコンを表示します。例えば総合計がない集計表に対し、「総合計を表示する」にしたときは、集計表の表示は次のように変わります。

MEMO 本機能を利用できるチャートは、「集計表」のみとなります。

HINT 営業2課の2011年に受注した売上金額（3月時点）を集計表にて閲覧する場合。絞り込んだだけでは、初期表示は下図のようになっています。

完了予定(年):	2011	完了予定(月):		部署名:	営業2課				
フェーズ:	受注		集計項目:	売上金額					
◀	チャート切替	目	ダウンロード	タブ表示切替	凡例表示切替				
◀	元に戻す								
完了予定(年)	2011						総合計		
完了予定(月)	01		02		03				
フェーズ	受注	合計	受注	合計	受注	合計			
部署名	営業担当者	売上金額	売上金額	売上金額	売上金額	売上金額	売上金額		
営業2課	上木 雷太	800,000.0	800,000.0	800,000.0	800,000.0	1,756,000.0	1,756,000.0	3,356,000.0	3,356,000.0
	前園 清治	1,000,000.0	1,000,000.0	2,000,000.0	2,000,000.0			3,000,000.0	3,000,000.0
	宮崎 貴生			156,000.0	156,000.0	5,000,000.0	5,000,000.0	5,156,000.0	5,156,000.0
総合計		1,800,000.0	1,800,000.0	2,956,000.0	2,956,000.0	6,756,000.0	6,756,000.0	11,512,000.0	11,512,000.0

合計表示内容の変更(行) ⇒[総合計を表示する]、合計表示内容の変更(列) ⇒[合計を表示する]に設定をすると、下図のようになり整理された集計表を閲覧することができます。

部署名	完了予定(年)	2011			合計
	完了予定(月)	01	02	03	
	フェーズ	合計	合計	合計	
部署名	営業担当者	売上金額	売上金額	売上金額	売上金額
営業2課	上木 雷太	800,000.0	800,000.0	1,756,000.0	3,356,000.0
	前園 清治	1,000,000.0	2,000,000.0		3,000,000.0
	宮崎 貴生		156,000.0	5,000,000.0	5,156,000.0
総合計		1,800,000.0	2,956,000.0	6,756,000.0	11,512,000.0

■ 値の端数を変更する



集計表で扱う数字の端数を、軸の設定に合わせて丸めることができます。

アイコンのクリックで、値の表示を切り替えることができます。数値の大きすぎるデータの場合、数値の違いがわかりにくくなるので、端数設定をすることで数桁程度の数値にして、集計表を見やすくなります。

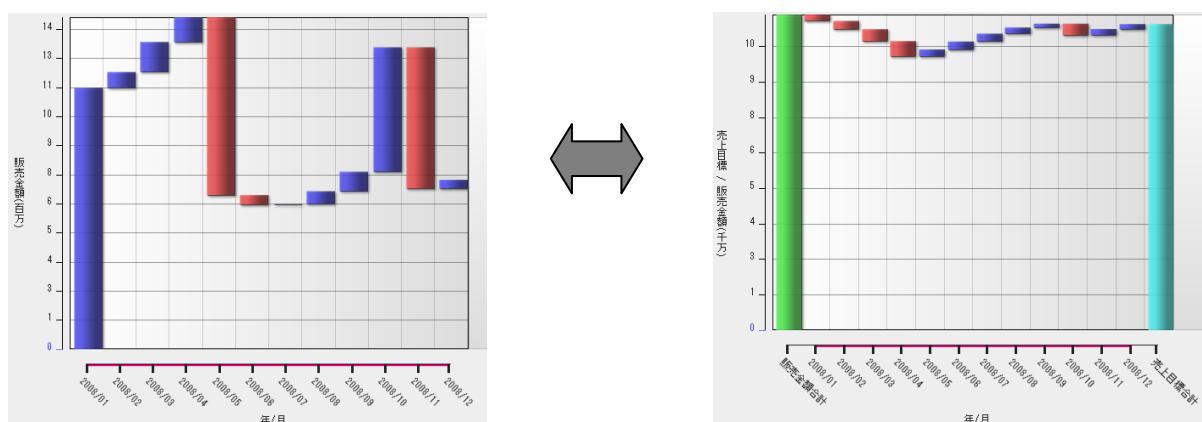
MEMO 本機能を利用できるチャートは、「集計表」のみとなります。

■比較モード変更する



「行比較モード」「集計項目比較モード」の2つの比較方法で表示ができます。

「行比較モード」では、ひとつ前の数値と比較します。例えば、先月と比べて売り上げがどう変化しているか、という比較をしたいときに使用します。「集計項目比較モード」では、2つの集計項目を比較します。アイコンをクリックすると、表示方法を切り替えることができます。



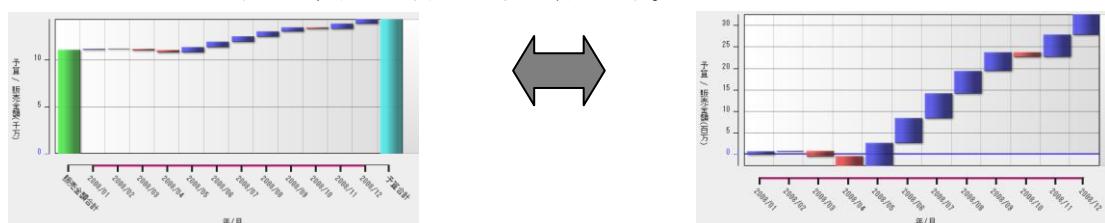
MEMO 本機能を利用できるチャートは、「ウォーターフォール」のみとなります。

■集計項目比較モードで合計表示を変更する



ウォーターフォールチャートで「集計項目比較モード」を選択しているとき、集計項目の合計について表示/非表示を変更できます。1年など、一定の期間でのまとめた合計も一緒に見たいときには、集計項目の合計を表示させます。例えば、今までの1年間で売上金額の総合計と毎月の実績がどうなっているか確認したいときに使用します。逆に、毎月の達成度だけを見たいときには、非表示にして使用します。

アイコンをクリックすると、表示/非表示を切り替えます。



MEMO 本機能を利用できるチャートは、「ウォーターフォール」のみとなります。

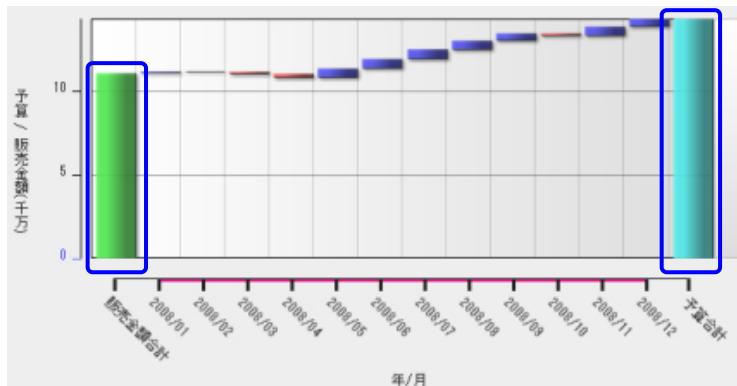
■左右の項目表示を変更する



対極棒チャート、ウォーターフォールチャート（「集計項目比較モード」の場合のみ）では、左右に分かれて集計項目を表示しています。例えば、対極棒では、軸を中心にして左右に横棒を表示します。ウォーターフォールでは、チャートエリアの左右に項目の合計があり、その差分をウォーターフォールとして表示しています。

アイコンをクリックすると、チャートに使用する集計項目を順番に切り替えます。

データの対比を、集計項目を切り替えておこないたい場合に使用します。



MEMO 本機能を利用するチャートは、「ウォーターフォール」のみとなります。

■6 チャートのデザイン

折れ線や棒の太さ、折れ線の線種、破線表示など、列のスタイルを変更することができます。また、データラベルの表示・非表示を切り替えるほか、データラベルに表示される内容を変更することも可能です。

以下のデザインの変更について説明します。

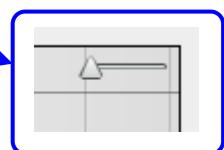
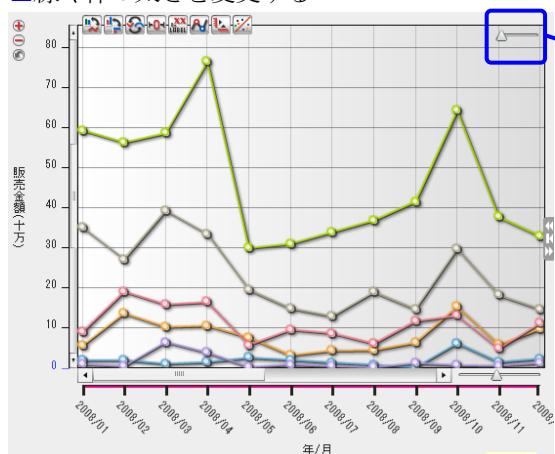
*線や棒の太さを変更する

*線や棒を破線表示に変更する

*集計表のスタイルを変更する

6-1 折れ線や棒チャートを変更する

■線や棒の太さを変更する



折れ線や棒の太さの変更は、チャートエリア右上にある「太さ調整スライダー」で、太さを調整します。
[細い←▲→太い] となります。

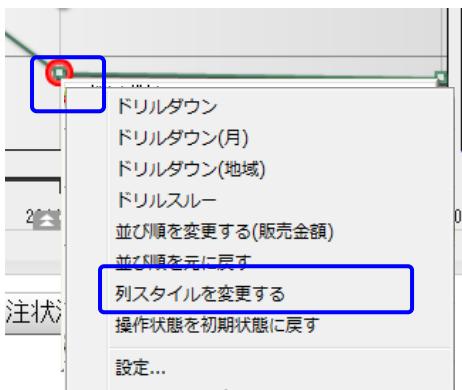
■線や棒を破線表示に変更する

折れ線や棒のスタイルを、破線（棒の場合は、ストライプ） \leftrightarrow 実線に変更することができます。

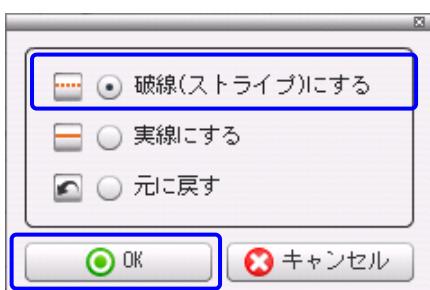
1 凡例上で破線表示に変更したい列項目を[右クリック]し、表示されるメニューから「列スタイルを変更する」を選択します。



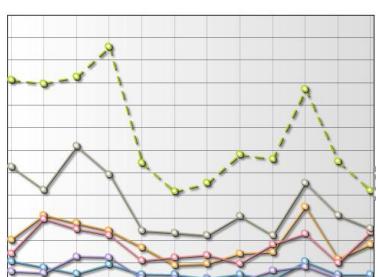
または、チャート上で変更する列のデータポイントを選択して[右クリック]し、表示されるメニューから「列スタイルを変更する」を選択します。



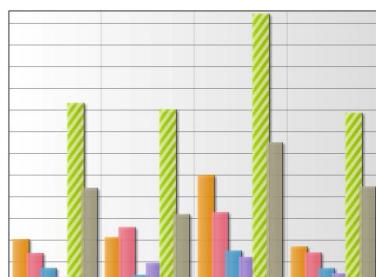
2 設定画面で、[破線 (ストライプ) にする] を選択し、[OK] をクリックします。



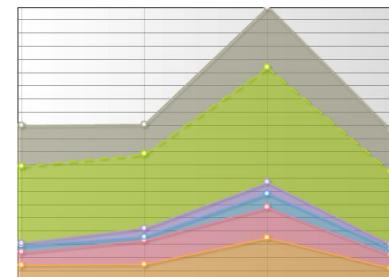
MEMO 破線表示にした場合、下図のように、チャートの種類によって表現が異なります。 (対象 : 黄緑)



※折れ線の場合



※棒の場合



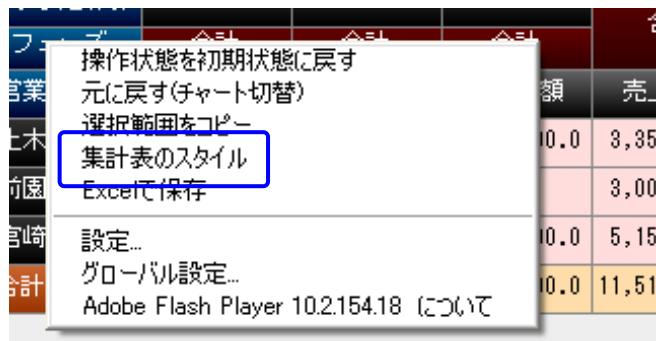
※エリアの場合

6-2 集計表のスタイルを変更する

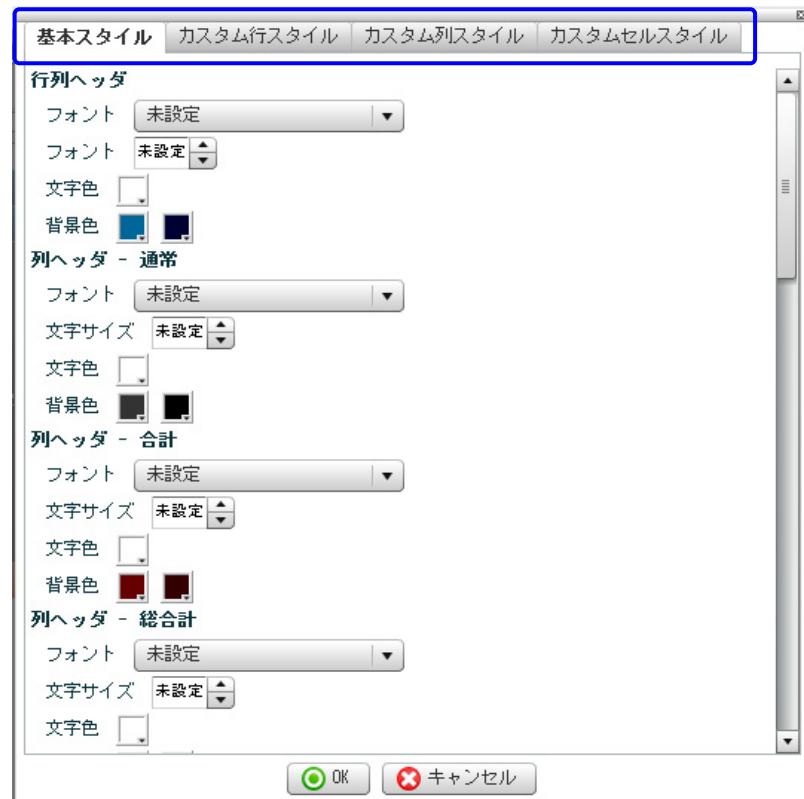
集計表ではスタイルの変更をおこなえます。スタイルは、全体に対する設定、行ごとの設定、列ごとの設定、セルごとの設定別に指定します。変更できるスタイルは、フォントの種類、フォントサイズ、文字色、背景色などです。

個人的に見やすい配色にするといった目的のほかに、例えば、自分の担当する地域だけは列の色をその他の地域と変更するときなどに使用します。

- 1 変更したい行（または列、セル）上で[右クリック]し、表示されるメニューから「集計表のスタイル」を選択します。



- 2 スタイルを設定し、[OK]をクリックします。



■ 基本スタイル

行列ヘッダ		集計項目ヘッダ		列ヘッダ-通常		列ヘッダ-総合計
行ヘッダ-通常	フェーズ	価格交渉中	提案書/見積書提示中	最終交渉中	受注	総合計
部署名	営業担当者	売上金額	売上金額	売上金額	売上金額	売上金額
営業2課	上木 雷太	1,500,000.0			1,756,000.0	3,256,000.0
	前園 清治		500,000.0	500,000.0		5,500,000.0
	宮崎 貴生			1,000,000.0	5,000,000.0	6,000,000.0
	合計	1,500,000.0	500,000.0	1,500,000.0	6,756,000.0	14,756,000.0
総合計		1,500,000.0	500,000.0	1,500,000.0	6,756,000.0	14,756,000.0

※上図の他に、列の合計ヘッダ（[列ヘッダー合計]）があります。

これらには、次のスタイルを [フォント] [文字サイズ] [文字色] [背景色] を指定します。

■カスタム行スタイル

行を指定して、スタイルの設定をおこないます。行を選択してからスタイル編集の画面表示した場合には、自動的に選択した行の名前が「行名」に入力されています。ここへ新たな行名を入力することもできます。スタイルの編集が終了したら、「追加/更新」ボタンをクリックすると、左の行名リストに追加できます。

[列サイズ] では高さを、[集計値セルー通常] [集計値セルー合計] [集計値セルー総合計] [集計値セルー入力] [集計値セルー予測] に対して、次のスタイルを [フォント] [文字サイズ] [文字色] [背景色] を指定します。なお、編集したい項目の「未設定」にチェックが入っている場合は、外してから設定します。

■ カスタム列スタイル

年	月	地域	中部	九州	北海道	東北
2008	01	販売金額	568,780	914,820	201,210	103,900
	02	販売金額	1,376,440	1,917,380	208,070	56,700
	03	販売金額	1,034,020	1,597,620	115,910	655,150
	合計	販売金額	2,979,240	4,429,820	525,190	815,750
総合計		販売金額	2,979,240	4,429,820	525,190	815,750

列を指定して、スタイルの設定をおこないます。列を選択してからスタイル編集の画面表示した場合には、自動的に選択した列の名前が「列名」に入力されています。ここへ新たな列名を入力することもできます。

スタイルの編集が終了したら、[追加/更新] ボタンをクリックすると、左の列名リストに追加できます。

[列サイズ] では幅を、 [集計値セルー通常] [集計値セルー合計] [集計値セルー総合計] [集計値セルー入

力】 [集計値セル-予測] に対して、次のスタイルを [フォント] [文字サイズ] [文字色] [背景色] を指定します。なお、編集したい項目の [未設定] にチェックが入っている場合は、外してから設定します。

■カスタムセルスタイル

年	月	地域	中部	九州	北海道	東北	関東	関西
	10	販売金額	1,540,450	1,318,860	624,890	80,290	6,439,600	2,986,320
	11	販売金額	589,000	491,890	155,710	65,200	3,777,830	1,828,790
	12	販売金額	992,480	1,131,800	242,850	134,730	3,302,660	1,482,080
	合計	販売金額	9,815,510	13,259,900	2,448,450	1,835,600	56,028,300	27,994,580
2009	01	販売金額	941,310	564,360	113,890	88,350	3,694,320	1,760,400
	02	販売金額	698,540	912,060	295,390	62,260	3,058,720	1,886,520
	03	販売金額	940,540	722,020	155,010	39,810	4,328,450	1,480,780

セルを指定して、スタイルの設定をおこないます。

セルにカーソルが合っているときにスタイル編集の画面表示した場合には、自動的に選択したセルの名前が [セル名] に入力されています。ここへ新たなセル名を入力することもできます。スタイルの編集が終了したら、 [追加/更新] ボタンをクリックすると、左のセル名リストに追加できます。



[集計値セル-通常] [集計値セル-合計] [集計値セル-総合計] [集計値セル-入力] [集計値セル-予測] に対して、次のスタイルを [フォント] [文字サイズ] [文字色] [背景色] を指定します。なお、編集したい項目の [未設定] にチェックが入っている場合は、外してから設定します。

■7 データの絞り込み

チャートに表示されるデータは、行項目、列項目それぞれの項目タブで絞り込むことができます。

全体の中から特定の時期や場所など条件でのチャートを確認したいときに使用します。

例えば、2009年から2011年まで月ごとに表示されているデータを、2009年1~6月のタブだけを選択して絞り込み、2009年上半期のデータでチャートを表示することができます。

さらに、特に注目したいデータのみを表示させたい場合は、凡例またはチャート要素から要素を選択します。

例えば、似通ったグラフになっているデータのみを表示させたい、というときには、データポイントを複数選択することで、それ以外のデータを非表示にできます。

以下の操作について説明します。

*項目タブで絞り込む

*特定のデータのみ表示する

*非表示のデータを「その他」でまとめる

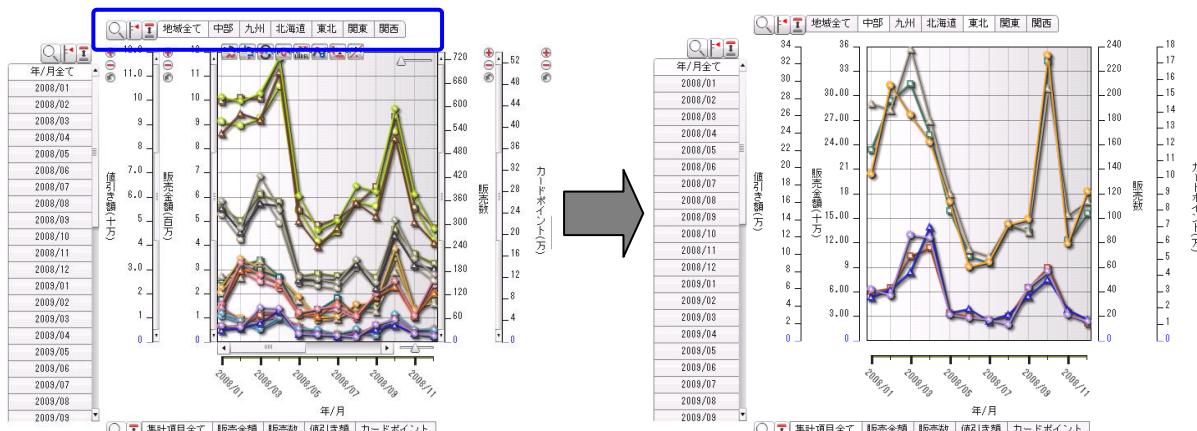
7-1 データ絞り込みを行う

■項目タブで絞り込む

行項目タブ、列項目タブ、集計項目タブから、任意のタブをクリックすることで、表示したい項目データを絞り込むことができます。

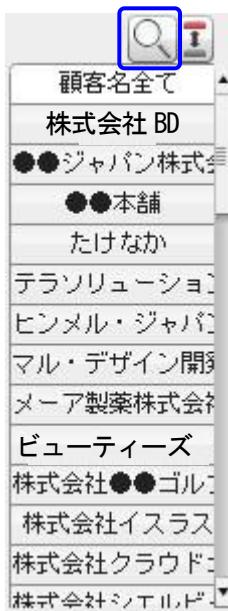
連続するタブを複数選択する場合は、[Shift] キーを押しながら、範囲を選択します。連続しないタブを個別に複数選択する場合は、[Ctrl] キーを押しながら、選択します。

選択したタブのデータのみが、凡例に表示されるようになります。



MEMO 項目タブが多数あるなど目的の項目タブが見つけにくい場合は、タブを検索したり、タブの階層を変更したりすることができます。

■項目タブを検索する

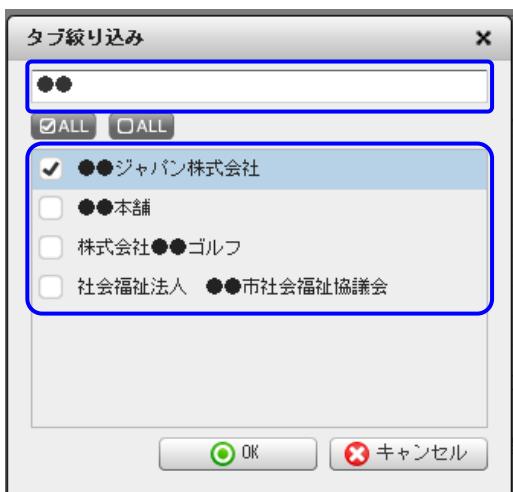


1 [タブ絞り込み] アイコンをクリックします。

2 検索ワードを入力します。

HINT 複数の条件を指定したい場合はスペースで区切ります。

条件は「中間一致」となり、ここで入力した文字列が含まれるデータ値が下部ウィンドウに表示されます。



3 選択状態とするデータにチェックを入れ、[OK] ボタンをクリックします。

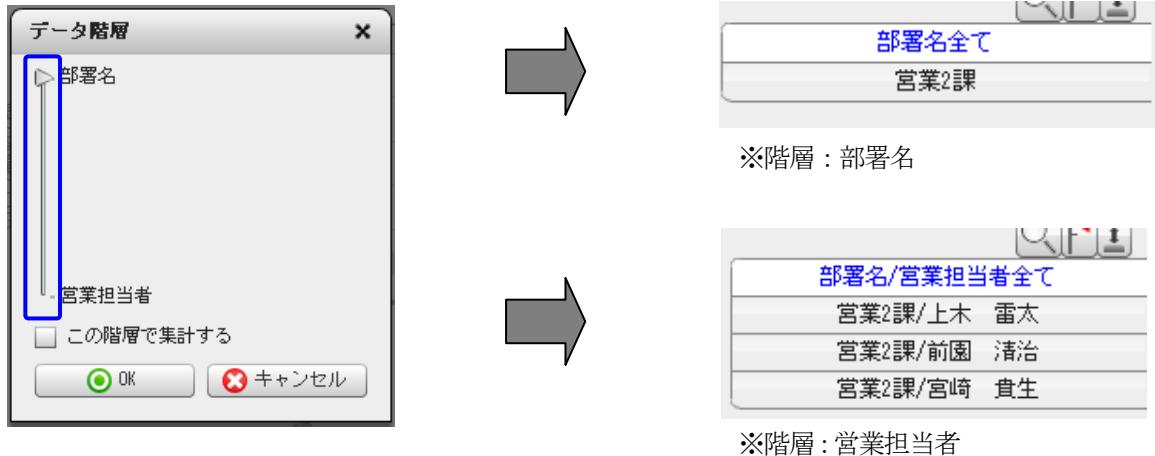
HINT [ALL]で、すべてにチェックを入れたり、すべてのチェックを外したりできます。チェックを入れたデータのタブが選択状態（項目タブをクリックしたときと同じ状態）となり、チャートに反映されます。

MEMO ある文字列に絞ってチェックをつけた後に、別の文字列に絞ってチェックをつけると、両方とも選択した状態になります。例えば、「東京」で絞って「東京都」にチェックをつけ、その後「千葉」で絞り込むと、「東京都」は画面から表示が消えますが、実際は「東京都」にチェックが付いたままの状態になっています。また、ウィンドウで選択した内容は、項目タブにも反映されます。

■項目タブの階層を変更する



行項目・列項目の階層が複数ある場合、[階層スライダー]によって、任意の階層に変更することが可能です。



階層スライダーで階層を変更すると、項目タブで選択していた内容に従って項目タブが選択状態となり、それにあわせてチャート自体も変更されます。

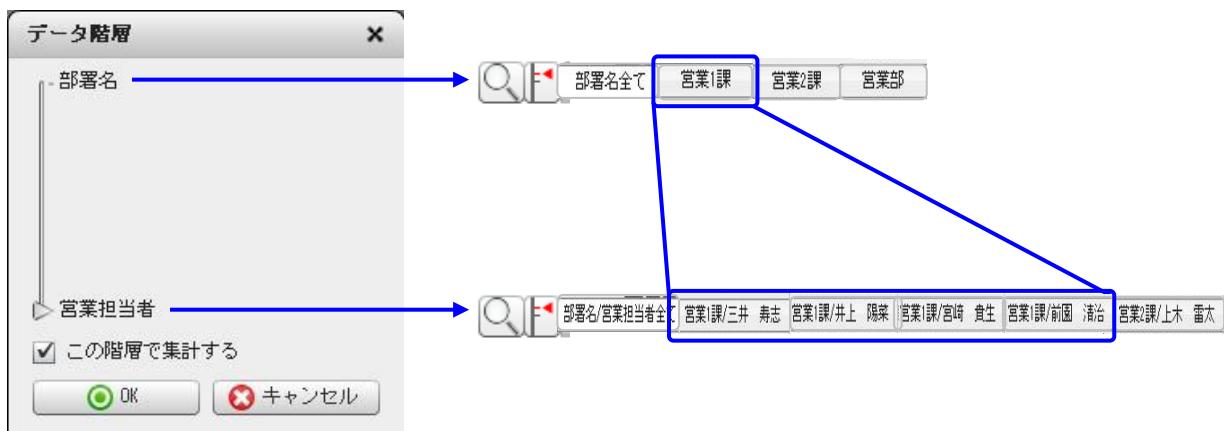
例えば、列項目が「部署名」、「営業担当者」という階層で構成されている場合、階層スライダーを「部署名」に合わせると、項目タブは、部署名の項目データのみ、「営業担当者」に合わせると、部署名/営業担当者の項目データが表示されます。（上図）

■階層を「上→下」に変更する

階層スライダーが「地域」のときに、「関東」を選択した状態で下層「支店」にスライドすると、地域「関東」に含まれる「支店」の項目データがすべて選択された状態となって表示されます。

同様に、階層スライダーが「支店」のときに、「関東/A支店」を選択した状態で「氏名」にスライドすると、支店「関東/A支店」に含まれる「氏名」の項目データがすべて選択された状態となって表示されます。

またチャートも、選択した階層の単位に再集計されて表示されます。

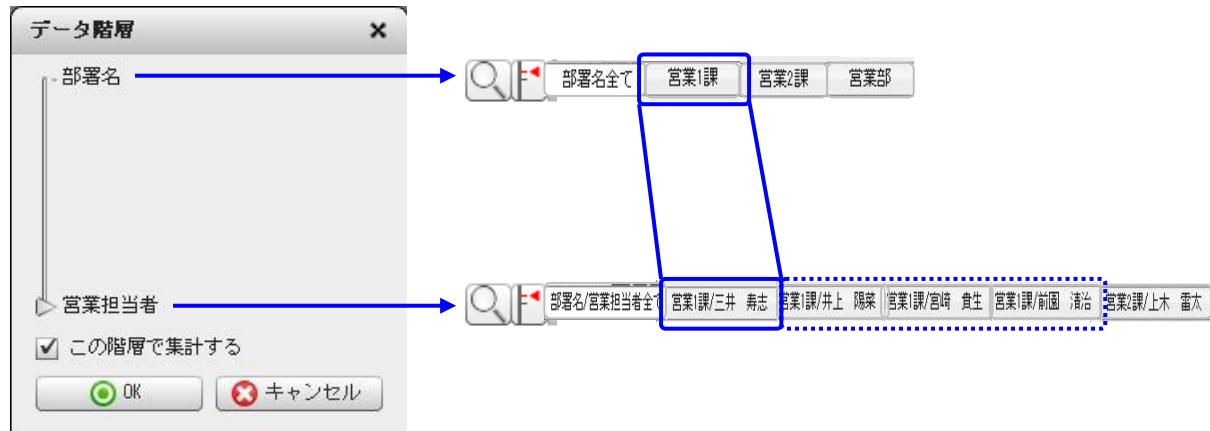


■階層を「下→上」に変更する

下層から上層にスライドする場合は、動作が異なります。

例えば、階層スライダーが「氏名」のときに、「関東/A支店/佐藤」を選択した状態で「支店」にスライドすると、支店「関東/A支店/佐藤」の上の階層である「関東/A支店」が選択された状態となって表示されます。チャートに表示されるデータも「関東/A支店」のデータとなります。

同様に、階層スライダーが「支店」のときに、「A支店」を選択した状態で「地域」にスライドすると、A支店の上の階層である地域「関東」が選択された状態となり、チャートに表示されるデータも「関東」のデータとなります。



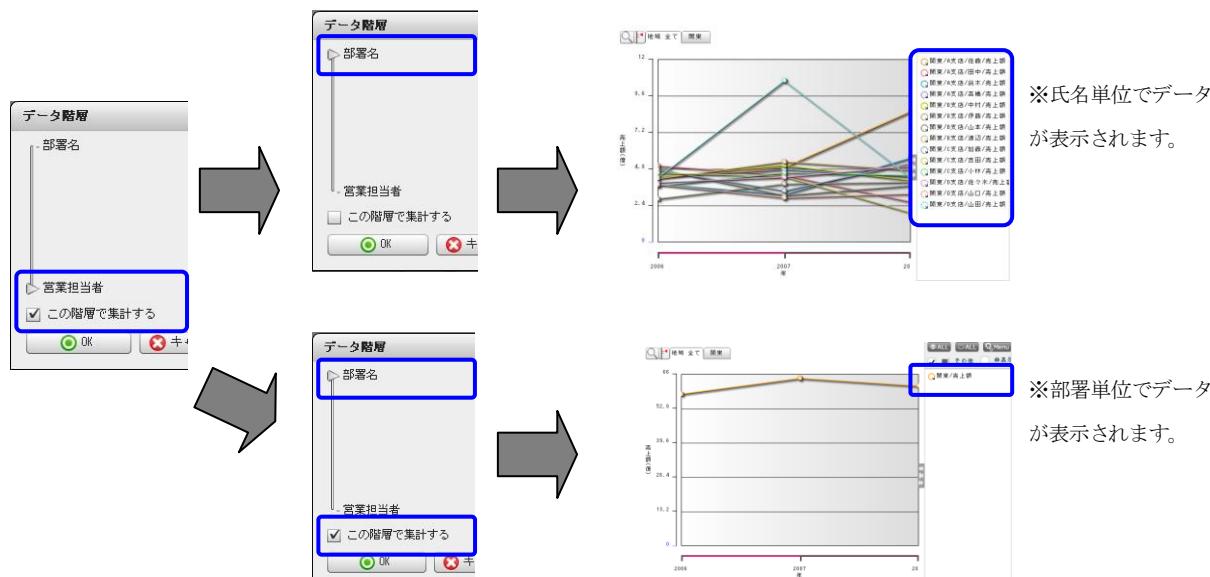
■階層に合わせて再集計する

項目タブのデータ階層を変更するときに、チャートも同じ階層の単位で集計したい場合は、【この階層で集計する】欄を指定します。

例えば、階層スライダーを「氏名」から「地域」にスライドする場合を見てみましょう。

「氏名」から「地域」にスライドすると、項目タブは「地域」単位となります。【この階層で集計する】にチェックを入れない場合は、チャートの集計単位は「氏名」となり、「地域」に含まれる「氏名」のデータがすべて表示されます。

【この階層で集計する】にチェックを入れた場合は、集計単位が「地域」となったデータが表示されます。



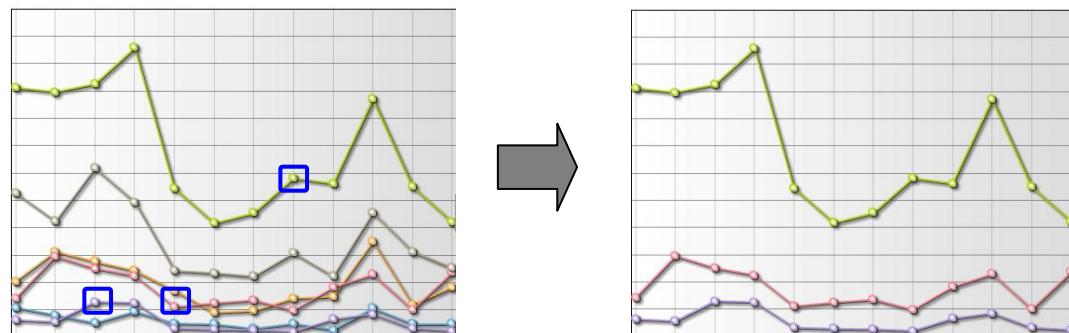
7-2 特定のデータのみを表示する

特定のデータのみ表示させたい場合、表示データをチャートエリア上で選択する方法と、凡例上で選択する

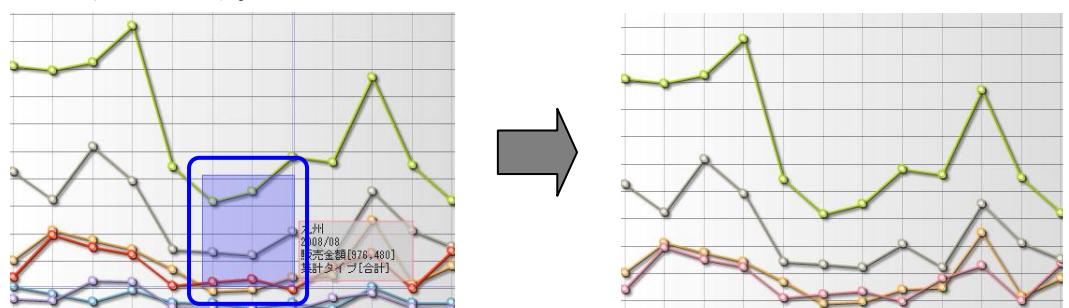
方法の2種類があります。

《チャートエリア上で選択する場合》

[Ctrl] キーを押しながら、表示したいチャート要素をクリックします。複数選択することができます。折れ線、レーダー、積み上げエリア、100%積み上げエリアの場合は、いずれかのデータポイントを選択します。 [Ctrl] キーを外すと、選択したチャート要素のみが表示されます。



または、ドラッグして矩形を描いて範囲を選択します。選択した範囲に含まれるチャート要素のみが表示されるようになります。

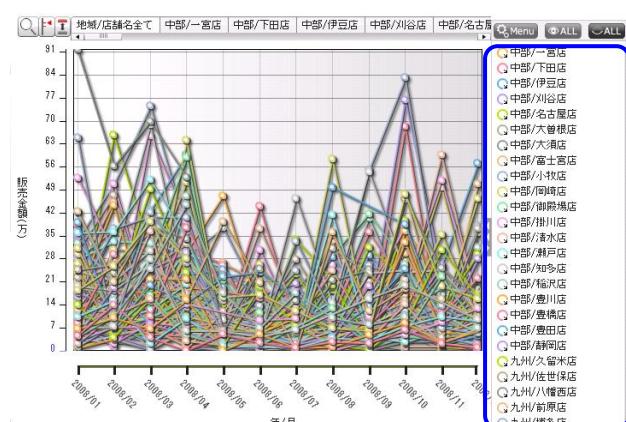


MEMO 非表示になったデータを再度表示させるには、凡例で表示するデータをクリックします。

《凡例上で選択する場合》

非表示にしたいデータを凡例よりクリックして非表示にしていきます。

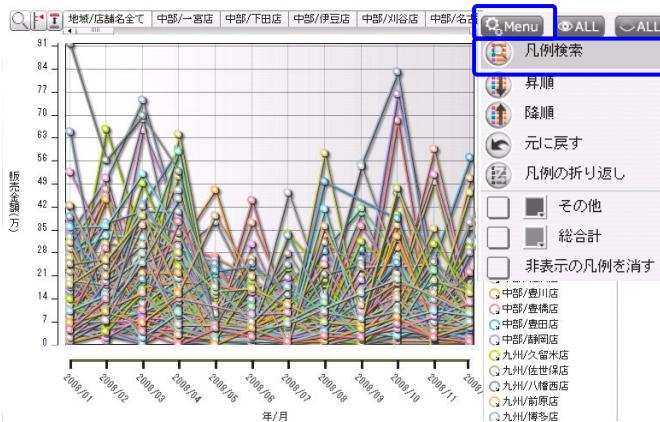
一括非表示/非表示は、[ALL]ボタンをクリックすることで可能です。凡例にデータが多数あって選択しにくい場合は、データを検索することができます。



■凡例検索をする

任意の文字列で、凡例要素を検索することができます。この機能は、凡例要素が多い場合などに利用します。

1 凡例の [Menu] をクリックして表示されるドロップダウンリストから、[凡例検索] を選択します。

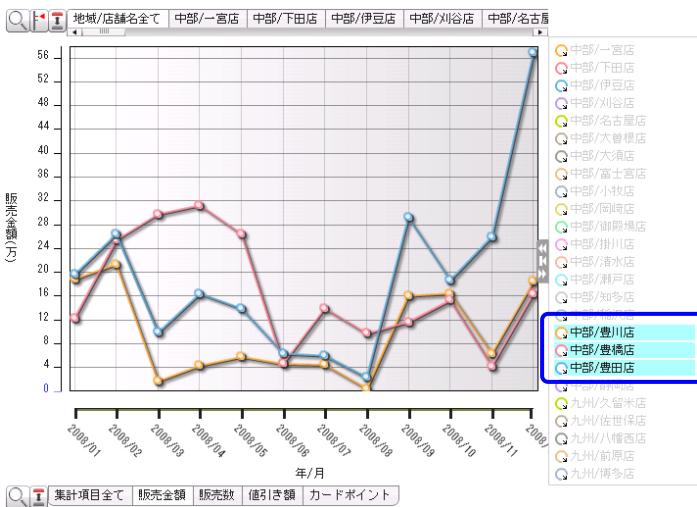


2 任意の文字列を入力して、[Search] ボタンをクリックします。

A screenshot of a search interface. A search bar contains the character '豊'. Below it is a checkbox labeled '検索でヒットした凡例のみを表示にする' (Show only examples that hit the search). The checkbox is checked and highlighted with a blue box.

HINT 中間一致で合致したデータが凡例上でハイライト表示されます。

[検索でヒットした凡例のみを表示にする] にチェックを入れると、該当するデータのみがチャートに表示されます。

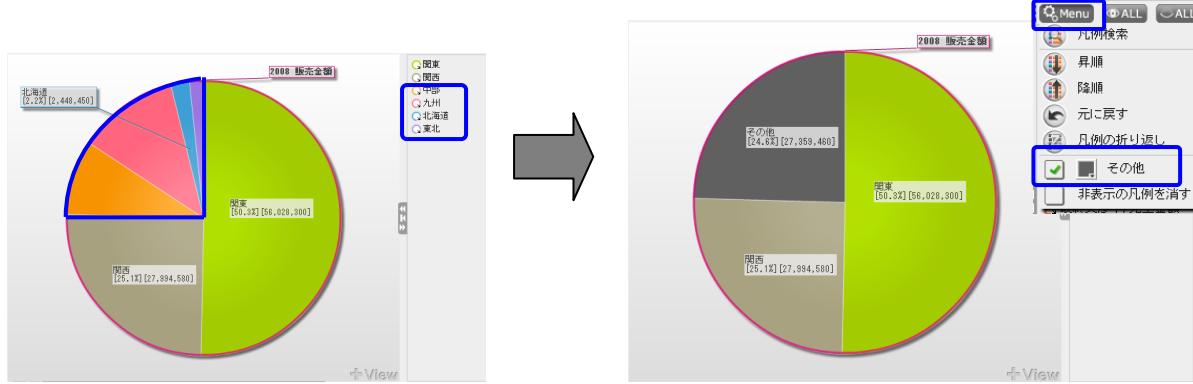


7-3 非表示データを「その他」としてまとめる

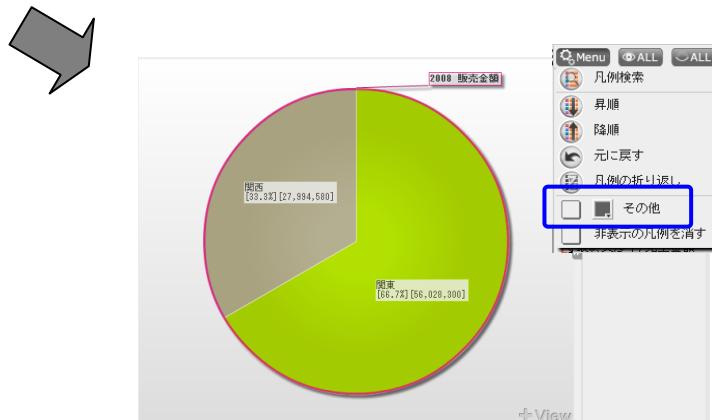
凡例で非表示になっているデータ（凡例でグレー表示されているもの）も集計し、その合計をチャートに「そ

「その他」として表示するか、しないかを指定することができます。

「その他」として集計する場合は、凡例のMENUで「その他」にチェックを入れます。また、「その他」のチャート上での表示色を指定します。



※「その他」としてまとめて表示した場合



※「その他」を表示しない場合

■8 ズーム表示

データ数が多くてチャートが見づらい場合などは、チャート上で範囲を選択して、ズーム表示することができます。

ズームの方法には、以下の3種類があります。

*数値軸、行軸ともにズームする

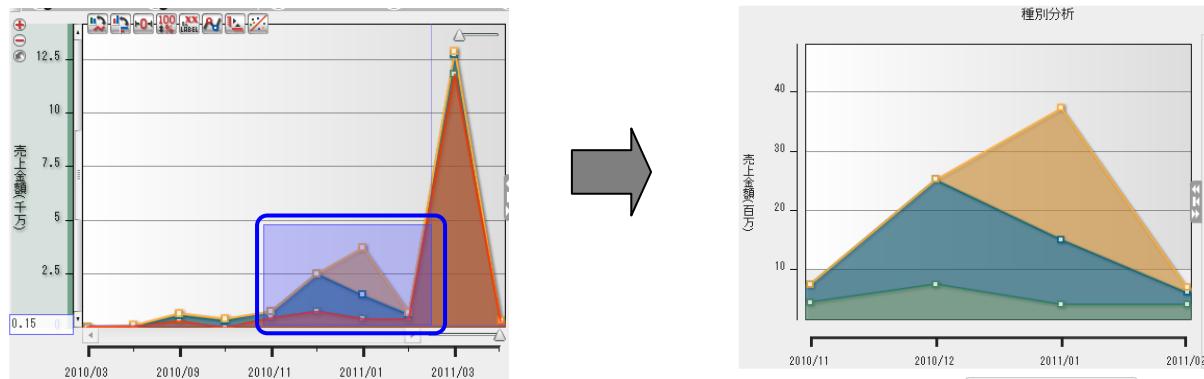
*行軸のみズームする

*数値軸のみズームする

8-1 行軸、数値軸をズームにする

■数値軸、行軸ともにズームする

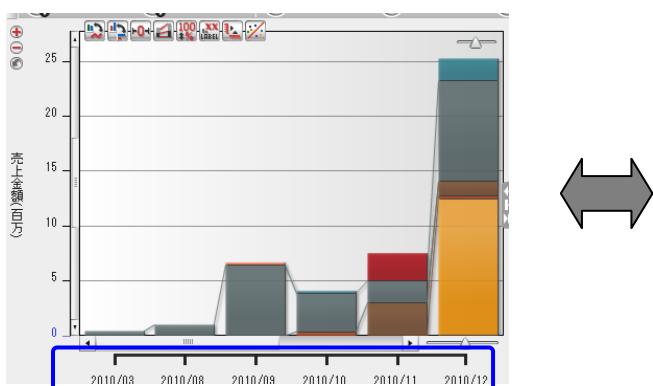
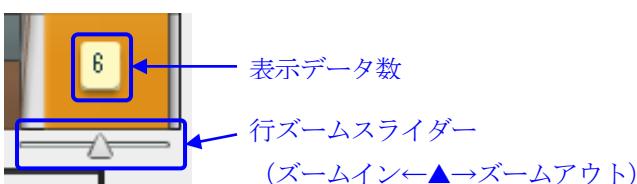
数値軸、行軸ともにズームするには、[Shift] キーを押しながら、拡大表示する範囲をドラッグして選択します。選択した範囲にあわせて数値軸、行軸の表示範囲が変更され、ズーム表示されます。



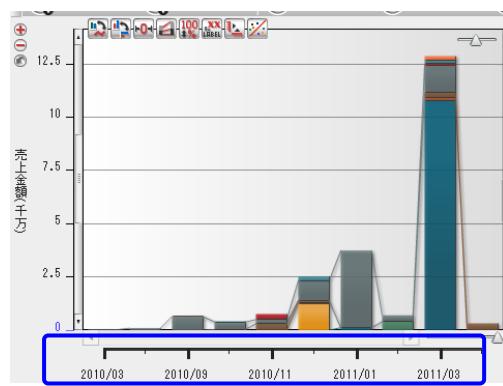
■行軸のみズームする

チャートでは、画面に表示される行データ数を変更し、ズーム表示させることができます。

例えば、3か月分、6カ月分、12か月分など異なる期間で表示されるチャートを切り替えながら、データの推移を概観したい、といった場合などに利用します。



※表示データ : 6



※表示データ : 10

■数値軸のみズームする

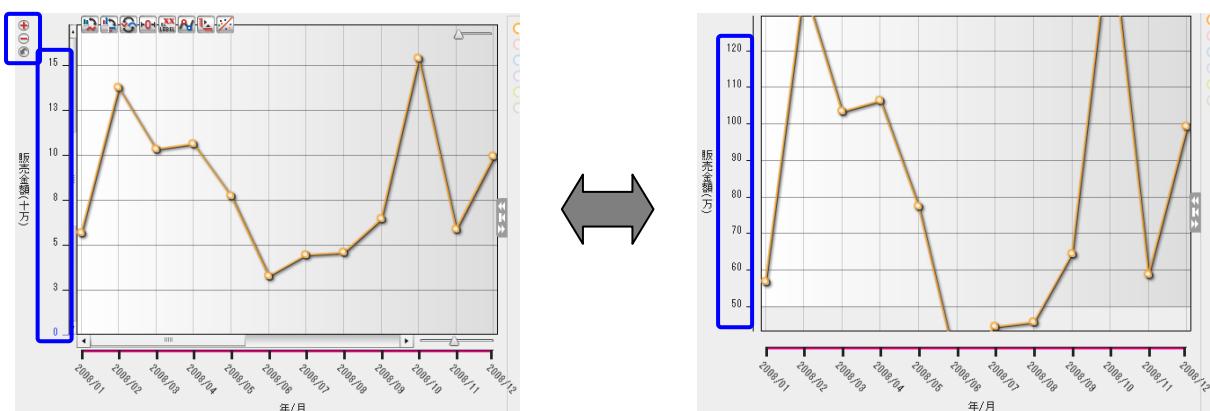
数値軸に表示されるデータ範囲を変更し、ズーム表示させることができます。変更した後に、デフォルトのデータ範囲に戻すことも可能です。

数値軸のみズームする場合は、【数値軸ズームボタン】を使用します。

【数値軸ズームボタン】は、各数値軸の右、または左にあるボタンです。



ズームイン
ズームアウト
初期状態に戻す



■9 データの並び替え

チャート上でデータの並び替えをおこなうことができます。並び替えには、次の方法が用意されています。

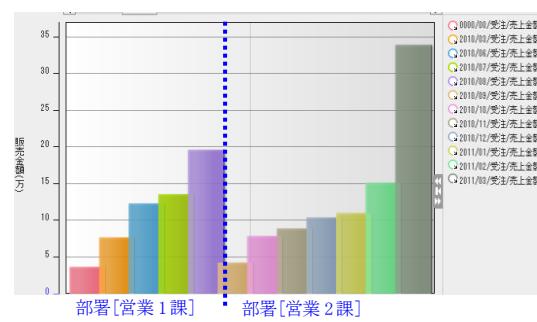
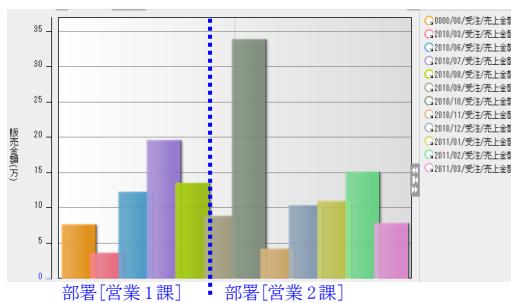
*データ値の大小を元に、昇順・降順に並べ替える

*データ値に関係なく、凡例の名前順にデータを並べ替える

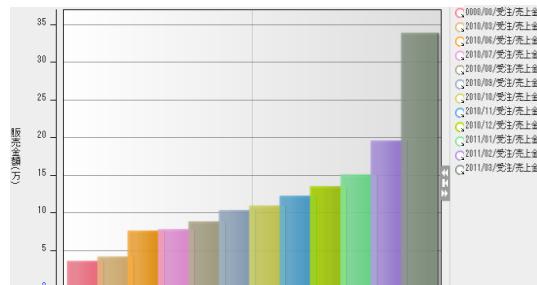
*任意の順序にデータを並び替える

チャート上で、列または行のデータ値を元にして、昇順・降順で並べ替えることができます。並べ替えの方法は、列または行、昇順・降順、階層を維持・維持しないから選べます。

階層とは列項目のデータ階層のことです。次のチャートは、[地域] — [各店舗] という2層のデータ階層があり、地域には「中部」「九州」の2つの要素があります。並べ替えをする前は、下図のように地域ごとに分かれていますが、昇順・降順にはなっていません。



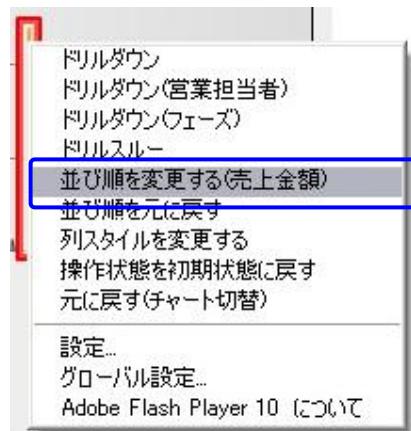
※行/昇順/階層を維持した場合



※行/昇順/階層を無視した場合

9-1 データ値の大小を基に昇順・降順に並び替えをする

1 チャート上でソートの基準となるデータポイントを選択して、[右クリック]し、[並び順を変更する]をします。

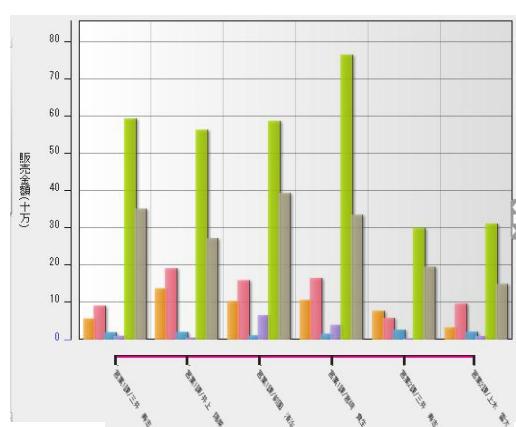


2 [昇順] - [階層を維持する]を選択し[OK]をクリックします。 (階層を維持したまま昇順にする場合)

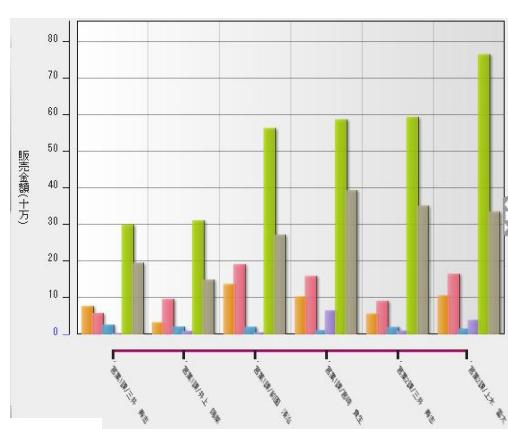


HINT この設定では「2011年3月受注の売上金額」を昇順に並べ替えます。

上のタブ「行」 「列」を選択することで、「行項目」で並び替えるか、「列項目」で並び替えるかを選択できます。また、その下の欄「現在の並び順」には、現在の状態が表示されます。



※変更前



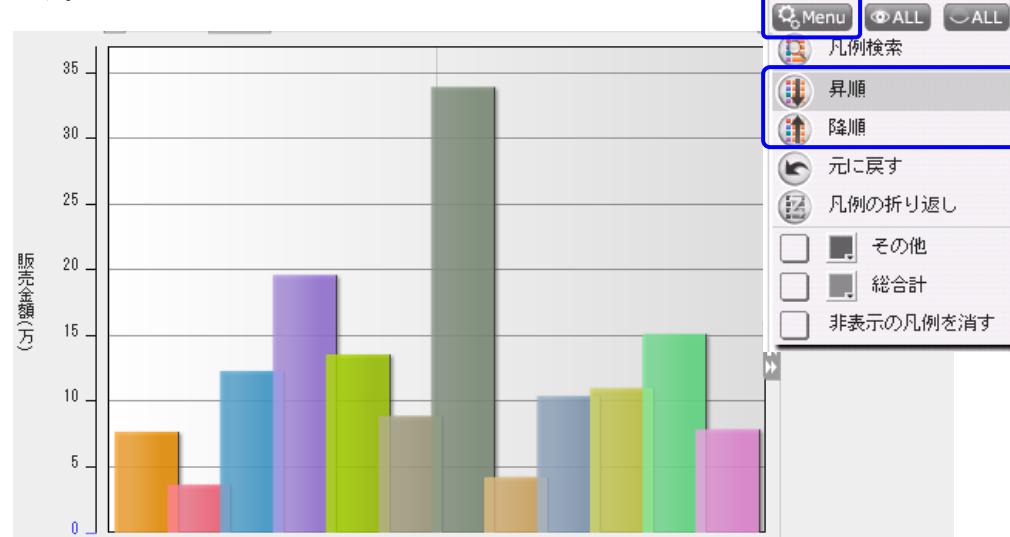
※2011年3月受注売上金額（黄緑）のみ昇順

9-2 凡例の名前順に昇順/降順に並び替えをする

凡例内では、初期値で文字列による昇順で表示されています。この並びは、文字列コードに従って、昇順/降順に並べ替えを切り替えることができます。

なお、チャートのデータは、凡例に表示されている順序に従って表示されます。

凡例の【Menu】をクリックして表示されるドロップダウンリストから、【昇順】、または【降順】を選択します。



HINT 凡例のデータをドラッグ&ドロップで任意の順に並び替えることも可能です。

■10 ドリルアクション

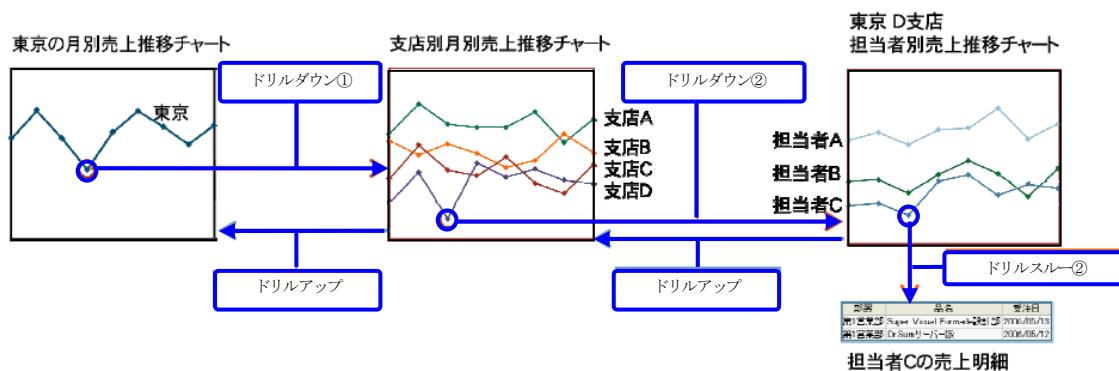
ドリルアクションは簡単なマウス操作だけで、より詳細に掘り下げたデータを表示したり、明細データを表示させたりする機能です。

ドリルアクションには次の3種類があります。

- *ドリルダウン…より詳細な項目に掘り下げたデータを表示します。
- *ドリルアップ…ドリルダウンして詳細データを表示させたのち、もとの要約したデータにもどします。
- *ドリルスルー…選択したデータポインタ（集計表の場合はセル）の明細表を表示します。

例えば、ある時期、ある地域の売上げが急激に減少したため、その要因を探りたいときなどに使用します。東京の月別売上チャートを見てみましょう。2011年3月の売上が大幅に落ち込んでいるとします（下図）。チャートの落ち込みの大きい2011年3月からドリルダウン（①）をし、支店別のチャートを表示します。その中で一番落ち込みの大きい支店をドリルダウン（②）して、担当者別のチャートを表示すると、売上が低迷要因となっている担当者を見分くことができます。

更に、もっとも売上の振るわなかった担当者の売上明細を確認したい場合は、ドリルスルー（③）をおこなうことで、明細データを確認することができます。



MEMO ドリルダウンをしたときに、1つ前にドリルダウンした結果に戻りたいときは、ドリルアップを行います。

10-1 詳細データを表示する（ドリルダウン）

チャートエリア上でドリルダウンを実行して詳細データに絞り込むことができます。

ドリルダウンをするには、次の手順で操作をおこないます。

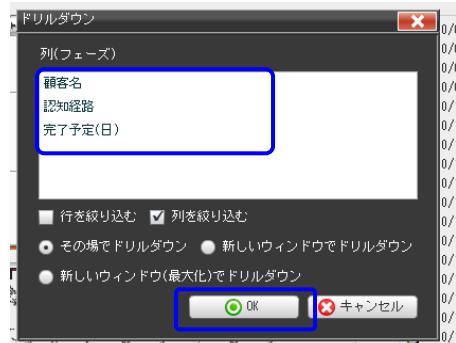
- 1 チャート上でいずれかのデータポイントを選択して[右クリック]して [ドリルダウン/ (営業担当者/フェーズ)] を選択します。



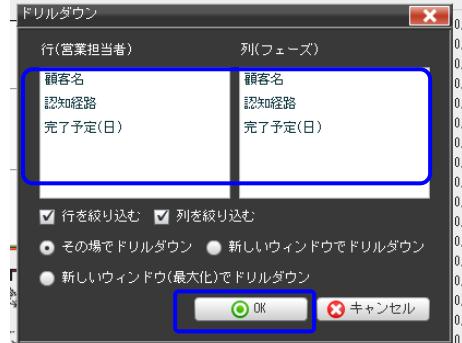
MEMO 行項目、または列項目のどの項目に対してドリルダウンするかを指定します。行項目と列項目両方にドリルダウンをしたい場合には「ドリルダウン」を選択します。

- 2 ドリルダウン項目の選択画面で、ドリルダウン項目（次に展開する詳細項目）を選択し[OK]をクリックします。

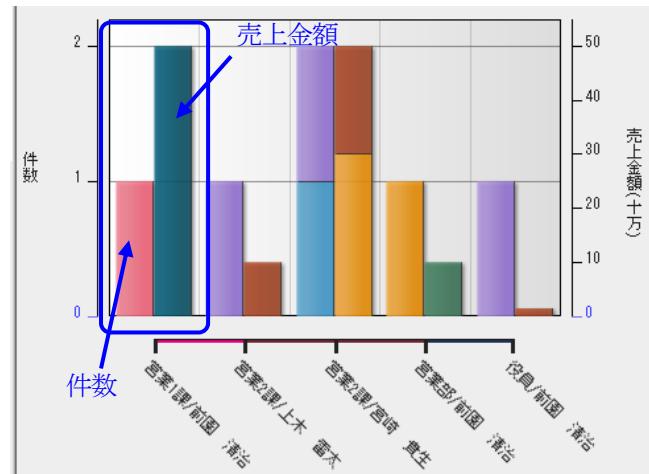
※ドリルダウン（フェーズ）



※ドリルダウン

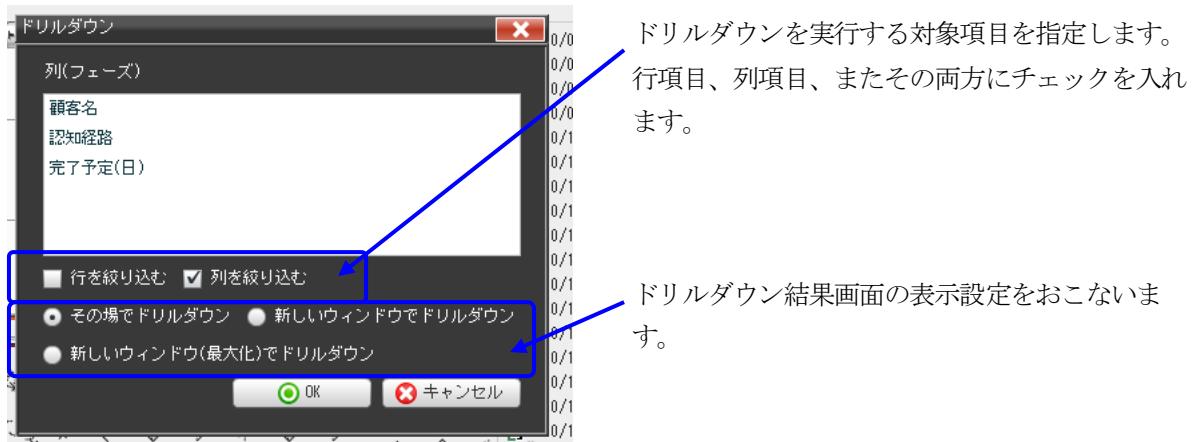


※下図は、2011年3月受注の営業担当者ごとの認知経路別売上/件数グラフを表示しています。



《操作方法》

- 1 ダッシュボードの[5 部署別]をクリックします。
- 2 プルダウンで[完了予定年月-2011 年 3 月]、[フェーズ-受注]に設定します。
- 3 データポイント上で[右クリック]をし、[ドリルダウン (フェーズ)]をクリックします。
- 4 「認知経路」を選択し[OK]をクリックします。



その場でドリルダウン：

現在のチャート画面にドリルダウンした結果画面を上書き表示します。そのため、ドリルダウン前のチャートと同時に表示することはできません。

新しいウィンドウでドリルダウン：

新しい画面に、ドリルダウンした結果画面を表示します。新しい画面は、ドリルダウン前のチャート画面と同じサイズです。ドリルダウン前のチャート画面が残るので、ドリルダウン前のチャートも確認することができます。

新しいウィンドウ（最大化）でドリルダウン：

新しい画面に、ドリルダウンした結果画面を表示します。新しい画面は最大化されて表示されます。

■ ドリルダウンの対象項目

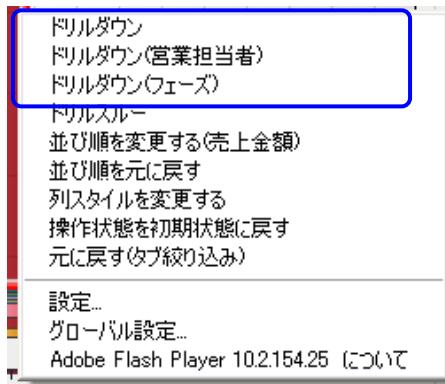
ドリルダウンをおこなう際に選択できるメニューには以下の3種類があり、それぞれ異なる [ドリルダウン] 画面を表示します。

* ドリルダウン… 行項目と列項目の両方に対しドリルダウンをおこなう

* ドリルダウン (行項目名) … 行項目に対しドリルダウンをおこなう

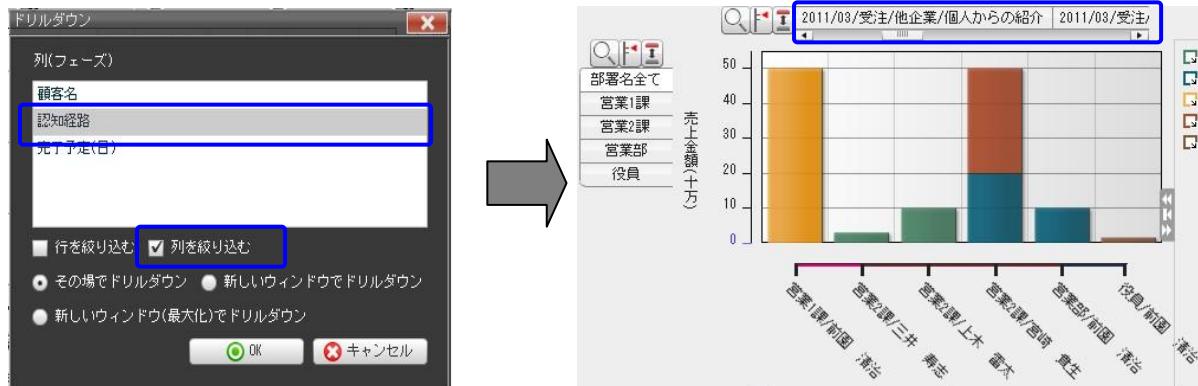
* ドリルダウン (列項目名) … 列項目に対しドリルダウンをおこなう

これらは、どこをポイントにして詳細データを表示するかを指定するための機能です。



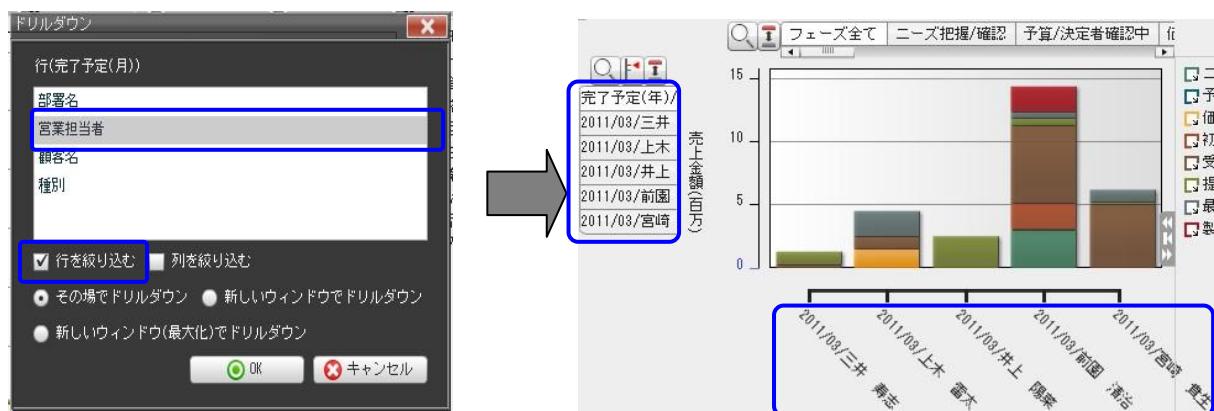
《列項目名を対象にした場合》 ※「5 部署別担当別分析」を利用。

フェーズ [受注] の内訳としてどのような認知経路の売上実績が高いのかを知りたい場合は、[ドリルダウン (フェーズ)] を使用し、列項目 (フェーズ) に対して [認知経路] を指定し、ドリルダウンを行います。



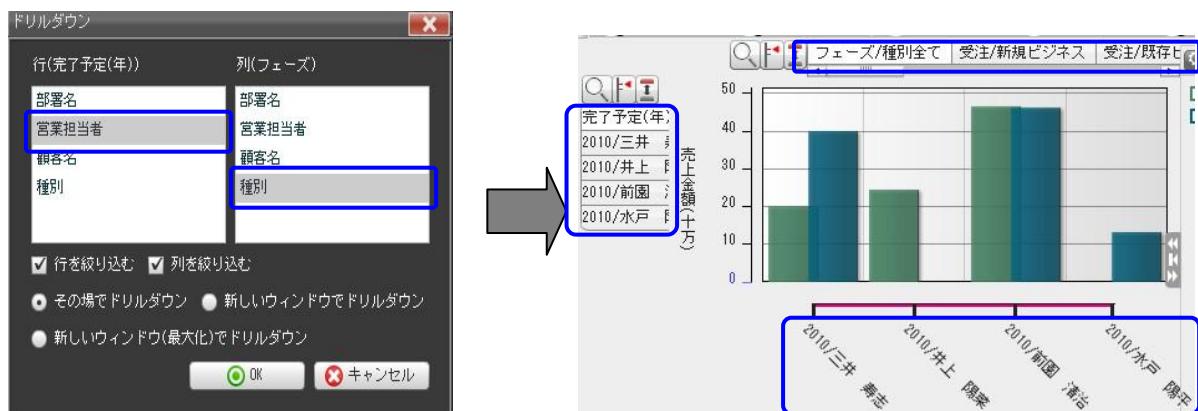
《行項目名を対象にした場合》 ※「1 受注見込分析」を利用。

月の営業担当者別売上予定金額を知りたいときには、[ドリルダウン (営業担当者)] を使用し、行項目 (完了予定 (月)) に対して [営業担当者] を指定し、ドリルダウンを行います。



《行項目と列項目を対象にした場合》 ※「2 フェーズ分析」を利用。

年間 (過去) の営業担当者別売上金額と、種別 (新規/既存) ごとの売上金額を知りたいときには、[ドリルダウン] を使用し、行項目と列項目の両方を指定します。行項目 (完了予定 (年)) に対して [営業担当者] 、、列項目 (フェーズ) に対して [種別] を指定し、ドリルダウンを行います。



10-2 要約データを表示する（ドリルアップ）

ドリルダウンをして詳細データを表示させたのちに、再び元のチャートを表示させたい場合は、ドリルアップを利用します。ドリルダウンの結果を別画面に表示させていた場合は、ドリルダウン結果と同じ画面上にドリルアップしたデータが表示されます。

- 1 チャートエリア、またはデータポイントで[右クリック]して「ドリルアップ」を選択します。



- 2 表示する要約データ行を選択し、[OK] をクリックします。

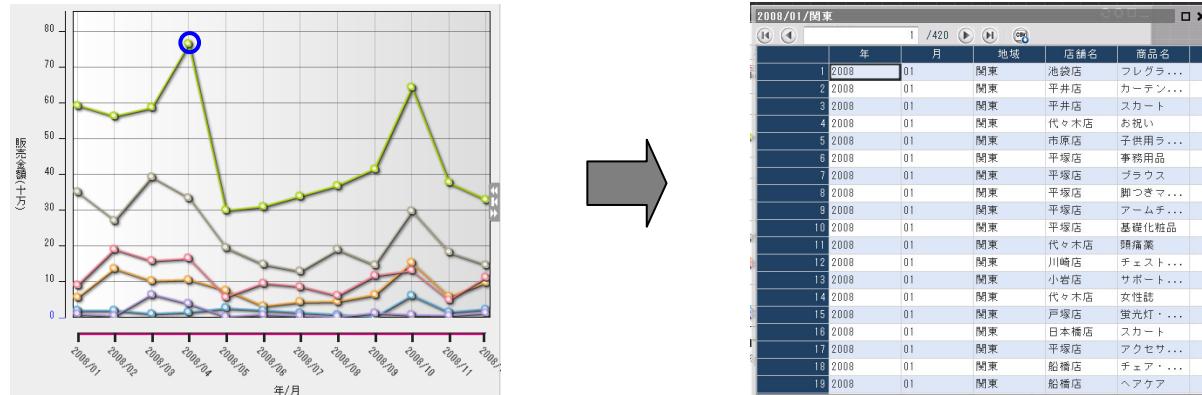


MEMO すでに選択したドリルダウンによって表示される行数が変わります。一行が1つのドリルダウンなので、複数のドリルダウンを実行したチャートでは複数の項目が表示されます。

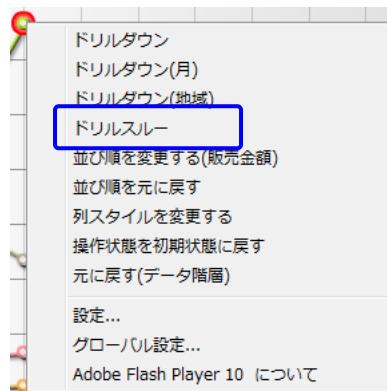
ドリルアップの場合、元チャートでデータ階層の変更やタブの紹込みをおこなっていたとしても、その状態のチャートに戻すわけではありません。例えば、列項目で「地域」—「店舗名」というデータ階層があり、初期状態では集計を「地域」でおこなっていたとします。そのチャートに対しドリルダウンをおこなった後で、ドリルアップするとは、列項目は「地域」ではなく、「地域」—「店舗名」のデータ階層すべてを集計したチャートを表示します。

10-3 明細データを表示する（ドリルスルー）

ドリルスルーを実行し、明細データを表示させることができます。



- チャート上でいずれかのデータポイントを選択して右クリックし、サブメニューから「ドリルスルー」を選択します。



- 明細表に含める項目に、チェックを入れます。



年	月	地域	商品大分類	商品名	販売金額
1 2009	01	関東	趣味・生活用品	ファイル	2309
2 2009	01	関東	ヘルス＆ビューティー	漢方薬	2199
3 2009	08	関東	スポーツ・アウトドア	スノーボード必需品	306
4 2008	03	関東	衣料品	スカート	3050

設定した行数を超えた場合は、明細データが1ページに表示する行数を超えた場合は、複数ページに分かれます。ページは、明細表画面の上部で移動することができます。

■11 チャートデータのダウンロード

チャートアイテムの画像をPNGファイルとしてダウンロードしたり、チャートデータをCSVファイルとしてダウンロードしたりすることができます。ExcelやWordなどのレポートを作成する際に、これらのファイルを貼りこむなどすることで、チャートを二次利用できます。

ダウンロードには、以下の2つの方法があります。

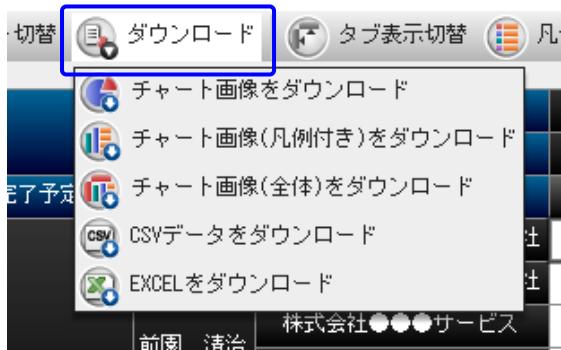
*チャートメニューからのダウンロード… チャート画像、チャートデータ（CSVファイル）のダウンロード

*集計表チャートからのダウンロード… Excel形式ファイルのダウンロード

11-1 チャート画像/データをダウンロードする

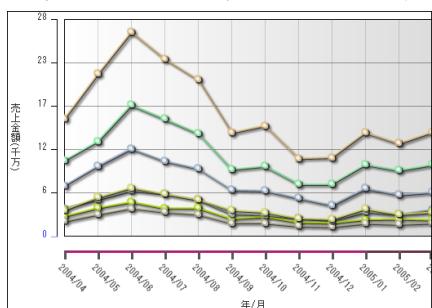
チャート画像は、異なるレイアウトで何種類かダウンロードすることができるので、画像使用の用途に合ったものを選びます。例えば、プレゼン資料の一部として使用する場合、凡例があれば、項目タブが必要ないということもあります。画像ファイルの形式はPNGのみです。

1 チャートメニューの[ダウンロード]をクリックし、サブメニューからダウンロードの種類を選択します。



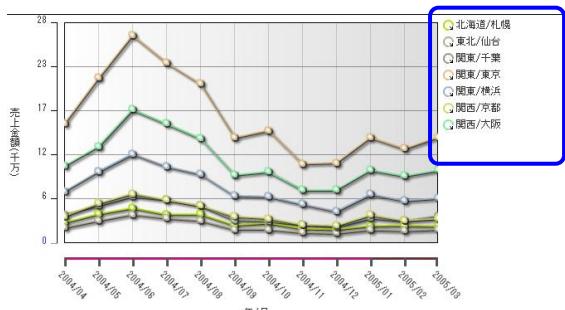
チャート画像をダウンロード：

チャートのみPNGファイルとしてダウンロードします。



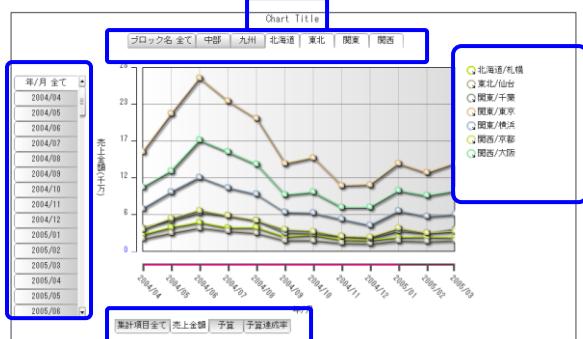
チャート画像（凡例付き）をダウンロード：

チャート+凡例をPNGファイルとしてダウンロードします。



チャート画像（全体）をダウンロード：

チャート+凡例+項目タブ+チャートタイトルをPNGファイルとしてダウンロードします。



CSVをダウンロード:

現在画面に表示されているチャートデータをCSVファイルとしてダウンロードします。非表示のデータは含まれません。

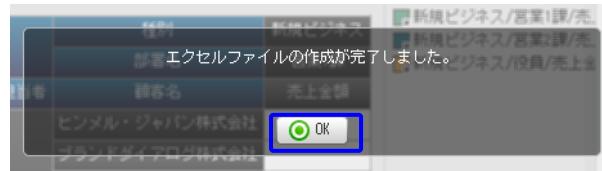
P1	年,月,地域,都道府県,売上額,数量
2	2006,1,関東,千葉県,103070000,140↓
3	2006,1,関東,埼玉県,138290000,211↓
4	2006,1,関東,山梨県,38220000,89↓
5	2006,1,関東,神奈川県,93947000,258↓
6	2006,1,関東,群馬県,22269000,83↓
7	2006,1,関東,茨城県,56927000,130↓
8	2006,2,関東,千葉県,81978000,105↓
9	2006,2,関東,埼玉県,115010000,137↓
10	2006,2,関東,山梨県,22760000,30↓
11	2006,2,関東,神奈川県,93830000,120↓
12	2006,2,関東,群馬県,38008000,99↓

EXCELをダウンロード：

「EXCELをダウンロード」を使用できるチャートは「集計表」のみとなります。

集計表チャートのセル上で[右クリック]し [Excelで保存] からもダウンロードは可能です。

1 エクセルファイルの作成が完了し、ダウンロード先の選択画面が表示されます。



2 保存先を選択し、ファイル名を入力した後、[保存] ボタンをクリックします。

